



サステナビリティ・レポート

CONNECT FOR IMPACT

2022



目次



01 会社概要

WAGOについて、事業内容、働き方

4-10



02 サステナビリティ

サステナビリティ・マネジメント、ガバナンス

11-22



03 ビジネスコンプライアンス

コンプライアンスと持続可能なサプライチェーン

23-28



04 リサイクル

循環経済、材料、資源節約および製品責任

29-40



05 環境保護

環境保護、エネルギー、物流

41-52



06 社会貢献

エンパワーメントと地域振興

53-57



07 ウェルビーイング

労働条件、トレーニングと継続的な教育、
多様性と平等な機会、労働安全衛生

58-73



08 GRI インデックス

実績と参考資料

74-78



(左から)クリスチャン・ザラ(CMO/CDO), カーステン・ストール博士(インターコネクション担当CTO), カトリン・フリッケ(CHRO), ハイナー・ラング博士(CEO), ユルゲン・クーピングレーベン(CFO)

**お客様各位、
WAGO社員の皆様、そして
これをお読みいただいている皆様へ**

今日では、企業のリーダーシップを発揮するには、一見すると相反するよう見える2つの目的を両立させる必要があります。WAGOは、持続可能な開発に積極的に貢献することが、業績の成長と同等に重要なモチベーションであると確信しています。この信念に基づき、WAGOはサステナビリティを企業ビジョンに含め、企業戦略に据えました。私たちはサステナビリティプログラム「CONNECT FOR IMPACT」を発動することで、2030年までに戦略を実行し目標を達成するための重要な一歩を踏み出しました。6つの中心的なトピ

ックの中の必須項目には、科学的根拠に基づいた気候変動対策および循環経済行動計画が含まれています。それらによって、私たちは気候変動を緩和するためのグローバルな目標を達成し、業界の循環経済の一助になりたいと考えています。私たちは、革新的で既存概念にとらわれない発想によりこれを実現します。求められる規制がますます複雑化していますが、私たちはこれを必要な改善を促す好機として捉えています。

目標の達成を目指す上で、成功を喜ぶだけではなく、課題を明確に認識する

ような透明で誠実なコミュニケーションを持ちたいと思います。このレポートは、私たちの目標を示すもののひとつでもあります。本レポートは、初めてGlobal Reporting Initiative (GRI) の国際報告基準に従いました。そのため、持続可能性基準に関するWAGOの実績をその水準に照らして比較できるようになっています。

WAGOは2つの立場を担っています。影響力があるという意味では幸運ですが、同時に責任も大きいと感じています。私たちは、お客様のエネルギー使用における効率的な制御と資源の節

約をサポートするソリューションプロバイダーとして、エネルギーと建築分野の変革を促進し、エネルギー転換の実現に貢献します。しかし当然ながら、エネルギー効率を高め省資源を実現するためには、私たちのプロセスや製品を見直し、適応させ、または転換する必要があります。いくつかの分野で、この取り組みは成功しています。例えば、2022年にWAGOは、業績の成長を達成しながらCO₂排出量および消費資源を減らすことに成功しました。WAGOワンタッチコネクタ221シリーズは、主にリサイクル資源やバイオマス原料を使用しているため、従来品に比べてCO₂排出量を大幅に削減したサステナブルな製品です。しかし残念ながら、プラスチックなどの100%リサイクル資材をWAGOの製品全てに使用することはできていません。私たちは、自社製品が最終的にどのように使用されるのかの透明化に取り組んでいます。

WAGOは多くの課題に直面しています。2022年には、他の製造業者と同様にエネルギーコストが急増しました。また、インフレによる物価上昇の影響もあり、特に原材料や電子部品に影響が出ました。しかし長年築き上げたサプライヤーとの協力関係と、当社の生産材料の大部分はヨーロッパから調達しているおかげで、度々起こる世界的なサプライチェーンの混乱の影響は比較的小さく済みました。

WAGOは社員なしでは目標を目指し課題を乗り越えることはできません。だからこそ、私たちが従業員にインスピレ

ーションを与えられる企業であり続けること、そして世界中で新しい才能とともに働き続けることが、これからの数年間で極めて重要となるのです。

私たちが望むのは、単に利益を上げることだけではありません。WAGOは、革新的なパートナーとして製品やソリューションによって大きな変化をもたらし、社会の一員として未来を築いていきたいと考えています。そのために、私たちは常に優れた接続技術を基礎にして開発を続けています。

WAGO経営者一同



01 会社概要

WAGOについて

WAGOはインターコネクション、オートメーション、エレクトロニクス、インタフェース製品およびソリューションの革新的なグローバルサプライヤーです。WAGOは、1951年にねじなしスプリング端子台の特許を取得したことから始まりました。2本の電線を素早く、確実に、高品質に接続できるWAGOの端子台は、今日の接続技術のグローバルスタンダードになっています。

WAGOの端子台は世界中で市場をリードしており、毎月1億個以上の製品を生産しています。これらは代理店を通じて電気機器メーカーに、またはホームセンターなどでも購入できる製品も含まれます。

WAGOの製品群は非常に幅広くラインナップされています。データとエネルギーは、今日の世界で不可欠なインフラとな

っています。この状況は将来も続くでしょう。私たちは、この基盤が長期的に機能することをサポートしたいと考えています。私たちの製品とソリューションの市場や用途は幅広く、産業界だけでなく、電力、鉄道、船舶、建築、照明などの各分野も含まれます。これらは安全性、効率性、責任ある発展を必要とする分野です。私たちは、特にエネルギー分野における変革を促進し、エネルギー転換の成功に貢献したいと考え

ています。私たちはエネルギーの効率的な利用の計画、制御、資源の節約を実現するソリューションプロバイダーとしてサポートします。





4つのビジネスユニット、 数え切れないほどのソリューション

インターコネクション製品

WAGOはスプリング式接続技術により、ジョイントボックス、プリント基板、制御盤など、あらゆる電気設備に対応する製品を提供しています。簡単で安全、そしてメンテナンスフリーでご使用いただけます。

インタフェース・エレクトロニクス製品

現場と制御レベルのインタフェースで、高い効率性、使いやすさ、当社製品とのシームレスな統合を行えることが特長です。電源供給、保護、計測、分配、信号とデータの計測、変換、送信、機器

とコントローラーユニット間の通信などを行えます。

オートメーション製品

WAGOのオープンなオートメーションプラットフォームは、お客様に合わせたソリューションを提供します。柔軟で設計者にとって使いやすいこと、センサレベルからクラウドまでのデータ通信を可能にし、厳しい条件下でも信頼性が高いなどの利点があります。

ソリューション

WAGOのソリューションビジネスは、お客様個別の要求に対応します。コンサルティングからソリューションの実現まで、トータルでサポートします。WAGOは、ハードウェア、ソフトウェア、サービスすべてをアプリケーションソリューションとしてご提供します。イノベーションとサステナビリティは、多くの産業で資源保護、省力化、コスト削減を実現するための基本となるものです。

»WAGOは、サステナビリティ、安全、高い技術、そして人材に投資しています。これはWAGOの成功への鍵であり、お客様の成功を支える鍵でもあります。«

スヴェン・ホホルスト | 執行役員 兼 諮問委員

WAGO製品およびアプリケーションの採用実績



プラント設備

WAGO製品は、プロセス産業で最も厳しい条件が求められる生産設備の各条件を確実に満たし、防爆用途に幅広く対応できます。



製造業

WAGOは、装置メーカーの制御盤における電気機器のパートナーです。その幅広い製品群は、電線接続技術からクラウド通信まで多岐にわたります。WAGOは、端子台、制御盤用電気機器、オートメーションおよびデータ記録、生産システムのデジタル化、モジュール化などを提供します。



船舶およびオフショア

WAGOのソリューションには高い信頼性と多様性があります。推進力制御からキャビンオートメーションまで、WAGO製品はあらゆる船舶用アプリケーションに使われています。さらに、WAGO製品は、船舶用システムに必要なすべての船級規格の認証を取得しています。



鉄道

WAGOは1977年以来、電線接続技術からインタフェースモジュール、オートメーションソリューションまで、鉄道に関連する多くの製品を提供してきました。WAGOの製品と技術は、世界中の鉄道、鉄道インフラ、鉄道駅、信号ボックス、電子信号などに実績があります。



パワーエンジニアリング

発電から配電、蓄電まで、WAGOは電気エネルギー、ガス、水、暖房、スマートグリッドに関連した企業のニーズを満たす、電線接続技術や監視、制御およびオートメーション技術のソリューションを提供しています。



ビルディングソリューション

WAGOは電線接続技術およびビルディングオートメーション用の優れた製品およびサービスを提供します。電気設備技術、ルームオートメーションと設備、照明制御、エネルギーデータ管理、HVAC技術などのソリューションを提供します。



照明用設備

WAGOは、LEDモジュールとドライバの接続技術・照明接続・照明管理のオートメーション技術のソリューションを提供します。SMDモジュール、プリント基板用端子台、WINSTA®プラグイン接続システム、照明接続技術、照明器具の電源接続端子などをご用意しています。

»私たちは、主力の事業だけでなく、お客様のエネルギー使用計画と効率的な管理、プロセスのリソース節約をお手伝いするソリューションプロバイダとして発展したいと考えています。«

ハイナー・ラング, CEO

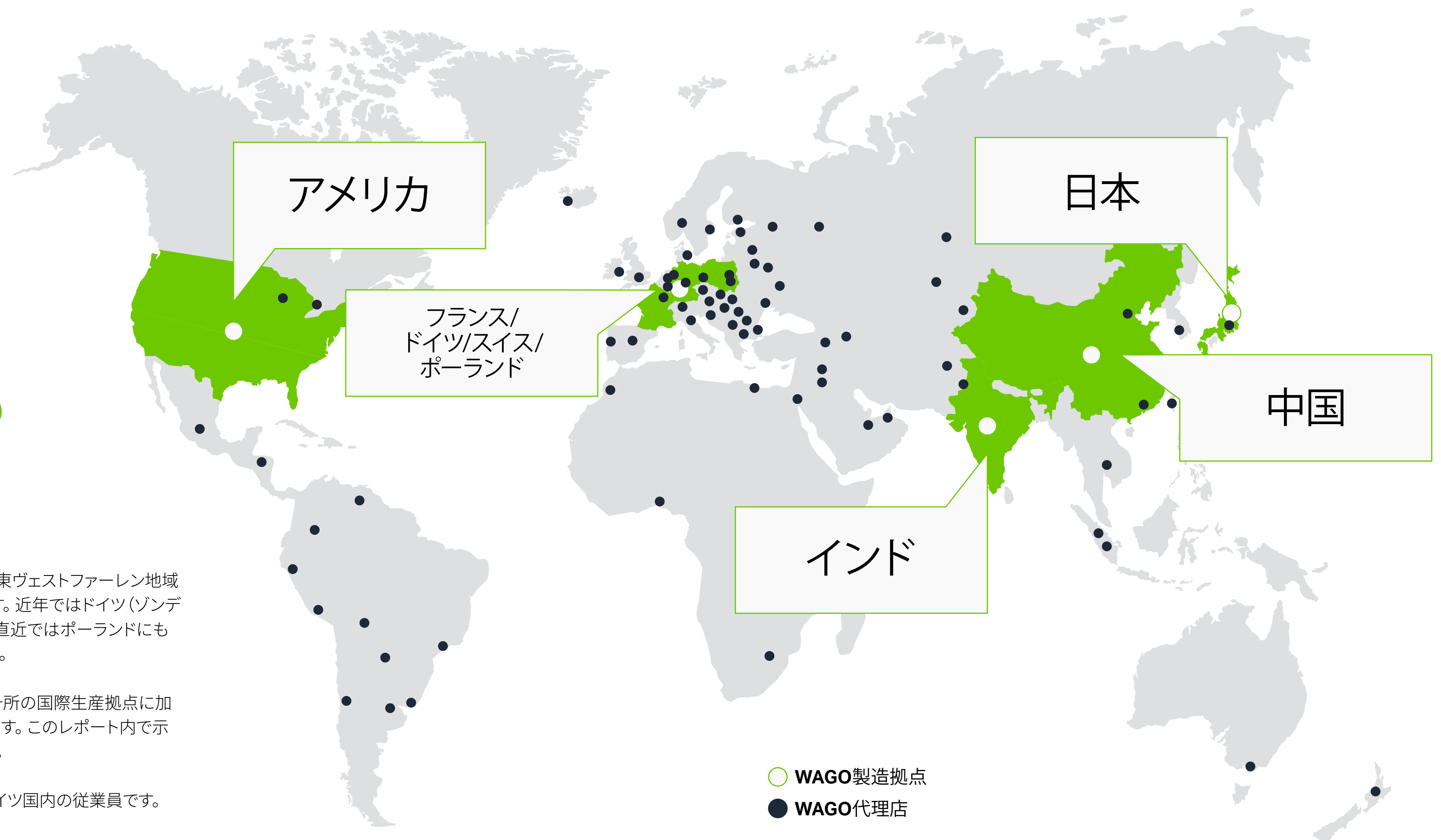
グローバル市場での 成功と歩み

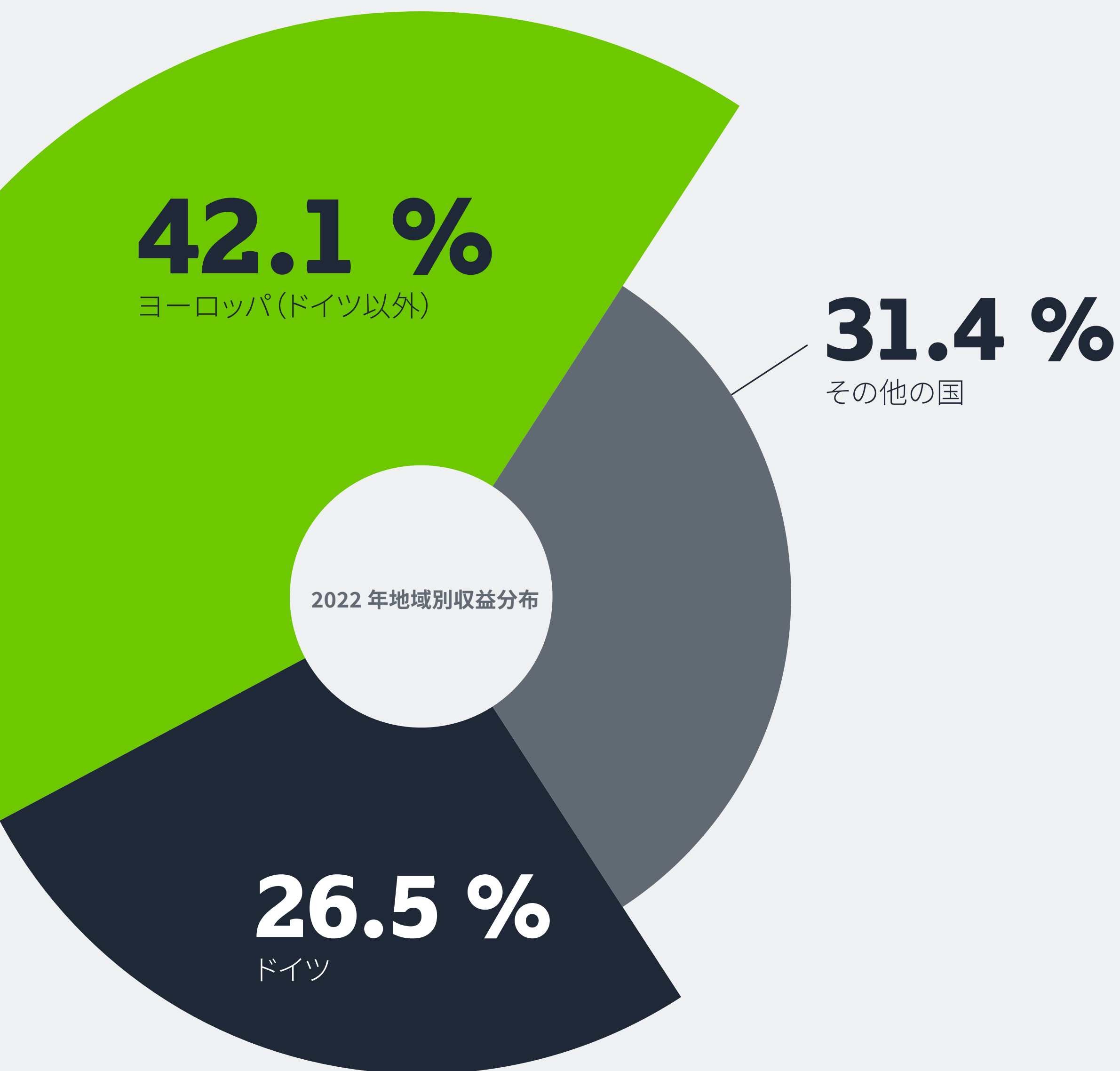
ー 70年以上の歴史

WAGOは1951年にノルトライン=ヴェストファーレン州の東ヴェストファーレン地域にあるミンデン市で設立され、ここに本社を置いています。近年ではドイツ(ゾンデスハウゼン)、フランス、スイス、米国、日本、インド、中国、直近ではポーランドにも生産拠点を有する、持続可能かつグローバルな企業です。

ミンデンの本社およびゾンデスハウゼンの工場を含む8ヶ所の国際生産拠点に加えて、22の販売会社および80カ国以上に代理店があります。このレポート内で示されている数値は、WAGOの生産拠点におけるものです。

WAGOの従業員は世界で約9,000名、うち約4,200名はドイツ国内の従業員です。





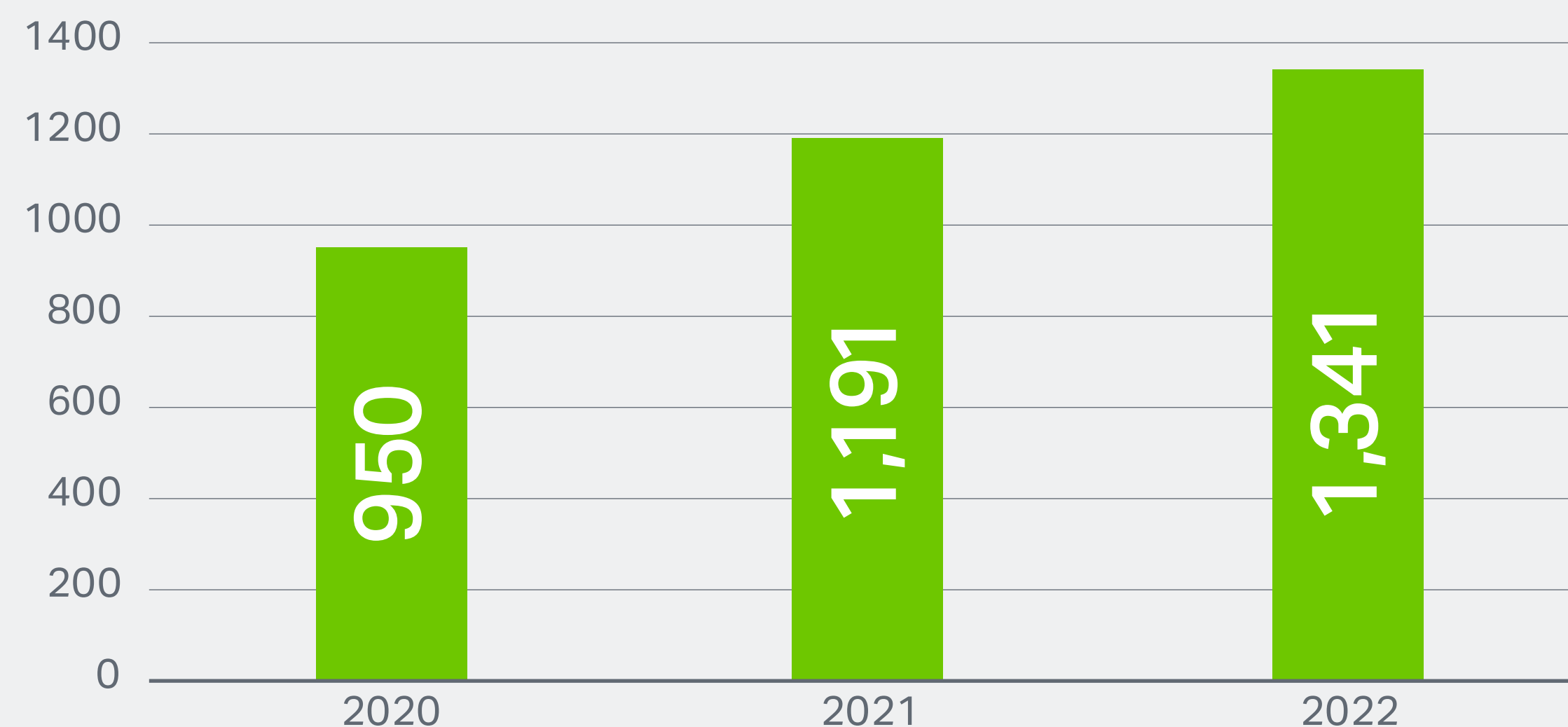
2022年の年間売上高は13億4千万ユーロで、前年に比べ13%の増加となりました。国内外の市場で成長を続けています。売上げの約3分の2はドイツとヨーロッパです。残りの3分の1はアジアとアメリカ大陸およびその他世界各国です。
WAGOは世界80カ国以上で製品とサービスを提供しています。

私たちは世代を超えて考え、未来を切り拓く役割を担っていきたいと考えています。これを達成するため、私たちは独自の接続技術で、重要なインセンティブと適切なソリューションを提供します。

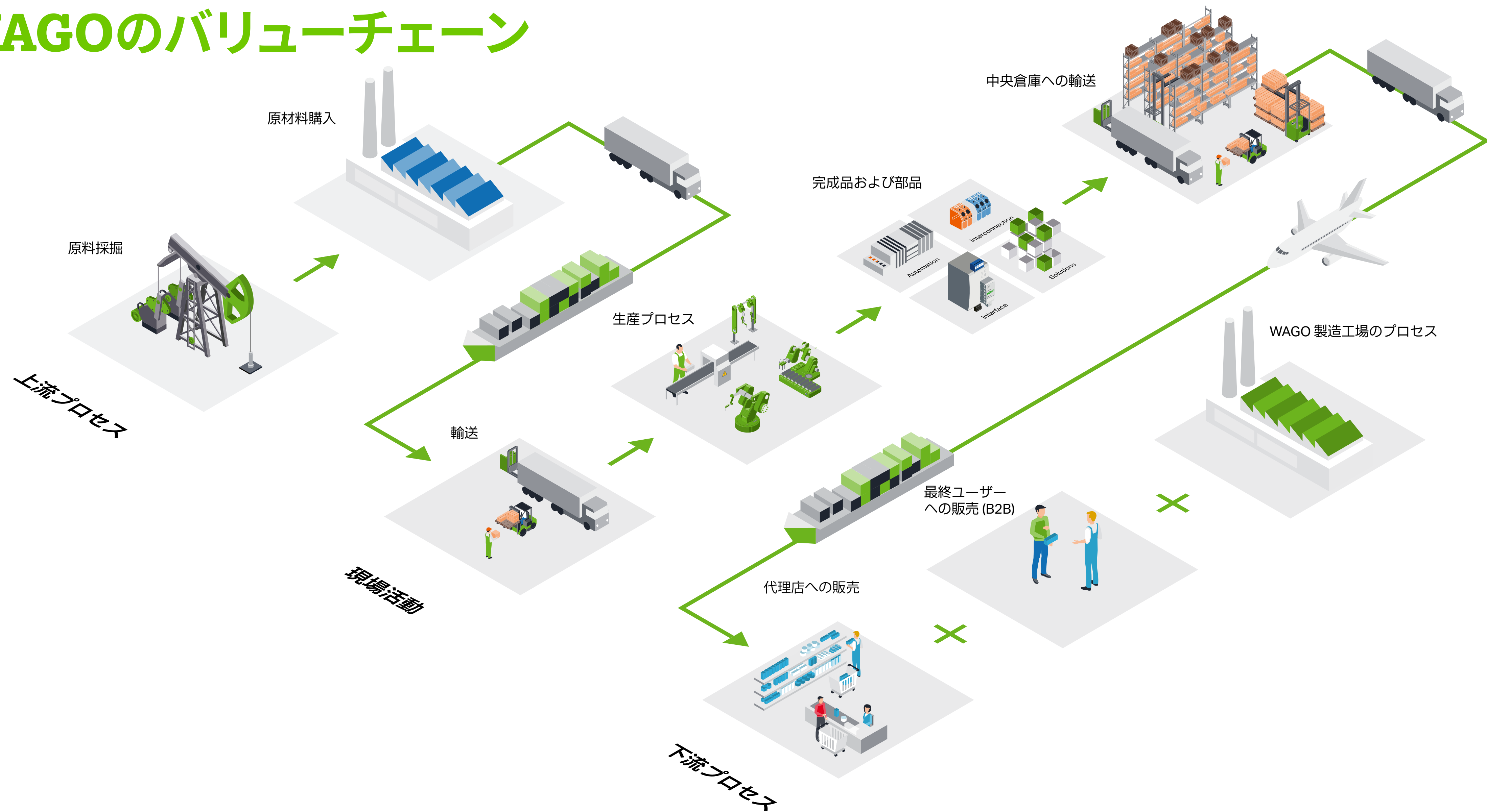
WAGOがビジョンを実現するたために行っていること：

WAGOは、サステナブルでネットワーク化された社会を支えます。

WAGOグループ売上 (単位：百万ユーロ)



WAGOのバリューチェーン





02 サステナビリティ

情熱をもって エネルギーを つなぐ

ー サステナビリティへの取り組み

WAGOは、持続可能なビジネスは長期的な成功の基本であり、企業責任に欠かせない要素であると確信しています。家族経営でありながらグローバル企業へと成長した当社は、何十年もの間この信念を貫き、それに従って行動してきました。より持続可能な経営を目指すという目標の重要性を強調するため、私たちは企業ビジョンも変更しました。

ビジョン

持続可能でスマートな社会のバックボーンを目指す

ミッション

つながりに力を与える

企業目標

WAGOの全ての意思決定にサステナビリティを

サステナビリティは企業戦略に不可欠であり、意思決定プロセスの重要な基準とする必要があります。企業戦略は、WAGOが将来にわたって成長し、価値を提供し続けるために策定されます。サステナビリティは重要な成長の原動力でもあるのです。私たちは長期的な視点を持ち、永続的な価値を生み出したいと考えています。また、より良いソリューションを開発し変革を促すために、現状に疑問を投げかけなければなりません。次のページから始まるWAGOのサステナビリティプログラムは、このビジョンをどう達成するかを示しています。

また、私たちはサステナビリティというトピックを取り巻く政治的・社会的議論の重要性が近年増してきたことを認識しています。国内外それぞれに向けた目標が私たちの方向性を決め、WAGOの計画や判断に影響を与え

ています。様々な規制はサステナビリティ活動を促すものと捉え、私たちは社内外ともにサステナビリティを推進していきます。規制に従い目標を達成することだけを目指すのではなく、可能な限り自ら率先して実施したいと考えています。そのため社内の意見だけでなく、社外のルールやグローバルなイニシアチブも尊重しています。



サステナビリティに関する管理システム

取得済認証

認証取得済 WAGO 拠点

ISO 9001
(品質)

ドイツ、スイス、ポーランド、中国、イギリス、インド、フランス、日本、アメリカ

追加品質基準：
ISO 22163/IRIS

ドイツ

ISO 27001
(情報セキュリティ)

ドイツ

ISO 14001
(環境)

ドイツ、スイス、ポーランド、中国、インド

ISO 50001
(エネルギー)

ドイツ、ポーランド、中国

ISO 45001
(労働安全衛生)

中国、インド

SA 8000
(社会的説明責任)

中国



WAGOの 持続可能性プログラム

ー 全ての基本となるもの

将来的に社内のサステナビリティをさらに運用・管理しやすくするために、私たちは2021年にサステナビリティ・プログラムの開発を始めました。この戦略的プロセスの一環として、インサイド・アウト（社内から社外へ）とアウトサイド・イン（社外から社内へ）の両方の視点を取り入れた包括的なサステナビリティ分析を行いました。



インサイド・アウトの視点：WAGOの事業活動および取引関係、ならびに製品およびサービスに関連する影響



- 環境**
- » ビジネスエコロジー
 - » 電力消費
 - » 製造（エネルギー、水）
 - » サプライチェーン
 - » 輸送（製品）
 - » 包装
 - » 製品（カーボンフットプリント）
 - » 光害
 - » 循環経済
 - » 製品の信頼性
 - » 製品の耐久性



- 人権**
- » サプライチェーン
 - » 製造



- 汚職 / 贈収賄**
- » コンプライアンス
 - » 取引関係
 - » 製造（WTOリスク国）

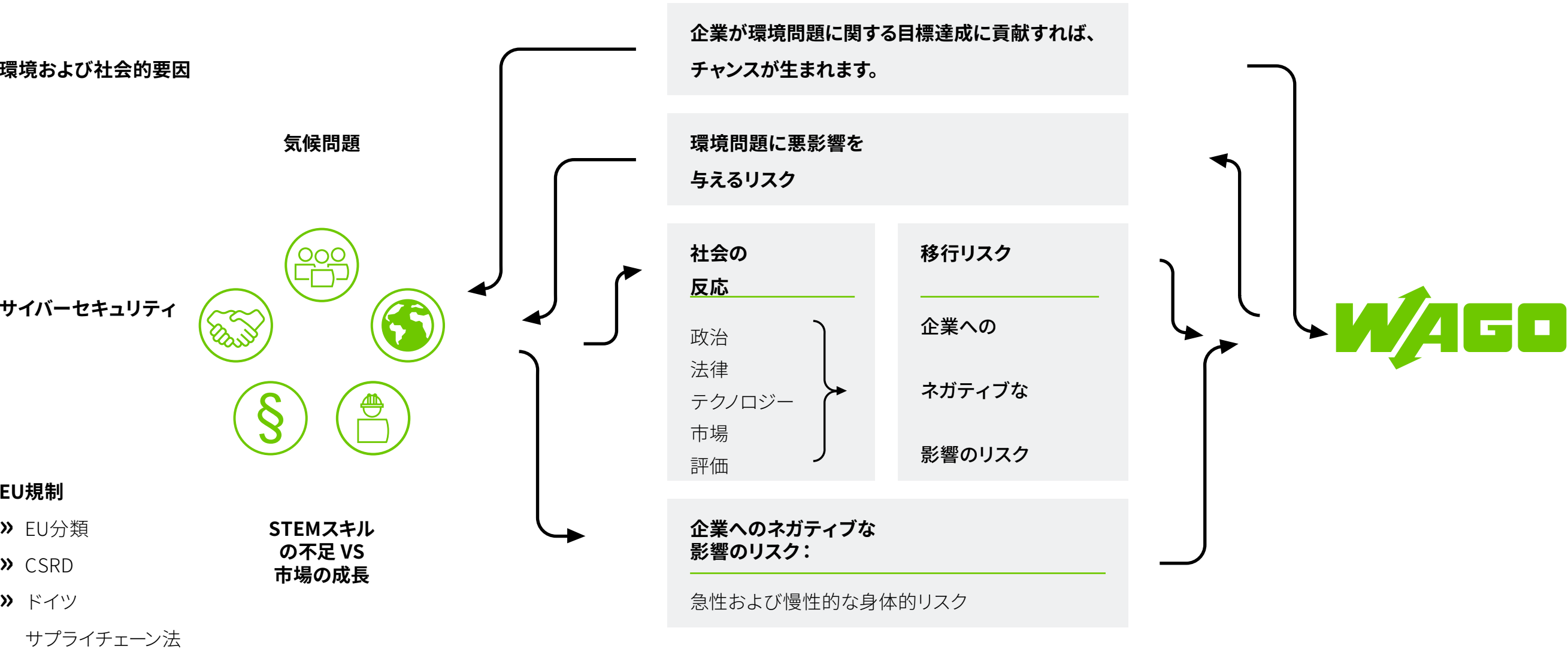


- 従業員の権利**
- » 女性の活躍推進
 - » 多様性
 - » 反差別
 - » 研修
 - » サプライチェーン
 - » 製造



- 社会へのコミットメント**
- » 資金拠出の透明性
 - » コミュニティへの参加

アウトサイド・イン：WAGOにマイナスの影響を与える可能性のある外部要因



私たちの事業活動や取引関係が環境、社会、人権にどのような影響を与えているか、また逆にサステナビリティ要因がWAGOにどのような影響を与えているか、という観点から、社内外のステークホルダーとの対話を行いました。1,650人にオンラインアンケートへ協力いただき、WAGOのサステナビリティに関連して特に重要だと考える部分と、この点に関する当社の業績に関してどのように評価しているかを回答いただきました。さらに50名に対し、個別面談およびグループ面談を実施し、より詳細なヒアリングを行いました。このプロセスには、ZVEI の他の企業とともに協会レベルのワーキンググループの一員として作成した「電気産業における持続可能な発展のための手引き」と、そのベースとなる分析も組み込まれています。国連が掲げる17の持続可能な開発目標 (SDGs) のうち、その産業がどの目標の達成に向けて貢献できるかを明らかにしました。その結果、マテリアリティ・マトリックス (前ページ参照) が作成され、持続可能性プログラムの中のどの項目を優先的に目指すかを定める目安になりました。

その後の包括的なプロセスにおいて、私たちは環境、社会、ガバナンスの各側面における6つの主なトピックを定義しました。それは本レポートの主題ともな

っています。私たちはサステナビリティという概念全体の推進を目指してはいますが、特に効果的な目標を絞って注力したいと考えています。また、サステナビリティは私たちが協力し合うことによってのみ成功しうるものだとして認識しています。これを実現するためには、誰もが自分の強みを発揮する必要があります。その強みを組み合わせることができれば、革新的なソリューションが生まれます。持続可能な未来への道を歩む上で、私たちは自分自身をより大きな社会の一部として捉え、特にエネルギー転換に貢献したいと考えています。

ポジティブ インパクト*の高い可能性



ポジティブ インパクト*の可能性



潜在的なネガティブ インパクト*を緩和する責任



*ここで言う「インパクト」とは、持続的発展への積極的な貢献とそれを妨げる可能性のある要因の両方を指します。出典: ZVEI e.V.

2023年以降も、サステナビリティプログラムは発展し続けます。私たちは包括的なサステナビリティコントロールをさらに発展させ、サステナビリティ活動の影響を測定・評価し、その優先順位付けや管理を行えるようにしています。ここでいう発展とは、当プログラム内での独自の活動範囲を表しています。WAGOは、サステナビリティが状態ではなくプロセス

であることを十分に認識しています。このため事業の計画や進捗だけでなく、直面している課題についても透明性をもってコミュニケーションを取ることが重要と考えます。現在も自主的に行っているサステナビリティレポートも、この目的に沿ったものです。

指針：透明性と対話

WAGOは2012年から「国連グローバル・コンパクト」に加盟しており、その後も毎年サステナビリティ活動に関する報告を行っています。2017年には、GRI指標を含むドイツサステナビリティコード(DNK)の要求事項に準じた独自のサステナビリティレポートを初めて発行しました。2022年度は、初めて「グローバル レポートینگ イニシアチブ」(GRI)の国際基準

に完全に準拠しての発行となります。WAGOは全社的な統合報告に向けて取り組んでおり、特に2026年より適用開始となるEU全体の報告義務化に向けて準備を進めています。

サステナビリティ プログラム

環境

循環経済

循環経済をプロセスに取り込むことで、限りある資源の活用に日々努めています。

気候変動への取り組み

WAGOは科学に基づいた環境目標の達成を目指し、温室効果ガスの排出やその他の環境への負の影響を減らすために常に取り組んでいます。

社会的コミットメント

認識と参加

持続可能な未来を目指すには、私たちが共に働く必要があります。そのために、従業員と共に、社会的コミットメントの強化に努めます。

健康と幸福

WAGOは従業員の健康と安全に焦点を当て、多様で包括的な文化を推進しています。

ガバナンス

サステナビリティブランディング

WAGOはサステナビリティに対する意識を高め、WAGOの取り組みを公開しています。

責任とコンプライアンス

WAGOは法的要件を満たし、サプライチェーンで期待される範囲を超えて、責任を自覚して積極的に行動します。



2030

WAGO サステナビリティ組織

ー 共にゴールを目指す

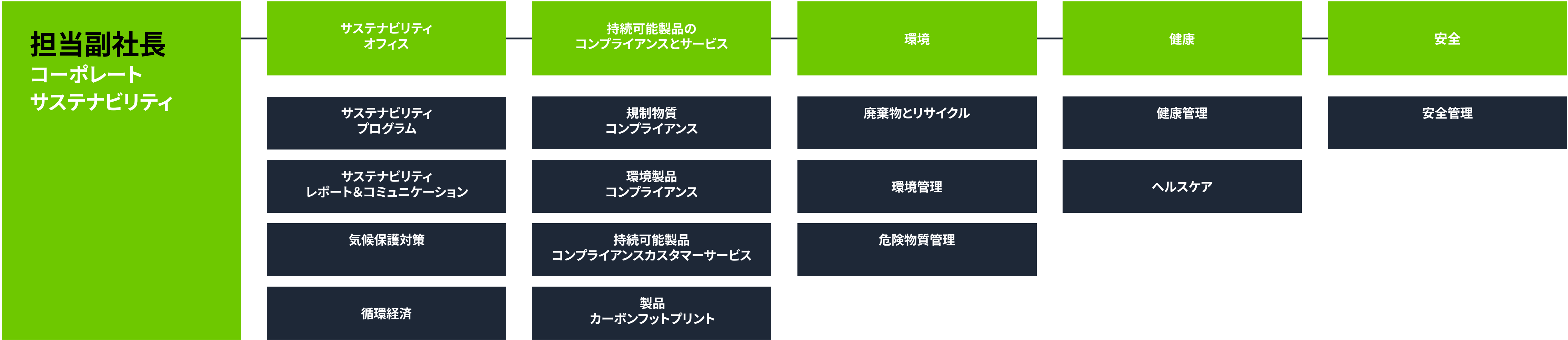
WAGO取締役会は、サステナビリティ戦略の調整および運用に関する権限と責任をCSR部門に移譲しました。本レポートの発行およびサステナブル・プロダクト・コンプライアンスとサービスを担うサステナビリティ・オフィス、さらに環境、健康、安全の3つの業務部門から構成されています。この部門は取締役会に直属しています。部門のリーダーはCHROに報告し、また、サステナ

ビリティに関する開発案件は一部を直接、その他を取締役会経由で諮問委員会に定期的に報告しています。また、運営委員会は取締役員で構成され、戦略的に重要な意思決定に関して幅広いコンセンサスが保証されます。例えば、すべての管理部門がWAGOの持続可能性プログラムに関する策定に関与しています。運営委員会の機能と義務の詳細については、ガバナンスの

項目 (19ページ) を参照してください。

»WAGOは、サステナビリティを企業の意思決定に欠かせない要素にすることを目指しています。影響力があり、かつ誠実で透明な取り組みは、私たちにとって特に重要です。«

カトリン フリック, CHRO



約30名の従業員（インターンを含む）がサステナビリティチームで働いています。その他の活動でも、エネルギー管理、企業分析、技術サービス、購買など、関連する問題を扱う他分野の同僚と緊密に連携しています。持続可能性プログラム管理体制の開発は今も進行中です。WAGOの企業戦略とプログラムで定義した目標は、すべてのWAGOグループ会社に適用されます。そして持続可能性を世界的に促進すべく、予算計画を通してグループ各国に伝えられます。現地の状況にも対応できるよう、ドイツ、ポーランド、中国、インド、スイスの主要生産拠点に、持続可能性に関するさまざまな問題を担当する担当者を置いています。

コーポレート サステナビリティ部門が、法務部門や財務 経理部門内の監査担当社員などと緊密に連携して行うもう一つの重要な責務は、EUタクソノミー、ドイツ・サプライチェーン法（LkSG）、企業サステナビリティ報告指令（CSRD）などの新しい法的要件や今後の法的要件の検討と準備です。ここでは通常は分析と評価を行い、状況により必要な行動を策定します。

例えば、2026年からは2025に遡ってEUタクソノミー規制の報告対象となるため、関連プロジェクトを開始しました。プロジェクトの第一段階では、タクソノミーの準備とコンプライアンスを評価し、その後、データ管理、タクソノミーのテストプロセスの定義、クライアント側でのEUタクソノミーの報告と分析を行います。しかし、売上トップ10製品

に基づく初期調査によると、売上高で測定される当社の経済活動の大部分は、EUタクソノミー規則および関連するタクソノミー コンパスにまだ掲載されていません。というのも、当社の製品はあらゆる用途をカバーしているため、規制に従って経済活動に明確に割り当てることができない場合があるためです。



**WAGOは一步步、時代の課題に取り組んでいきます。
「サステナビリティ」を掲げるだけの時代は終わりました。
今や企業にとって必要不可欠な目標です。《**

アストリッド ブルシェル（コーポレート・サステナビリティ副担当）

共通の目標のための 明確な枠組み

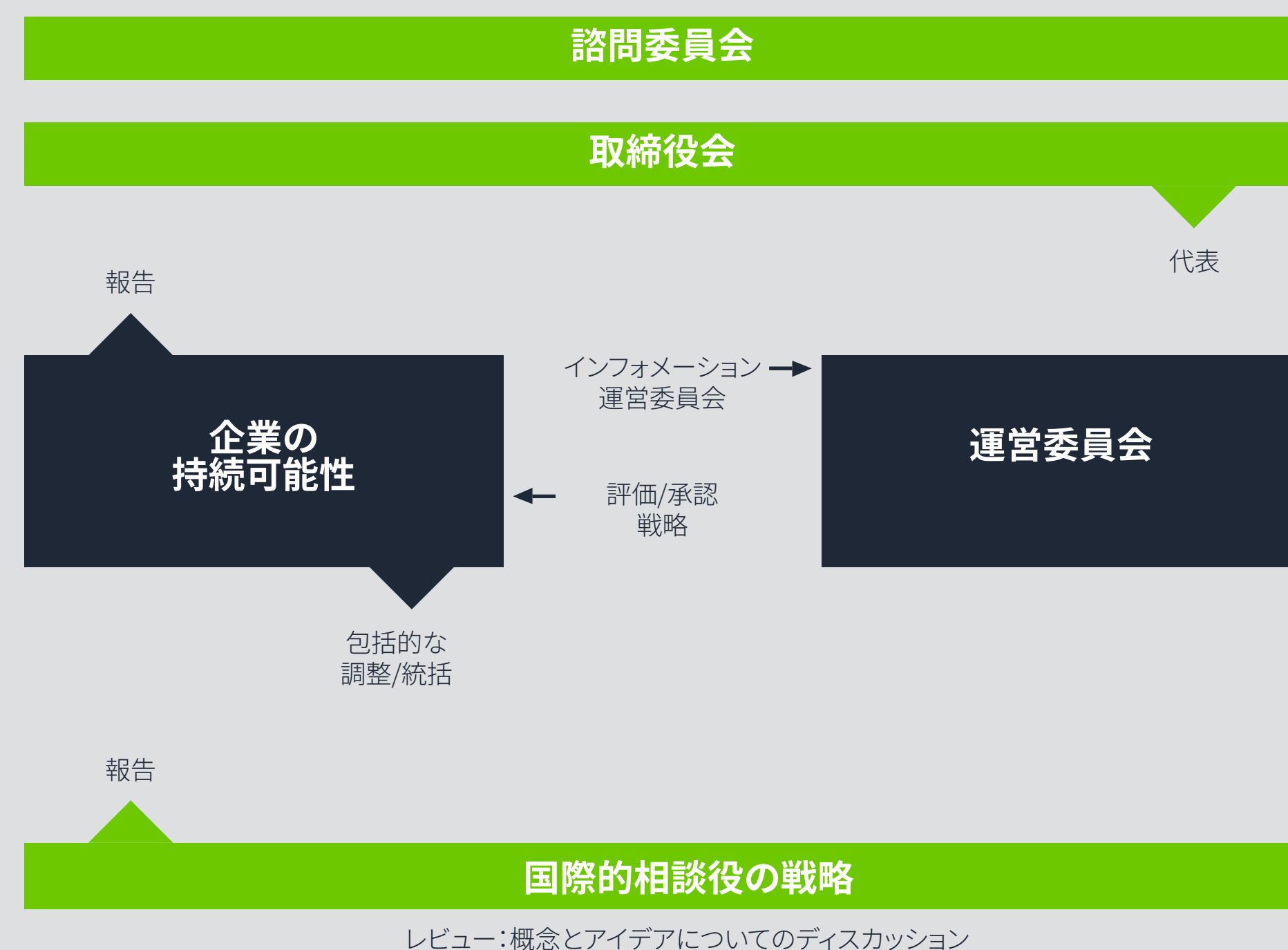
ー WAGOのガバナンス

リスクとチャンスを認識し、大きなトレンドを予測し、企業の責任を受け入れる先進的な企業経営は、私たちを成長させる基礎の一つです。WAGOは、価値と歴史を持つ3代目の家族経営会社であると同時に、革新的なエネルギーと創造的な行動力によって、急速に変化する市場の形成に貢献するグローバルなエキスパート・カンパニーでもあります。WAGOの組織、プロセス、管理体制はこのような目標を反映し、効率的な意思決定を行いWAGOの社員に創造性を発揮する余地を与えるよう努めています。WAGOは従業員に対し、定められた責任の範囲内で、企業戦略と企業価値を尊重しながら自主的な行動を取るよう求めています。

私たちのビジョンとミッションの実現を目指すために、私たちはバリュー・チェーン全体を通じて長期的な視点に立ったガバナンス体制を構築しています。なぜなら、サステナビリティは皆の協力によってこそ成功できるからです。経営陣の責任とコミットメントは、全ての社員のコミットメントとアイデアと密接に関連しています。



WAGO サステナビリティ 管理組織



企業経営

ー 委員会およびガバナンス

WAGOの株主は、WAGOの設立者の家系から現在も引き継がれており、最高ガバナンス機関として諮問委員会にも名を連ねています。取締役会は6名のメンバーで構成され、そのほとんどはWAGOで長年にわたり従事してきました。諮問委員会は、戦略的な諮問能力を持っています。四半期ベースで開催され、その会議とその結果の決議は議事録に記され、その効果は定期的にレビューされます。さらに、予期しない重大なイベントが発生した場合、または重大な懸念が深刻になった場合は、臨時会議を開催することもあります。

諮問委員会は6名の委員で構成され、3名の委員は株主から、あとの3名は外部の代表から選ばれます。議長は外部の代表から選出し、委員会の中立性を保証します。委員はさまざまなサステナビリティのトピックに精通しており、また、デジタルトランスフォーメーション、生産組織、工場計画、エネルギー効率、監査など、WAGOに関連するさまざまな分野における長年の経験と専門知識を持っています。

取締役会は、サステナビリティの運営委員会を通じて、定期的にサステナビリティ問題に関する報告を受けます。この取締役会は、CSR部門をはじめとする各部門の上長で構成されています。取締役会の主な責務は、サステナビリティプログラムの定期的な見直し、サステナビリティ活動の承認、透明性の確保、目標が対立する場合の決定、サステナビリティ問題の戦略的ガイドラインの制定です。また、運営委員会は、サステナビリティレポートの承認に責任を持つ最高機関でもあります。





持続可能性への包括的な取り組み

WAGOのCEOは、WAGOにおけるサステナビリティを重要なものと位置づけ、2023年には3つの重点項目の1つとして掲げています。WAGOはサステナビリティを企業戦略に取り入れ可視化を進めると共に、サステナビリティの課題を全ての領域に取り入れています。国際的には、WAGOグループの企業戦略を骨子として、交換フォーマットを通じて各国のゼネラルマネージャーも定期的に参加しています。例えば、今年の国際マーケティング会議では、サステナビリティが重要なテーマでした。各章では、トピックごとに、私たちのプロセス、意思決定、ビジネス関係への統合がどのように機能するか、より具体的に説明しています。

WAGOの報酬モデルは企業目標に沿っています。上級管理職の報酬モデルは勤務する国によって異なり、標準的な給与体系が適用されるか否かも異な

ります。ドイツ国内のほとんどの企業は、法定支払要件および業界の支払慣習に基づいて報酬を受けますが、それぞれ独自の基準も適用されています。例えば、ドイツでは標準賃金体系が適用されている労働者に対して、賃金を決定する基準は、ノルトライン・ヴェストファーレン州とトゥーリンゲン州の金属および電気産業に関する労働賃金合意によって設定されます。これに基づき、労使協議会と人事部の代表で構成される ERA* 理事会は、個々の役職の職務内容を確認しています。連邦公正労働基準法が適用されない従業員の報酬は、労働契約によって規定されます。

中期的には、サステナビリティ・プログラムに基づいた包括的なサステナビリティ・ダッシュボードを作る予定です。WAGOのサステナビリティに関する実

績を見やすく表示するだけでなく、特定の目標に対する実績を測定する基礎にもなります。

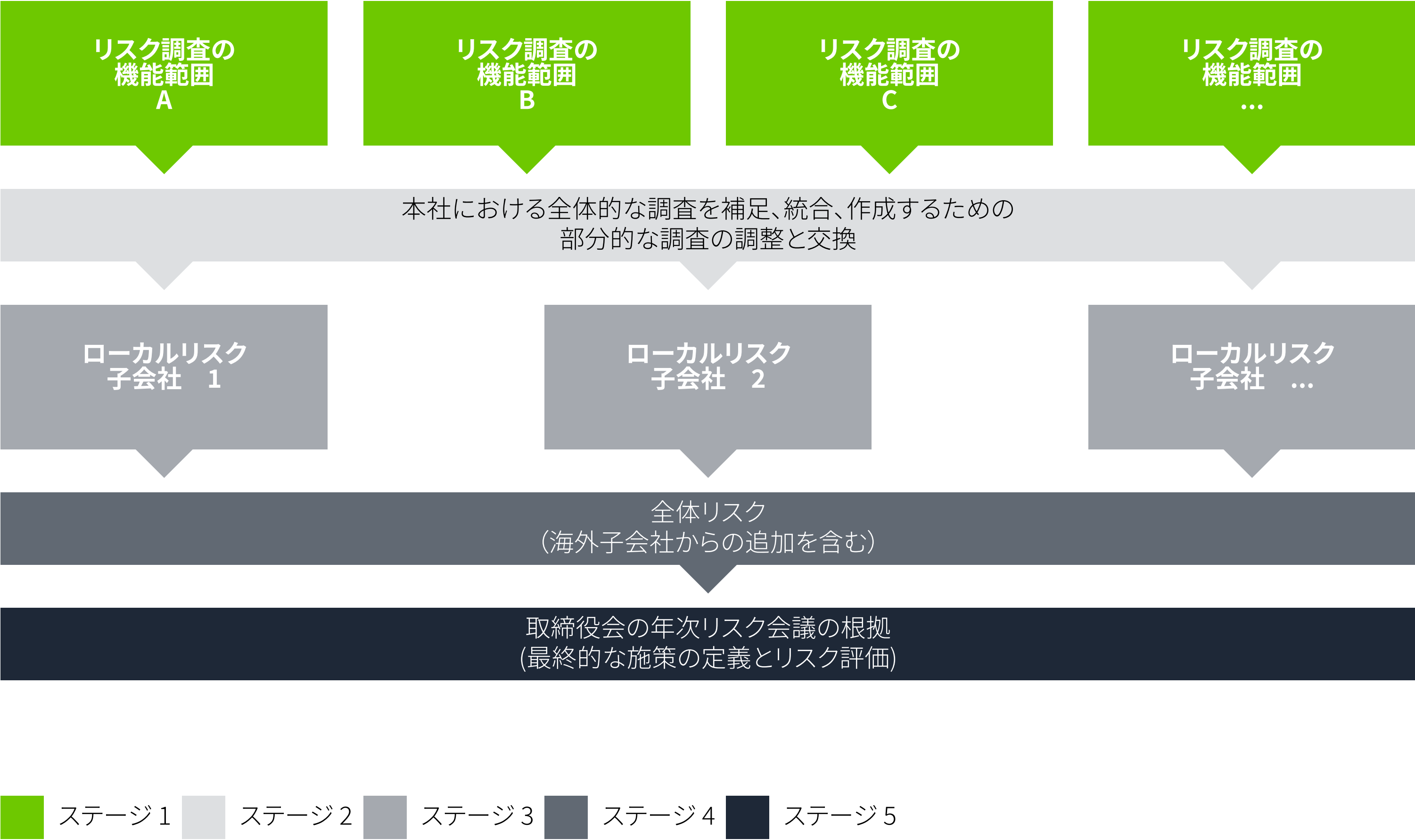


*賃金 給与に関する枠組み合意(ERA)は、団体賃金交渉の当事者の間で交渉される賃金体系で、労働活動や要件、技能を客観的に評価する目的などで用いられます。

リスク管理

ガバナンスのもう一つの要素は、リスク管理です。取締役会が早期にリスク、特に会社の成長や存続を脅かすリスクを特定し、対策を講じて可能な限り防止するよう努めます。ただし全てのリスクは排除しません。ビジネスチャンスも逸してしまう恐れがあるためです。代わりに、透明性のある説明とオープンなコミュニケーションの基盤に基づいて、重大なリスクのシステムティックな管理に努めます。WAGO本社の全ての主要部署および製造を担う他国の工場はリスク管理を行っています。体制、プロセス、および責任はリスク管理指令に記載されており、システムは継続的に開発されています。全体の責任は役員会にあり、各国の場合もそれぞれの役員会にあります。WAGO特有のリスクとして、調達、コンプライアンス、サイバーリスクだけでなく、自然災害も含まれます。将来的には、サステナビリティ関連のリスクもリスクマネジメントに統合する

予定です。識別プロセスの一環として、発生の可能性と損害の程度に従って評価が行われます。リスクがどのように対応されるかは、これにより決定された要因に依存します。リスクのレビューは毎年定期的に行われ、仮にリスクが直前に発生した場合は、予定がなくてもアップデートが行われます。





03 ビジネス コンプライアンス



責任とコンプライアンス

WAGOは法的要件を満たし、サプライチェーンで期待される範囲を超えて、責任を自覚して積極的に行動します。



明確な価値観をもって行動する

WAGOは事業活動のあらゆる段階で責任ある行動を取り、お客様、サプライヤー、従業員にとって信頼できるパートナーでありたいと考えています。信頼関係は、企業の成功にとって非常に重要だからです。当然ながら、当社は法律やその他の法的要件に常に従っています。法に則らなければ、WAGOの価値観や自社の立場だけでなく、評価やビジネスを著しく損なう可能性もあります。このため、WAGOグループ全体に適用されるコンプライアンス原則を策定し、関連プロセスを強化しています。各企業のコンプライアンスに関しては経営トップ(GM)が責任を持ち、企業戦略がフレームワークを提供します。

する危機的な状況とそれに対応する防止メカニズムについて従業員の意識を高め、オリエンテーションを提供しています。従業員は内容を熟知し、疑わしい事象を把握した場合は直ちに管理者に知らせ、必要に応じて他の事務所に相談します。また、内部監査部門は、疑わしい事象がある場合に助言をします。また、2021年および2022年には、ドイツで購買、生産、品質、開発などの責任者である317名の従業員が、腐敗防止に関する特別なトレーニングを受けています。この期間に、417名の従業員が中国で研修を受けました(実施率は97%)。WAGOは社員の一人ひとりが日々の業務に集中し、必要な時には迅速にアドバイスを求めるよう願っています。

活動のガイドライン

2010年に制定され、その後は定期的に更新されている当社のグループ方針では、企業としての事業活動の様々な側面への対応、本社とグループ会社との間の責任の管理、社内承認および通知義務の定義を定めています。2022年6月には、業界団体VDMAおよびZVEIによって改定された行動規範に署名しました。私たちはこの行動規範を更新するタスクフォースのメンバーであり、以前に適用されていた規範に代わるものです。この行動規範は、社会的に責任ある企業経営に関する当社の考え方を反映したもので、全従業員に適用されます。この文書の中でのコミットメントは公正な競争であり、これは腐敗、贈収賄、価格固定等の慣行を断固として排除しています。さらに、当社の腐敗防止ガイドラインは、潜在





コンプライアンスと人権に対する一貫した協調的アプローチ

当社の従業員は各自の具体的な業務に関係なく、WAGOのプロセスや組織構造におけるコンプライアンスのギャップ、または潜在的な違反を報告することが奨励されています。当社の内部監査部門はこの情報を受け取り、機密情報として扱います。必要に応じて、法務部門に相談します。匿名の報告は、当社のウェブサイトの内部告発者システムを介して行うか、またはwhistleblower@wago.com にメールを送ることで行うことができ、すべての報告が調査されます。疑いが十分に立証された場合は、必要な措置が講じられます。今回の報告期間中においては、反競争的行為、企業連合形成、独占販売に起因する汚職や法的手続きは確認されていません。

行動規範のもう一つの中心的な側面は、国連世界人権宣言、OECD多国籍企業ガイドライン、国際労働機関(ILO)の中核労働基準、国連ビジネスと人権に関する指導原則に従って、人間の尊厳を尊重することです。導入に際しては、その内容を従業員に周知徹底するとともに、イントラネットや社内WEBサイトにも掲載しています。内部監査部門では従業員の質問にも対応しています。また、この行動規範をサプライヤーと共有し、バリューチェーン全体を通じてこの行動規範に含まれる原則の実践を促進しています。



**私たちのサプライチェーンの永続的な
変革には、すべての参加者の協力が必要です。
そのため、ビジネスパートナーの
サポートを行っています。《**

アンドレ・シュレジガー, 企業調達事業部長

グローバルなネットワーク

ー 始めから責任を持つ

WAGOはさまざまな製品を持つグローバル企業として、ますます複雑化するサプライチェーンに依存しています。これはWAGOにとって難題ですが、企業責任は価値を創造した時から始まる、という私たちの認識に変わりはありません。したがって、2023年1月1日に施行されたドイツ サプライチェーン法 (LkSG) のような規制を歓迎し、これを継続的な経済的、社会的発展のための絶好の機会であると捉えています。WAGOは環境基準と人権に関して定められた要件を長い間満たしていますので、順守にあたり必要な改善は現状のプロセスのわずかな見直しのみでした。これは報告年度中に

準備したものです。2016年より、お客様に対する透明性のために、EcoVadis 社によって毎年サステナビリティのパフォーマンスを評価してもらい、要望に応じて評価結果を共有しています。この情報は当社 IntegrityNext プロファイルからも確認できます。

統合管理： サプライチェーン

サプライチェーン デリジエンスは、サステナビリティ プログラムの「コンプライアンスと責任」の中でも重要な行動分野です。これを実現するために、報告年には専門分野の垣根を超えたサプライチェーンプロジェクトが開始され、先ず戦略ワークショップから始まりました。このプロジェクトは、サプライヤー評価などWAGOの既存の施策やプロセスを基礎とし、それらを最適化することを目的としています。2023年には、紛争鉱物などの特別な事情を考慮に入れながら、デューデリジエンス・プロセスをさらに発展させるプロジェクトを予定しています。WAGOの目標は、WAGOの製品に必要な天然資源お

よび材料に社会的および環境的基準を適用することです。これを評価するためには、客観的な検証や比較を可能にする確立されたプロセスや基準だけでなく、サプライヤーとの信頼関係も重要です。当然、内部通報制度はサプライヤおよびその従業員も利用できます。



注意深く見守る

WAGOのサプライヤ

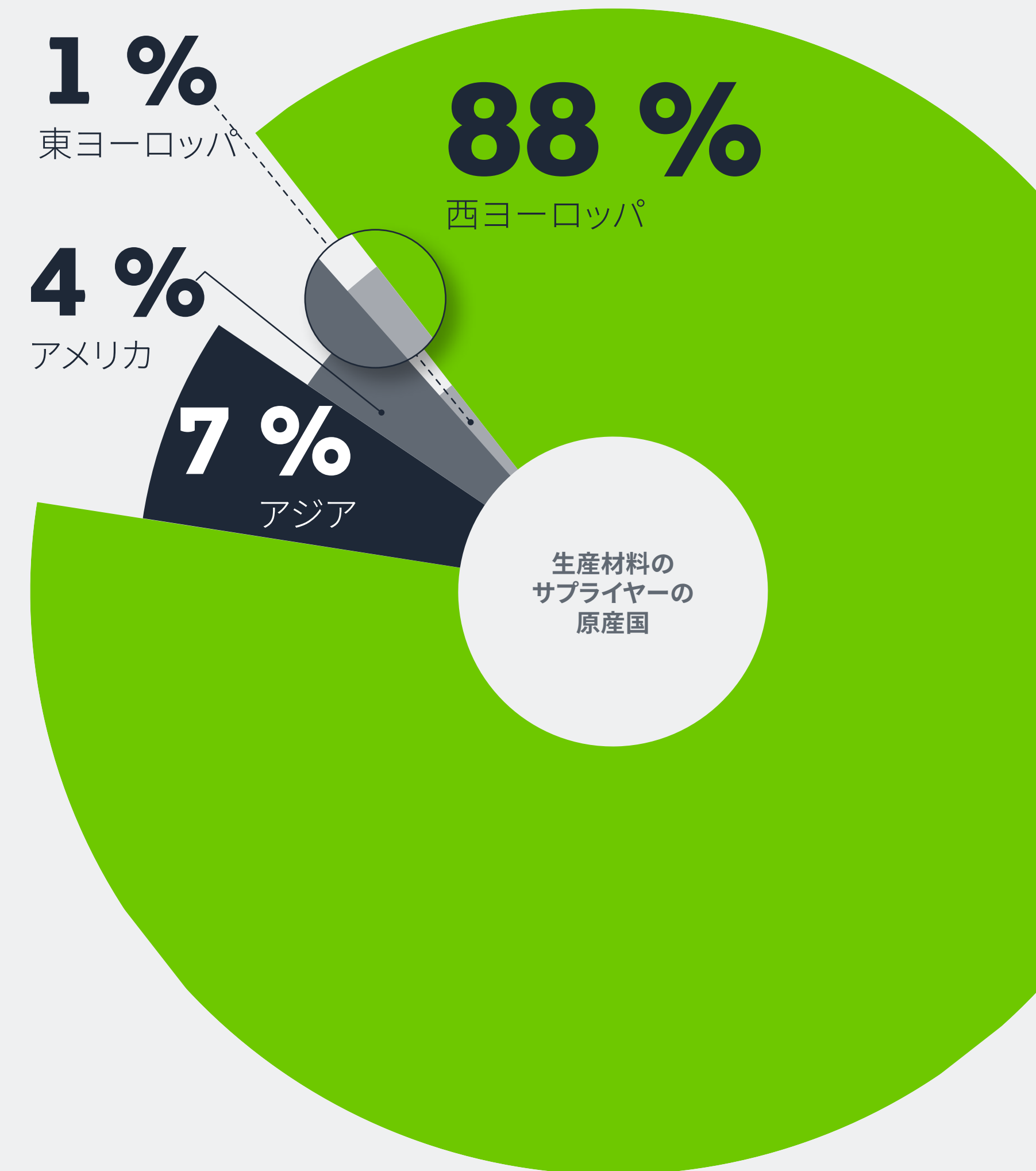
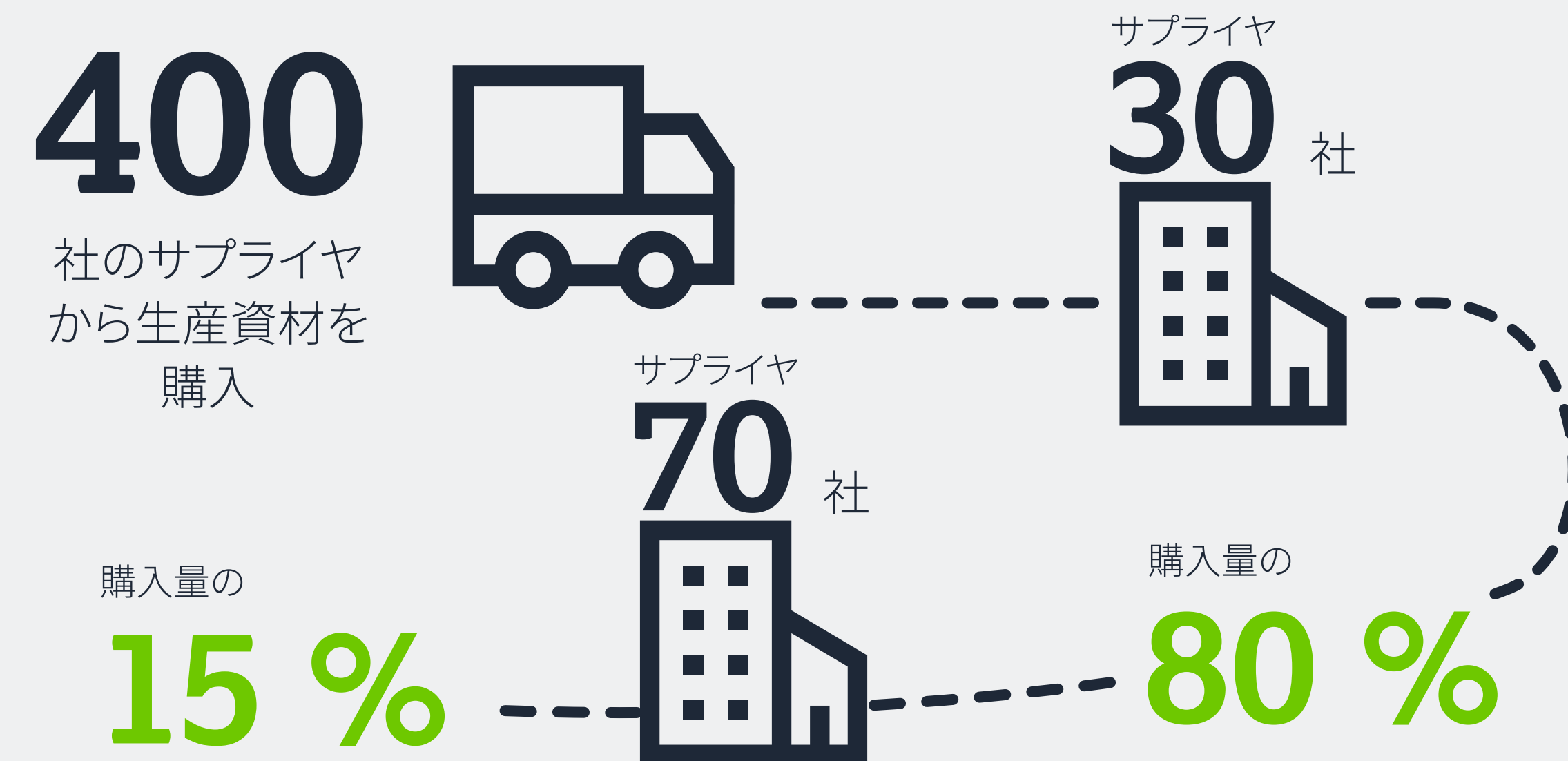
サプライヤ管理に関しては、購買量が多く、関連するマテリアルフローの代表である生産資材に特に重点を置いています。

その過程で、私たちは通常、直接的な契約上のパートナーを検討します。銅、プラスチック、プリント基板などの重要な製品グループについては、上流サプライチェーンも健全であることを確認するために問い合わせを行います。生産資材部門では、調達先は400社ほど

に限定されており、購入量の80%は30社から、15%は70社からとなっています。

WAGOの製造資材供給者の約90%はEUに拠点を置いているためEUの法律の対象となっています。これは、上記の主要なサプライヤ30社のうち28社にも当てはまります。残りの10%のサプライヤは第三国にあります。全体的に、私たちのパートナーのほとんどは、関連認証や独自のサステナビリティ・

レポートを発行するグローバル企業です。



サプライヤ評価： 1つの目的と多様なツール

私たちは、パートナー企業が私たちの立場を共有することを期待し、サプライヤ行動規範でこの期待を明確にしています。サプライヤは、協力関係を結んだ直後に当社の規範に署名しなければなりません。もしくは、サプライヤは独自の基準を提出し私たちがそれを審査する形で対応することも可能です。その過程がないと、取引関係を確立できません。私たちと取引可能性のあるサプライヤとの適合性を評価するために、包括的なレビューも実施します。たとえば、取引を開始する際に、補足的な評価として機能する自主的な開示が必要です。WAGOの評価および承認プロセスは、常に進化し続けています。

たとえば、2021年以降、サプライヤと管理プロセスをデジタル購買ポータルに統合し、透明性と比較可能性を高めました。報告年には、新しいサプライヤを全体的に評価するために、環境と社会に関する評価も導入しました。

数年前から、定期的にサプライヤの調査と評価を実施してきました。戦略的サプライヤに関しては毎年行われます。環境マネジメント、REACHおよびRoHSコンプライアンス*や労働衛生などの持続可能性の側面も考慮されています。2021年の最終調整以来、これはESG（環境、社会、統治）の役割と同様の構造に基づいています。この観

点から、対応する管理システムや認証の有無、また認知されたサステナビリティ・イニシアチブへの参加について確認しています。総合評価には、価格、品質、新しいことを取り入れる能力などのカテゴリーも含まれ、サプライヤ購買ポータルに表示されます。サプライヤは最大ポイント数に基づいて4つの評価レベルに分けられ、一番上のレベルには当社の優先サプライヤーが含まれます。そしてレベル4のサプライヤとはそれ以降の契約を行いません。WAGOは、必要に応じて、当社独自の人員または外部のサポートを使用して、リスクに基づく現場監査を実施する権利を留保します。WAGOは、環境基

準と労働安全基準の両方を遵守することに重点を置いています。WAGOの調査で確認した限り、対象年またはそれ以前に重大な違反はありません。



***REACH規則は、化学物質が引き起こす可能性のあるリスクに対する人間の健康と環境の保護を改善することを目的としたEUの規則です。**
REACHは「化学物質の登録、評価、承認、および制限」の略です。RoHS指令は電気および電子機器における特定の有害物質の使用を規定し、すべてのEU加盟国に遵守を求めています。

**** ドッド・フランク法は、米国証券取引所に上場している企業に、いわゆる紛争鉱物の使用を開示することを求める米国連邦法です。**この報告義務はグローバルなサプライチェーンを通じて行われるため、WAGOも影響下にあります。

i リスクの最小化：紛争鉱物への対応

紛争鉱物とは、武力紛争に見舞われている地域で採掘される原材料または鉱物であり、しばしば人権侵害となっています。鉱業と貿易は紛争当事者にとって重要な資金源となることが多く、暴力を維持する要因になっています。そのため、紛争鉱物がサプライチェーンに含まれるのを防ぐために注意を払っています。

ドッド・フランク法**で指定された原材料のうち、当社は主にスズと金を加工しています。その組成により、当社の製品にはコロンバイト - タンタライトと鉄マンガン鉱も含まれる可能性があります。WAGOはサプライヤに対し、倫理的または環境的に重大な懸念がある地域または国からこれらの原材料を調達しないよう求めています。もうひとつの重要なステップは、製錬所の選択です。製錬所は加工プロセ

スの先頭に位置しており、鉱石を溶かして純粋な金属を抽出しています。

したがって、私たちは、Responsible Minerals Initiativeにより「適合」などと分類され、製錬所参照リストに掲載されている製錬所のみを使用するよう、サプライヤに指示することを目指しています。これらの要件の管理をするために、2018年からデータの取得と管理に特別なツールを使用しています。これは、今後ますます厳しくなっていくお客様の要求を満たすことにも役立ちます。



04 リサイクル



循環経済

私たちはリサイクルをプロセスに取り入れ、より少ない資源を使用するよう努めています。

WAGO製品で 回路をつなぐように 材料を循環

WAGO製品が電気回路をつなげる様に、材料調達のサイクルもつなげたいと考えています。つまり、循環経済への移行に貢献したいと考えています。この目標は、EU分類でも明確に規定されています。これを受けて私たちは、可能な限り材料の使用を減らし、リサイクル素材またはリサイクル可能な材料を使用し、廃材を直接再処理するか、リサイクルのために分類しています。WAGOは、お客様がWAGOを選択される理由の1つである製品寿命を最大限に延ばせるように製品を設計・製造しています。

WAGOは電線接続およびオートメーション技術のリーディングカンパニーとして、多くの材料を消費し、また、原材料を管理する規格の厳格な要件を満たさなければなりません。この責任を果たし循環経済を産業界に根付かせるために、私たちはかねてより、自社の材料調達サイクルを改善すべく取り組んできました。以前は、これはエンジニアリングプラスチックや梱包など、定義された対象に特化した各ワーキンググループの責任でした。報告年には新たな戦略レベルに踏み込み、循環経済行動計画を策定しました。これは2023年に国際的に展開され、2030年に向けて4つの主要な目標を設定しています。

循環型経済行動計画 2030年に向けて



戦略

WAGOの従業員とステークホルダーは、WAGOにとって循環経済とは何かを理解し、目標であると認識しています。



エンパワーメント

循環経済に積極的に貢献する従業員の能力を継続的かつ協調して高めます。



資源保護

WAGOは製品およびサービスにおける一次および再生不可能な資源の消費を削減します。



価値の提案

私たちは、売上の一定割合を循環型製品とサービスによって達成しています。

WAGOは循環経済の具体的なアイデアを積極的に生み出し、50名以上(主に社内の参加者、社外の参加者も含む)以上の方々に参加いただきました。

この枠組みの中では、定義した6つの行動分野に取り組みました。各ワークショップグループは学際的で、各分野の専門性に基づいています。現在、複数のチームが、プロジェクトまたは日常業務に基づいてワークショップから出た合計19のサブ目標の最初の実施に取り組んでいます。これには、進捗状況を測定するための循環経済KPIの開発、従業員に情報を提供し活力を与える社内コミュニケーションの概念の作成、循環経済に関するお客様の要件の分析が含まれます。

中間結果については、次回2023年のサステナビリティレポートで情報を提供します。中期的には、循環経済行動計画を活用し、価値創造・製品・サービスの変革を通じて資源の保全と循環社会の実現を目指します。

これに関しても、良好な関係を役立てるため、オストヴェストファーレン リッペ地域の持続可能な事業開発のための技術ネットワークであるInnoZent OWLなどのイニシアチブにも取り組んでいます。このプロジェクトはEUとノルトライン＝ヴェストファーレン州が資金を提供し、この地域、特に製造拠点を循環型価値創造の助けによって未来にふさわしいものにすることを目的としています。

協力パートナーは、ドイツ技術者協会(VDI)とビーレフェルト応用科学大学です。



持続可能性に対する WAGOのソリューション： 利用する資源の削減

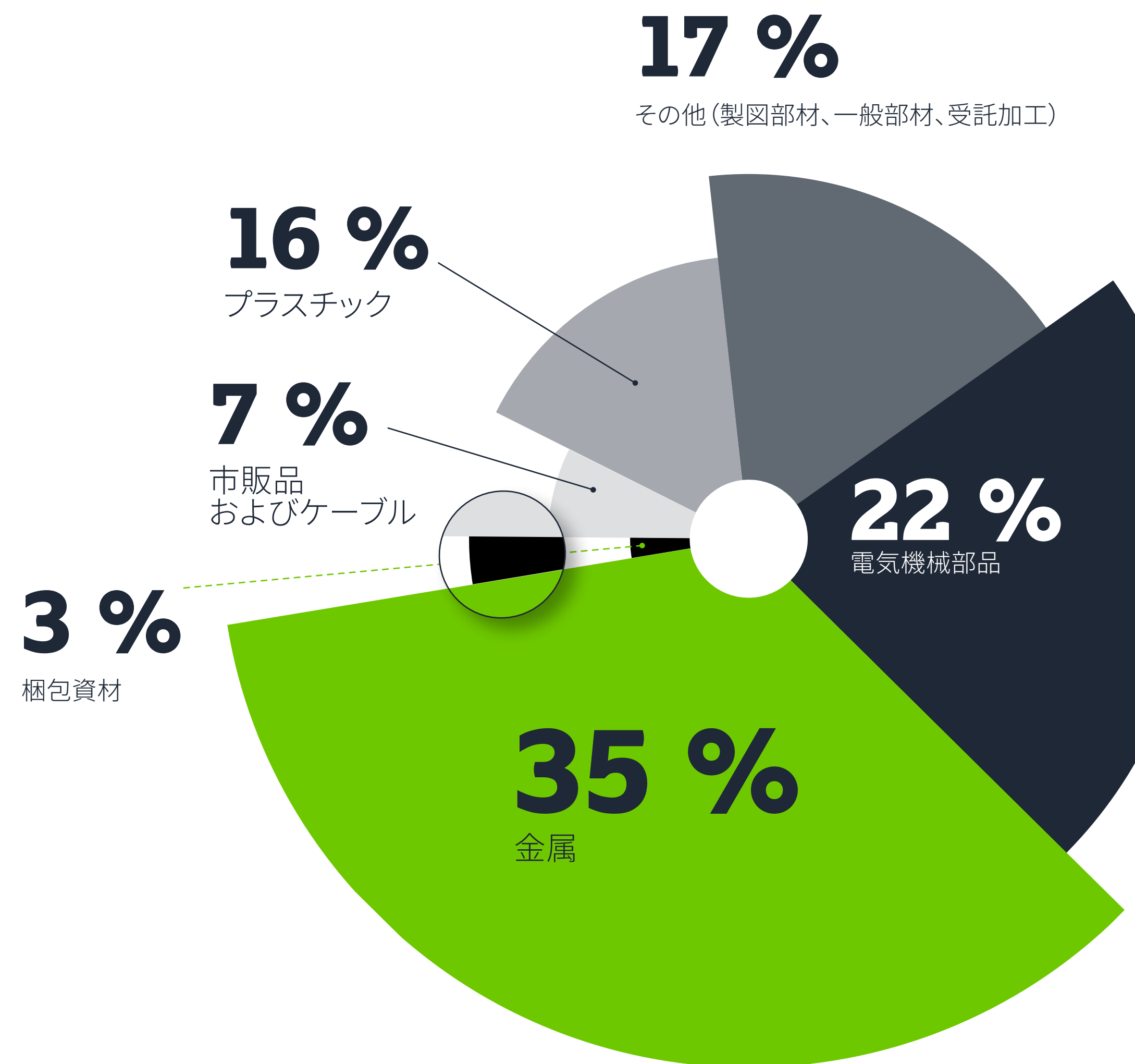
私たちは、小さすぎて意味のない変化などないと信じています。この信条はWAGOの製品にも当てはまりますが、同時に、正しい方向へ向くことが重要であり、持続可能性は進行形のものであるというWAGOの姿勢を反映しています。WAGOは、お客様が将来にわたって企業や業界を形成し、積極的な変革の一部となれるよう支援します。持続可能な生産現場を実現し、インテリジェント ビルディングの接続と制御を行い、グリーン エネルギーの生成、貯蔵、配給のためのインフラの一部を提供し、未来のモビリティのためにこれらの効率的な利用を可能にします。これには、効率的で持続可能な製品をWAGOから提供することも含まれます。循環経済はWAGOにとっての鍵です。材料調達サイクルを自社で管理することで、バリューチェーンに沿った資源消費を

減らし、特に生産において段階的に改善したいと考えています。したがって、私たちの「循環経済行動計画」には、循環型設計の原則を明確に考慮に入れなければならない製品開発プロジェクトのターゲットが含まれています。

当社の製品を製造するために必要な材料には、ポリアミドやポリカーボネートなどの様々なプラスチックや、ばね鋼や銅などの金属が主に含まれます。さらに、当社は他の電気部品も大量に購入しています。



グローバルな購買量に占める製品グループの割合（ユーロ）





WAGOワンタッチコネクタ「Green Range」は、製造時のプラスチックの使用量を削減します。《

シナ・マリー クルス：チャンネル・マネージャ、マイケ・バームストロフ：製品ポートフォリオ マネージャ

再考と再設計ー WAGO 221シリーズはサステナブル製品の第一歩

少ない資源で製品を製造する取り組みとして、WAGOは221シリーズ ワンタッチコネクタという従来品の環境配慮型製品を作りました。循環経済の試みとして、部分的にバイオマスプラスチックとリサイクルプラスチックを使用した新バージョンです。このコネクタは、電気工事においてさらなる持続可能な接続技術を提供します。従来のプラスチックは、石油や天然ガスといった再生不可能な資源を原料とする炭素化合物から構成されており、その採掘によって私たちの環境と気候は破壊されてしまいます。

標準製品であるオレンジ色レバーのコネクタのプラスチックは、製造行程で発生した廃棄物からのリサイクル材料を45%含んでいます。しかし、環境に配慮した「Green Range」は、さらに一歩進んだ改革を行っています。WAGOは自社の廃棄物を材料として使用するだけでなく、他の場所で生じたリサイクル材料を追

加しています。新しい221シリーズ「Green Range」コネクタは、再生ペレットに加えて、77%のバイオマス・ポリカーボネート（ハウジング）および26%のリサイクルPBT（レバー）から作られています。プラスチック部分の3分の2は、従来品よりも持続可能な材料を使用しています。また、包装にも配慮しました。最大30%の草繊維と約70%の再生紙から作られています。また、その包装紙を生産する際5%以上のCO₂と11%の使用水量を削減します。

概要：

- リサイクル材料を一部に使用して作られたプラスチック(例：リサイクル・ペットボトル)およびバイオマス素材
- プラスチックをリサイクルすることで、化石資源の消費量を削減します。
- バイオマス資源を使用して PC 材料を製造することにより、最大 87% の CO₂ を削減できます。
- 品質と認証は従来品のオレンジ色レバーのコネクタと同等です。

再粒化により材料の効率を向上

さまざまな点で材料をより効率的に使用し、可能な限り生産にリサイクルするように取り組んでいます。当社の製品に使用するプラスチックを金型内に流し込む際にスプレーが発生します。これらは、生産で生じた不具合品と共に、工場内で材料の再処理を施し、廃棄せず生産工程に戻されます。2006年から、本社ミンデン工場を皮切りに、他の生産拠点でも押出機を稼働させ、この循環材料を自社で再加工することができますようになりました。まず生産過程で収集され、タイプと色ごとに分類します。材料フローの完全なトレーサビリティにより、再生ペレットを使用した場合でも、外部の試験機関から全認証の有効性が維持されます。したがって、私たちは完全な材料品質および製品品質を保証することができます。

押出機は1時間に最大500 kgの再生ペレットを生成することができ、1日あたり最大12トンのプラスチックをリサイクルします。

リサイクルできない材料は、認定されたパートナー企業によって外部で再処理されます。この手順は、独自のマテリアル処理を行わない工場にも適用されます。PBT（ポリブチレンテレフタレート）の資源効率化プロジェクトとして、私たちはより少ない資源を使ってより多くの製品を作ることに成功しました。WAGOワンタッチコネクタ（221シリーズ）のレバーは同じPBTを使用し、射出成形されます。

これは非常に高品質のプラスチックで、製造コストが高く、使用できる用途も限られています。それ以前は、余った材料は熱リサイクルによって処理されていました。広範囲にわたる製品テストの結果、再生率は15 %から50 %にまで増加しました。現在、改善されたゲートシステムによりスプレー損失が完全に無くなる理想的な形でさらに低減することに取り組んでいます。スプレーの100%近くがすでに再処理されています。その結果、非常に高い材料効率を達成することができました。これは環境面でもコスト面でも影響があります。バージン材の二酸化炭素排出量は再生ペレットの43倍あるだけでなく、コストも大幅に高くなります。



社内で行うリサイクルにより、材料が新たな製品に生まれ変わります。《

マティアス・セネカ, インターコネクション技術開発責任者



資源保護のためのさまざまな取り組み

しかし、私たちは製品自体だけではなく、その後のプロセスにも注意を払っています。包装技術、販売、購買などの専門家で構成されるチームは、当社の製品包装を法的要件に沿ってより持続可能なものにする方法を長年模索してきました。複合包装を廃止することは、CO₂ 負荷を減らし最適ナリサイクル サイクルを可能にする大きな取り組みとなります。このような背景から、端子台のブリスターパックを段ボールに変更しました。また、出荷時に使用していた緩衝材を紙製に変え、従来の粘着テープを紙や天然ゴム製のテープに置き換えました。WAGOの段ボール箱は再生紙80 %で作られており、輸送包装に関するドイツ包装法(Verpackungsgesetz)への準拠を保証する「Resyマーク」が付いています。そして、システム参加の対象となるパッケージはInterserohとライセンス契約を結んでいます。常にできるだけ小さいサイズの箱を使用し、緩衝材付き封筒へ切り替えることにより、効率的に梱包することを目指しています。また、段ボールの厚みを最大30%まで減らしたことで、材料の使用量も減らすこ

とができました。「循環経済行動計画」の一環として、包装資材の削減に対する当社のコミットメントは、2023年初頭に「循環型包装」の目標のひとつに変更されました。

他の分野でも、常に資源をより有効に利用する方法を模索しています。その一例は当社の生産過程で使用する銅材です。これらは巻き取られて大きなコイル上に積み重ねられ、分離するためには後に廃棄の必要がある木製のスペーサが使用されていました。それに代わって段ボールセパレータを使用することで、1ヶ所で520個のパレットを廃棄する必要がなくなりました。



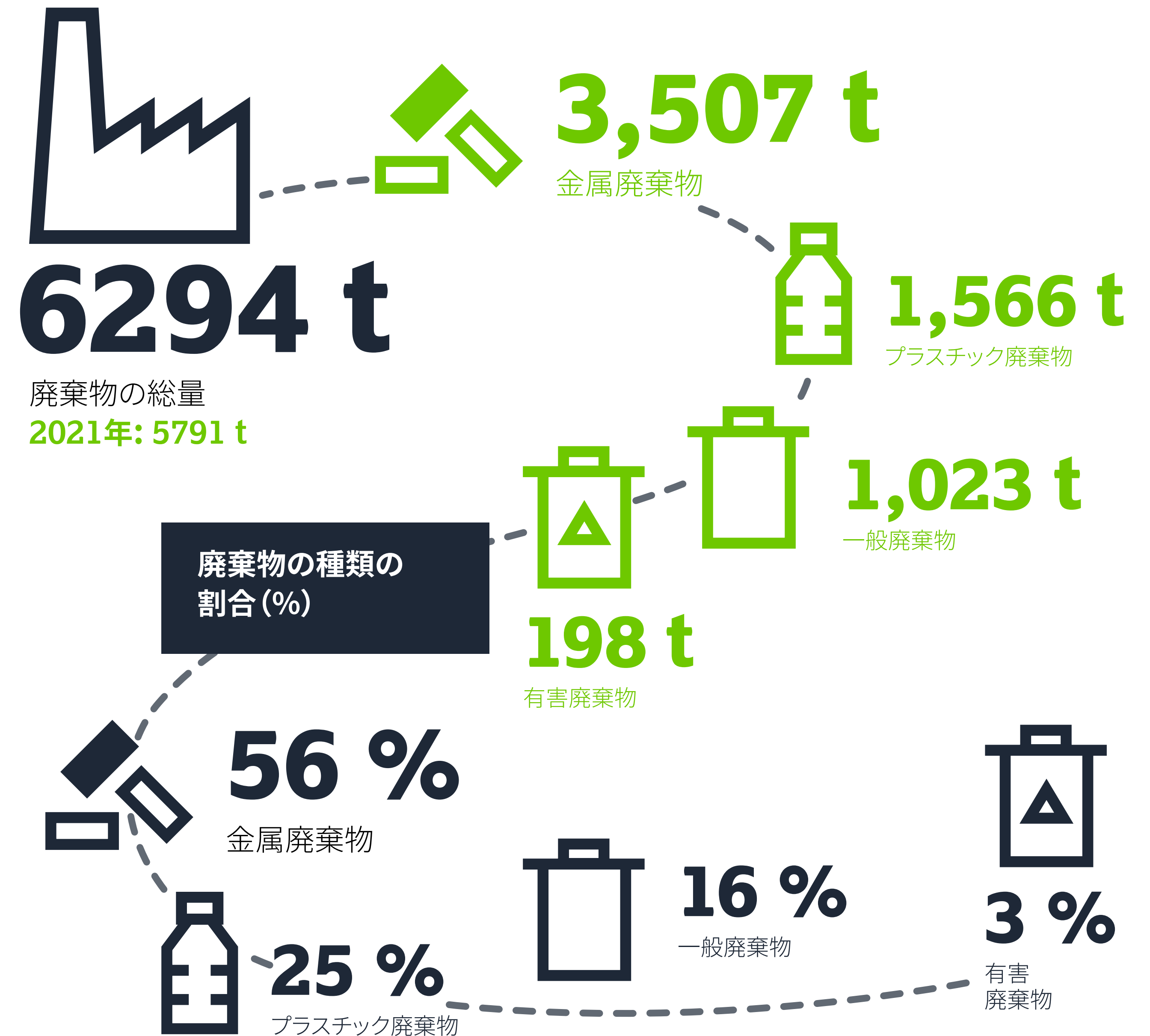
コンピュータ、タブレット、スマートフォンの再利用

WAGOは使用していたIT機器やモバイルデバイスを専門的に再生させました。できるだけ長く使用し続けることが、持続可能性の観点から最善のソリューションだからです。ドイツおよびスイスでは、ヨーロッパ最大の非営利IT企業であるAfB gGmbHと提携しています。AfBは障害者雇用企業として認められており、5カ国で働く約5000人の従業員のうち、約45%が障害を持った方です。報告年には、ドイツのAfBに448台のデバイスを送りましたが、その82%はデータ消去、修理、清掃の後に再び販売されます。新しい機器を購入した場合に比べ、30万リットル以上の水、17万kWh以上のエネルギー、約46メートルトンのCO₂を節約することができました。

分別と リサイクル

材料効率を達成し、材料の自給自足を導くためあらゆる努力を惜しんでいませんが、依然として私たちも廃棄物を出している事実があります。その数量や構成は地域によって異なります。例えばミンデン本社では、報告年の廃棄物のほぼ半分が生産廃棄物、約44%が一般廃棄物、約6%が有害廃棄物でした。前者はコネクタや各種プラスチックからのスクラップで、一般廃棄物は紙、厚紙、スチール、木材、食堂の廃棄物などがあります。有害廃棄物には、液体および腐食性溶液の洗浄、機械油および潤滑剤、フィル

ター材料、印刷インキ廃棄物などがあります。ミンデン市では全体のリサイクル率76.3%を達成し、一般廃棄物の80%以上、生産廃棄物の75%以上、有害廃棄物の40%以下をリサイクルしています。一方、高品質の金属を主に処理し、発生する廃棄物の90%以上が生産廃棄物であるペッピンハウゼン工場では、総再利用率は98.3%であり、生産廃棄物は100%がリサイクルされています。





廃棄物をクリーンに 処理するために

WAGOは資源の消費を減らすだけでなく、社内の無駄を減らすことを目指しています。どうしても捨てる必要のある廃棄物は、適用規制に従って当社の工場で管理され、できる限り環境に優しい方法で処分できるよう専門企業と協力しています。廃棄物管理で重要なのは、廃棄物量を記録・文書化し、定義された主要数値によって長期的にレビューをすることです。また、工場を見学し、さまざまな廃棄物問題に対する新しいソリューションを常に模索しています。ISO14001に基づく環境管理システムの外部監査において、廃棄物管理は重要な役割を果たしています。

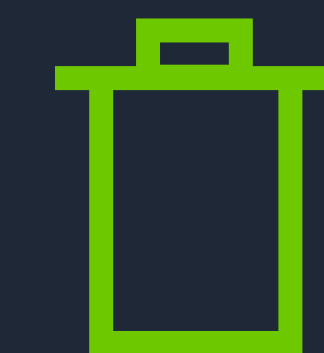


リサイクル率を最大限に高めるためには、細かな分別が極めて重要です。当社は生産廃棄物から対応するプラスチックおよび金属を別々に回収します。有機廃棄物、廃木材や使用済み電池、紙、板紙、段ボール箱も同様です。廃棄物容器の明確なラベリングをすることで、従業員の選別作業を容易にしています。危険物貯蔵施設は、厳格な規則に従って危険廃棄物の処理を行っています。



リサイクル可能な材料の分別収集

金属スクラップは、例えば型抜きや不良品の選別工程などで発生します。品種ごとに選別され、処分専門業者による引き取りが商業的に成り立つだけの量が集まるまで保管されます。スクラップの費用は、材料の種類と純度によって支払われます。

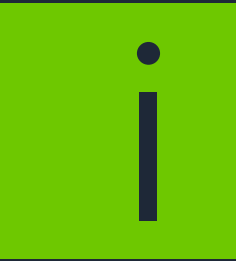


コネクタのスクラップには、基本的に当社の品質要件を満たさない端子台やコネクタがすべて含まれ、テスト工程で選別されます。そして市場に流通しないよう、特別な箱に保管します。処分業者は製品を使用不可能にし、金属とプラスチックを分離します。前者は再販売され、後者はリサイクルされ、再生ペレットの形で市場に戻されます。プラスチック廃棄物は、射出成形プロセス中に直接スプルーとして、または不良部品の形で発生します。いずれの場合も、集められた材料は現場で粉碎されるか、社外パートナーが再造粒します。社外パートナーによって作られ



た再生ペレットのほとんどは、私たちの生産プロセスに戻ってきます。また、プラスチックは熱的損傷によって分離されることがあり、これは機械的特性が失われてリサイクル不可能になったことを意味します。処理会社はこれらの廃材を一般市場で販売するか、サーマルリサイクルに出します。





消費と廃棄ポイントの詳細*



冷却

断熱冷却は主に生産棟を冷却するために使用されます。このプロセスは、水の蒸発によって周囲の空気からエネルギーを取り出し、吸入空気を冷却するというものです。使った水は蒸発します。

射出成形では高温の加工熱を生じるため、腐食防止剤を混ぜた冷却水で金型を冷却します。冷却水は、循環させることで外部の環境に放出されることはありません。冷却水の交換は専門業者が行います。



工業用水

工業用水も循環システムを通して供給されます。その用途は、スプリングの洗浄や工具工場でのフライス加工部品の冷却などです。また、洗浄剤が含まれるという理由から下水道へ排出できないため、外部業者による廃棄が必要となります。



その他の水 (非工業用水)

生産以外での水の用途としては、社内食堂での使用や、社員が手を洗うなどに利用しています。この水は下水道を通して処理されます。

*WAGOミンデン工場の例

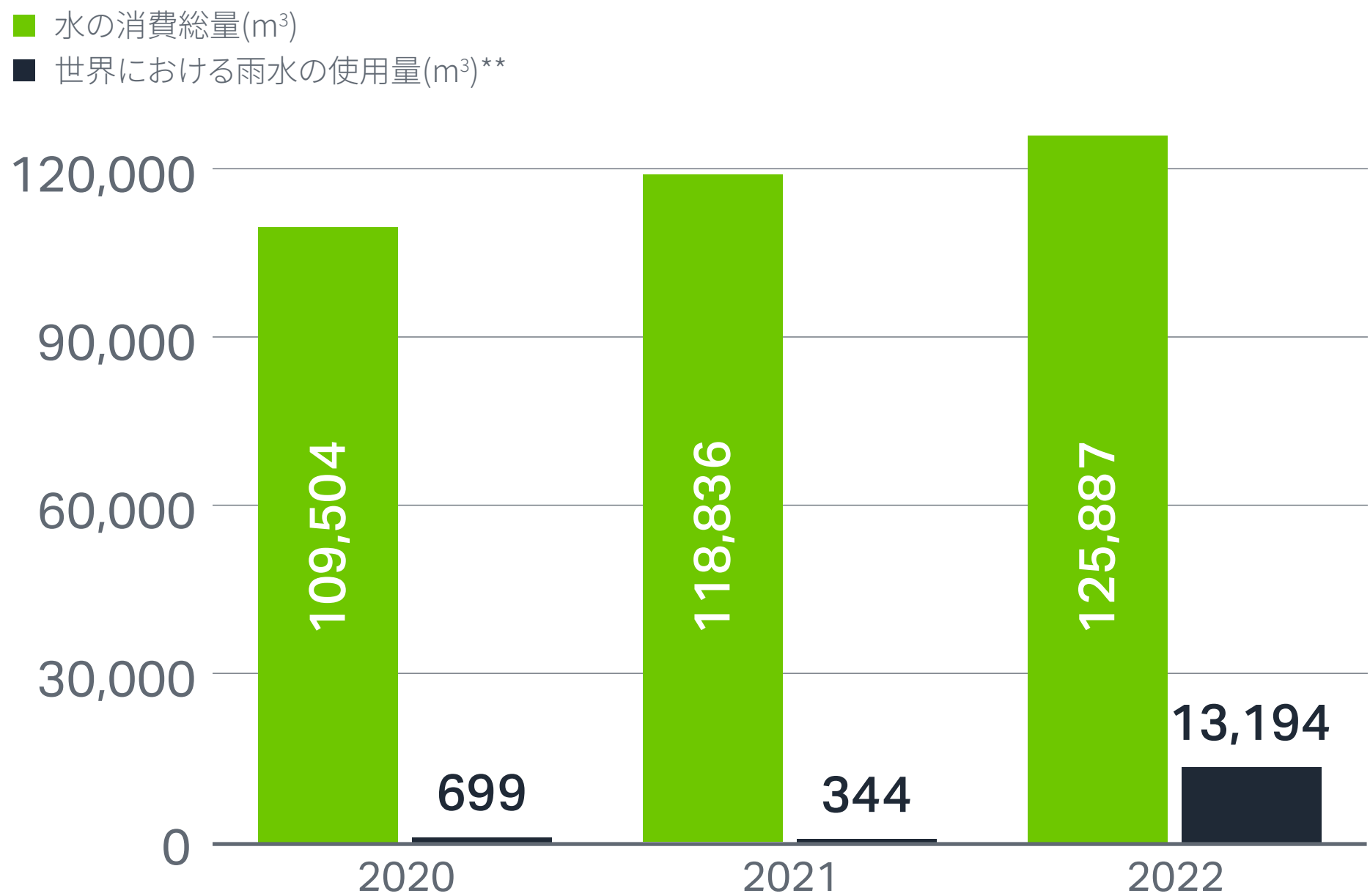
** 2021年以前は、WAGOドイツのデータのみが収集されていました。

水という重要な資源を責任をもって利用

当社で使用するすべての天然資源と同様に、水の使用効率を最大限に高めたいと考えています。WAGOでは、主に3つの異なる用途で水を使用しています。冷却用、生産工程、またカフェテリアや衛生施設のような非生産領域です。

私たちは主に、地元の公共施設からの水道水を利用しています。また、ミンデンの本社でトイレの洗浄に使用する水の一部には雨水を利用しています。

WAGOグループの水の消費総量(m³)



製品への責任： 安全、高品質、 コンプライアンス

私たちが目指すのは、市場に提供する全製品が安全で、品質上問題がなく、含有（有害）物質に関する規制など、すべての法的規制に完全に準拠していることです。そのために、適切なプロセス、制御、およびツールを使用しています。



適用法の包括的な遵守

私たちは、REACHやRoHSなどの規制や指令を遵守する責任を認識しており、サプライチェーンにおける会社の役割と、それに伴う義務を理解しています。私たちは、世界中の物質の禁止 / 制限（例：REACH、RoHS）の遵守を最優先に取り組んでいます。

人の健康と環境を守るために、REACH規則はすべての化学物質とその影響を分類して特定することを目的としています。REACH 規則はまた、サプライチェーンのすべての関係者に特定の義務を割り当てます。WAGOが製造する製品は、この規制の対象となります。しかしながら品目は登録の対象ではないので、WAGO は通常、サプライチェーンにおけるダウンストリームユーザの役割を担います。したがって WAGO は REACH 規則第 33 条に従い、サプライチェーンに沿った以下のリンクを通知する義務を負います。2020年1月以降、欧州化学物質庁(ECHA)は、SCIPデータベースの超高懸念物質(SVHC)に対する報告も要求しています。(製品の懸念物質) 私たちは当然、この義務を認識しています。





RoHS指令は、鉛、水銀、カドミウムを含む電気および電子機器における特定の物質の使用を規定しています。人や環境への負荷を低減するとともに、リサイクルの可能性を高めることを目標としています。

2021年に導入した「環境製品コンプライアンス調査」を通じて、物質コンプライアンス情報を積極的に開示しています。このツールを使用して、RoHS、REACHおよびSCIP宣言に素早く簡単にアクセスすることができます。WAGOは継続的に情報更新をしています。WAGOの物質コンプライアンス管理は、製品ライフサイクル管理システムに完全に統合されています。これにより、製品のライフサイクル全体を通して効率的な自動処理を実現することができます。

WEEE指令は、電気および電子機器の製造業者および輸入業者に対して、管轄当局に登録し、報告および回収の義務を遵守することを求めています。WEEEは、登録と報告義務に加えて、指令の対象となる装置に対する表示義務もあります。WAGOは常にWEEEの要求事項を真摯に受け止めています。これはWAGOにとって重要ですが、お客様にとってもメリットがあります。WAGOは電気および電子機器のメーカーとして登録されており、適切な通知、回収、およびラベル付けの



WAGOのインテリジェントなシステムを用いて、環境とお客様の両方の利益のために、持続可能なデジタルトランスフォーメーションを推進しています。《

ハティセ・セイラー博士, 規制物質コンプライアンスマネージャー

義務を果たしています。また、バッテリー指令2006/66/ECに従ってバッテリーメーカーとしても登録されており、関連する報告および回収の義務を果たしています。

WAGOは各種規制プロセスの動向を常に注視し、迅速に必要な対策を講じていきます。そのために、協会でも様々なワーキンググループに参加しています。

私たちは2023年に環境製品コンプライアンス基準を発行する予定です。この中で、最も重要な禁止物質と制限物質、ならびに関連する情報および回収の義務を説明し、またサプライヤーがそれらを満たすことを求めています。





05 環境保護

排出量削減のために、 より多くの対策

ー 気候保護のためのロードマップ

私たちは、気候変動との闘いには全ての当事者の信念を持った行動が必要であると確信しています。だからこそ、私たちは気候の保護を持続可能性プログラムの中心的活動の一つとしています。WAGOは製品とサービスを通じて、ビルディング、生産、モビリティなど、変革に不可欠な主要産業と分野の持続可能性を高めることに貢献しています。

また、エネルギーの生成と消費における持続可能性と資源保護を高めるためのソリューションを提供しています。さらに、世界的な気候変動目標の達成に貢献することを望み、そしてその必要性も感じています。そのため、この問題を企業戦略の中に据え、環境負荷低減と環境・気候保全活動の継続的な強化に取り組んでいます。

NET ZEROへの道

WAGOは温室効果ガスの排出量を削減する方法を探っており、温室効果ガスを全く排出しない方法がないかも模索しています。これらの取り組みは、学際的な戦略ワークショップを通じて開発した気候保護戦略に統合されています。CCF（企業カーボンフットプリント）およびPCF（製品カーボンフットプリント）のために作られたロードマップは、この戦略の重要な部分を表しています。私たちは、2023年末までに、スコープ1と2*の排出量について、すべての海外生産拠点のCCFを決定し、同時にスコープ3**のデータをグローバルに収集する基盤を確立することで、最初のマイルストーンに到達する予定です。これに基づき、2024年には気候変動防止目標とそれに伴う対策の策定が計画されています。その際には、SBTi(-

Science Based Targets Initiative)などの確立された基準に従って進めることが重要です。このイニシアチブは、Net-Zero基準に従って科学的根拠に基づく気候変動目標を策定する企業を支援するもので、私たちは2023年の加盟を目指しています。そしてすでに、WAGOスイスの例を参考に、削減の道筋を示した科学的根拠に基づく最初の目標を策定しています。

中期的には、ドイツ、ポーランド、スイス、中国、インドの主要生産拠点における排出量を2030年までに可能な限り削減し、残りの排出量は、公認基準（制定されたゴールドスタンダードなど）に従って認証された気候保護プロジェクトによって補いたいと考えています。この目標には、直接・間接排出（スコープ1、2）に加え、すべての温室効果ガスを考慮した上流下流のサプライチェーンからの排出（スコープ3）も含まれます。2045年までに全生産拠点でNet-Zeroを目指します。



天候変動への対策

WAGOは科学に基づいた気候目標を達成するために、温室効果ガスの排出と他の環境への影響を減らすために継続的に取り組んでいます。



* スコープ1には、定置燃焼プロセスからの直接排出（天然ガスなどの熱生成のためのエネルギー源からの排出）および移動体からの排出（車両の燃料消費など）が含まれます。また、使用される冷却剤によって引き起こされる揮発性ガスも含まれます。スコープ2には、購入したエネルギー（電力など）からの間接排出が含まれます。企業として、排出量削減のために最も大きな力を発揮できるのは、これらの領域（たとえば、エネルギーの節約やより効率的なエネルギー源の使用）です。これらの排出源は、私たちの直接的な影響範囲内にあるからです。

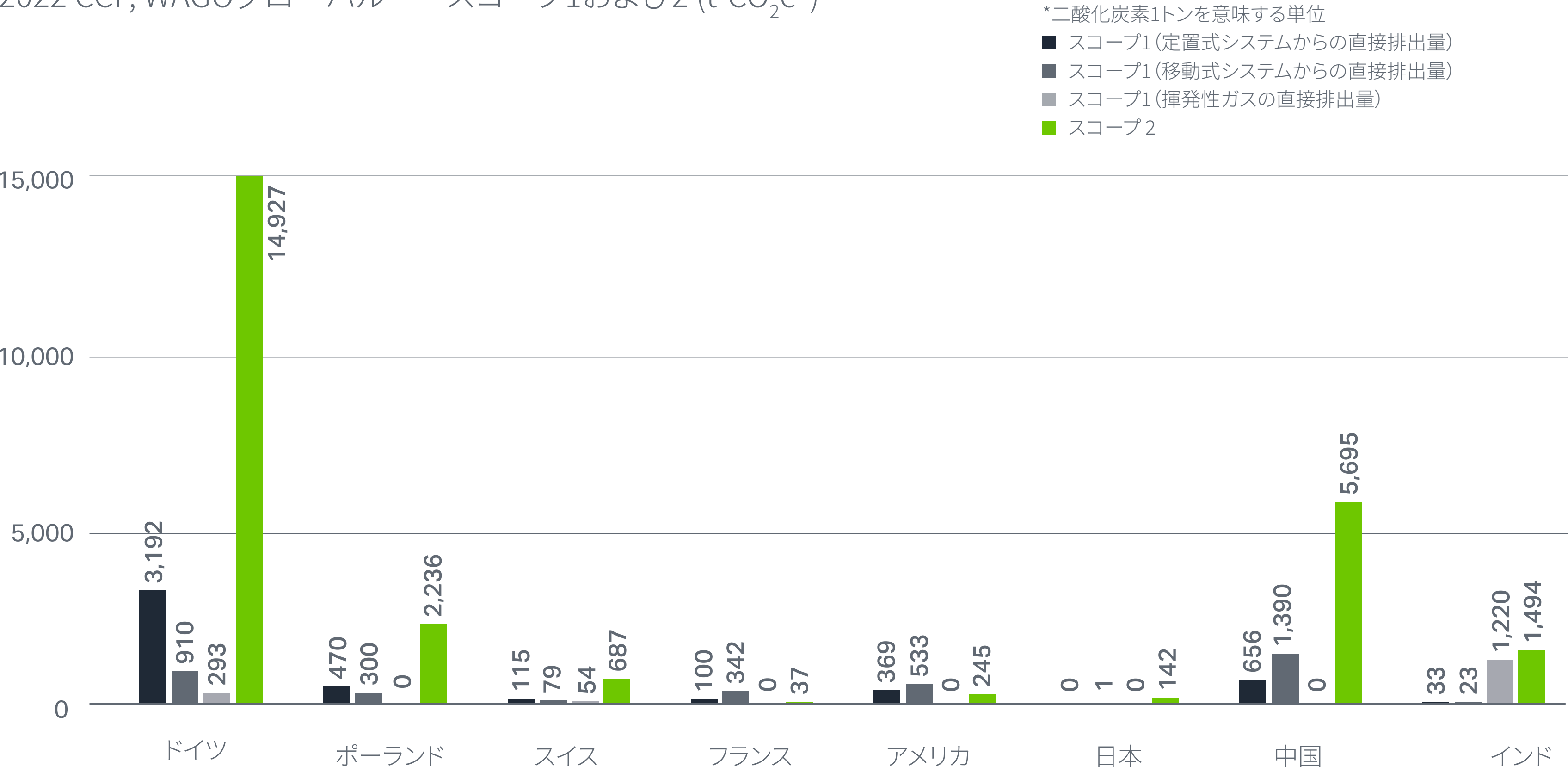
**スコープ3には、上流と下流を区別した上で、バリューチェーンに沿ったすべての間接的排出が含まれます。前者の例には購入品や出張が含まれ、後者には当社製品の輸送が含まれます。

信頼できる基礎:有効なデータ

戦略的かつ効果的に排出量を削減したい場合、まずその排出場所を把握する必要があります。現状分析をすることは、CCFに影響を与える主な要因を特定し、目標とする削減行動を策定し、進捗状況を測定するための有効な出発点を確立するために極めて重要です。この目的のため、私たちは現在、さまざまなマテリアル フローが気候に与える影響について透明性と比較可能性を提供し、従業員のこの影響に対する意識を高めるための包括的なCO₂eモニタリングシステムを開発しています。2020年度には、ドイツおよびスイスの生産工場ですcope1およびscope2の排出量を決定し、DIN ISO 14064-3:2019に準拠し、温室効果ガスプロトコル (GHGプロトコル) に準拠していることを外部検証しました。

さらに、報告年度2021年のすべてのscope3排出カテゴリーを、例として2022年のスイス工場について試算しました。これらは外部からの検証も受けています。これに基づき、scope1～3の各排出カテゴリーにおける削減対策について話し合うため、関係部署や社内のステークホルダーを交えた参加型ワークショップを現地で開催しました。SBTi基準に基づくWAGOスイスの気候保護計画が立案されました。この原則をさらに発展させ、他の地域にも拡大していく予定です。

2022 CCF, WAGOグローバル ー scope1および2 (t-CO₂e*)



CCFを決定するにあたり、高レベルのデータ品質を達成するために、GHGプロトコルの基準およびDIN ISO 14064-3:2019の原則に従います。

関連性: 選択された関連する排出源、データおよび方法は、問題の場所を現実的に表しています。

完全性: バリューチェーンに沿った全てのGHG排出、すなわち上流と下流の排出（関連性を十分に考慮した上で）が計上されています。

一貫性: 収集された情報の比較可能性を保証するために、定義済みのシステム境界、標準、および計算ベースが守られます。

正確性: GHG排出量は正確に計算され、不確実性は適切な時点で低減されます。

透明性: 使用された計算方法と仮定が引用されています。

DINの原則に従うため、使用した活動や排出係数、仮定を含む計算手法を開示する詳細な温室効果ガス報告書が社内で作成されました。このレポートは検証プロセスの一環としてレビューされました。



**WAGOは
温室効果ガス排出削減と、削減のための
持続可能なソリューションに
注力しています。《**

ユルゲン・コープシングレーベン, CFO





全体の評価では、2020年から2022年の間にドイツとスイスで排出された温室効果ガスの絶対量は30%弱の増加となりました。これは、特に近年の会社の成長にも関連しており、対売上高から見れば、2020年から2022年にかけて31%減少しています。しかし、拠点間には大きな違いが見られます。

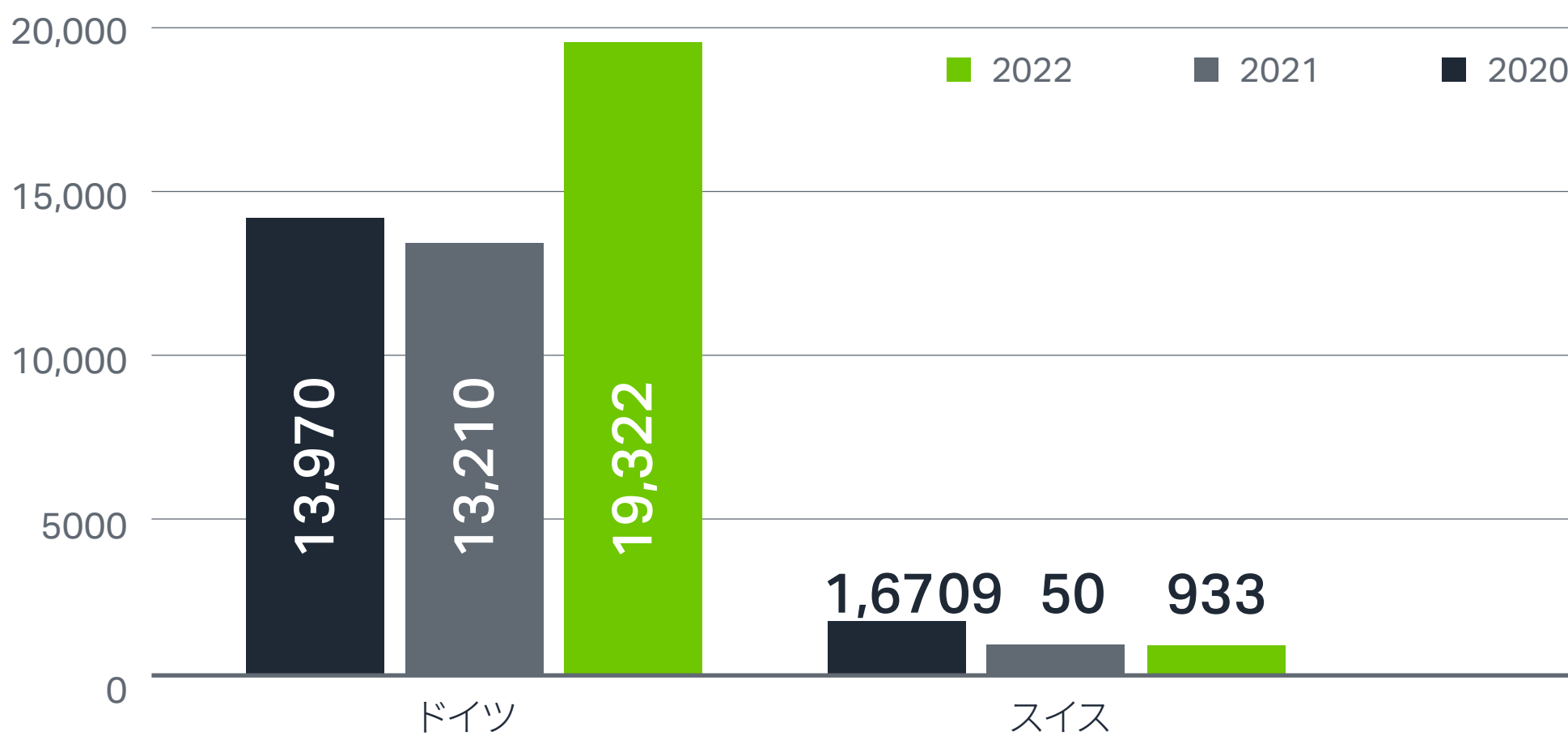
ドイツの事業所では、この期間にスコープ1および2の排出量が合計で38%増加しました。スコープ1では5%弱の削減が達成されましたが、スコープ2では2020年から2021年にかけて9%弱の削減が達成された後、60%弱の増加が見られました。

これは、ウクライナ戦争により化石燃料の割合が増加し、購入電力の割合が変化したためであり、対売上高から見ても明らかです。

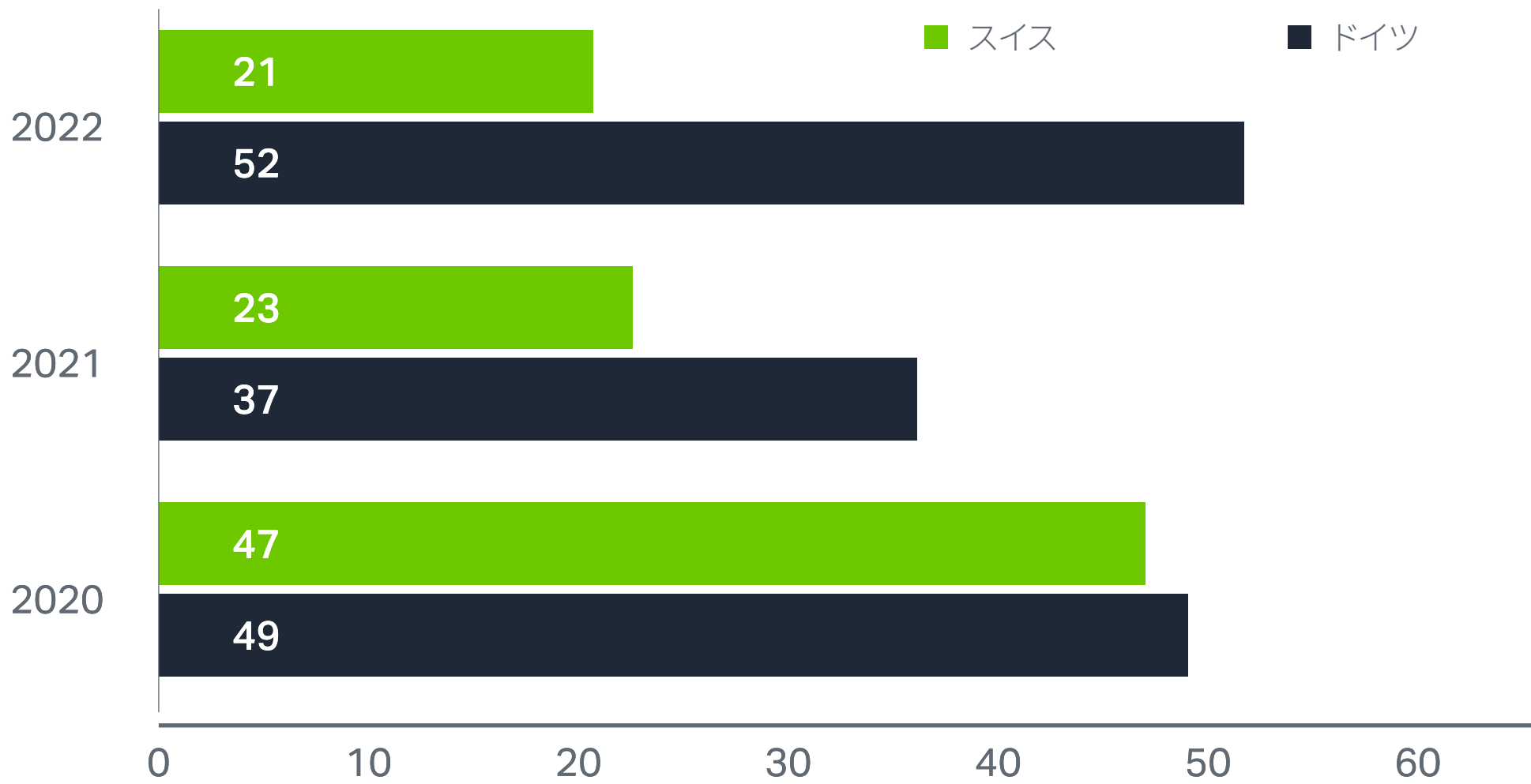
対照的にスイスでは、総排出量（スコープ1および2）は2020年と比較してほぼ44%減少しました。正確には、スコープ1では約27%の削減が達成され、スコープ2では約48%の削減が達成されました。しかし、後者の主な原因は、電力消費量

が年々増加している一方で原子力発電の割合が高くなり、購入する電力割合が変化したことによります。長期的にスコープ1およびスコープ2の排出量を削減するために計画された対策は、49ページの「エネルギー」セクションに記載されています。

t-CO₂e*におけるスコープ1およびスコープ2の排出の推移



総売上高に対する1,000ユーロ当たりのCO₂e 排出 (kg)



*2022年に初めてすべての生産拠点のCCFが調査されたため、それ以前の3年間の比較はドイツとスイスの拠点に限定されています。

»算出した企業カーボンフットプリントを基に、当社は現地の従業員と共に、当社の気候変動対策戦略に沿って排出ホットスポットを特定し、具体的な対策を講じることができます。«

ナターシャ・アンドレイ, WAGO スイス プロジェクトマネージャー

WAGO スイスにおけるカーボンフットプリント

製造企業として、上流と下流のバリューチェーンからの間接的な排出（スコープ3の排出）は、CO₂排出量全体の大部分を占めており、スイス工場で発生する総排出量の93%弱がスコープ3であるため、私たちにとって特別な課題となっています。したがって、透明性と信頼性の観点から、長期的に当社に関連するスコープ3のデータを説明し、適切な品質の報告を提供することが重要です。私たちはまず、2021年の報告年度のWAGOスイスの総CCFを割り出しました。これには、私たちが購入する製品や材料の生産と輸送、エネルギーの供給、従業員の移動と物流からの排出が含まれます。最初のカテゴリー（Scope 3.1）が圧倒的にCO₂を排出する主な要因であり、その中でプラスチックと金属の順でCO₂を排出することが分かりました。合計すると、購入した商品とサービスだけで総排出量の72%弱を占めます。

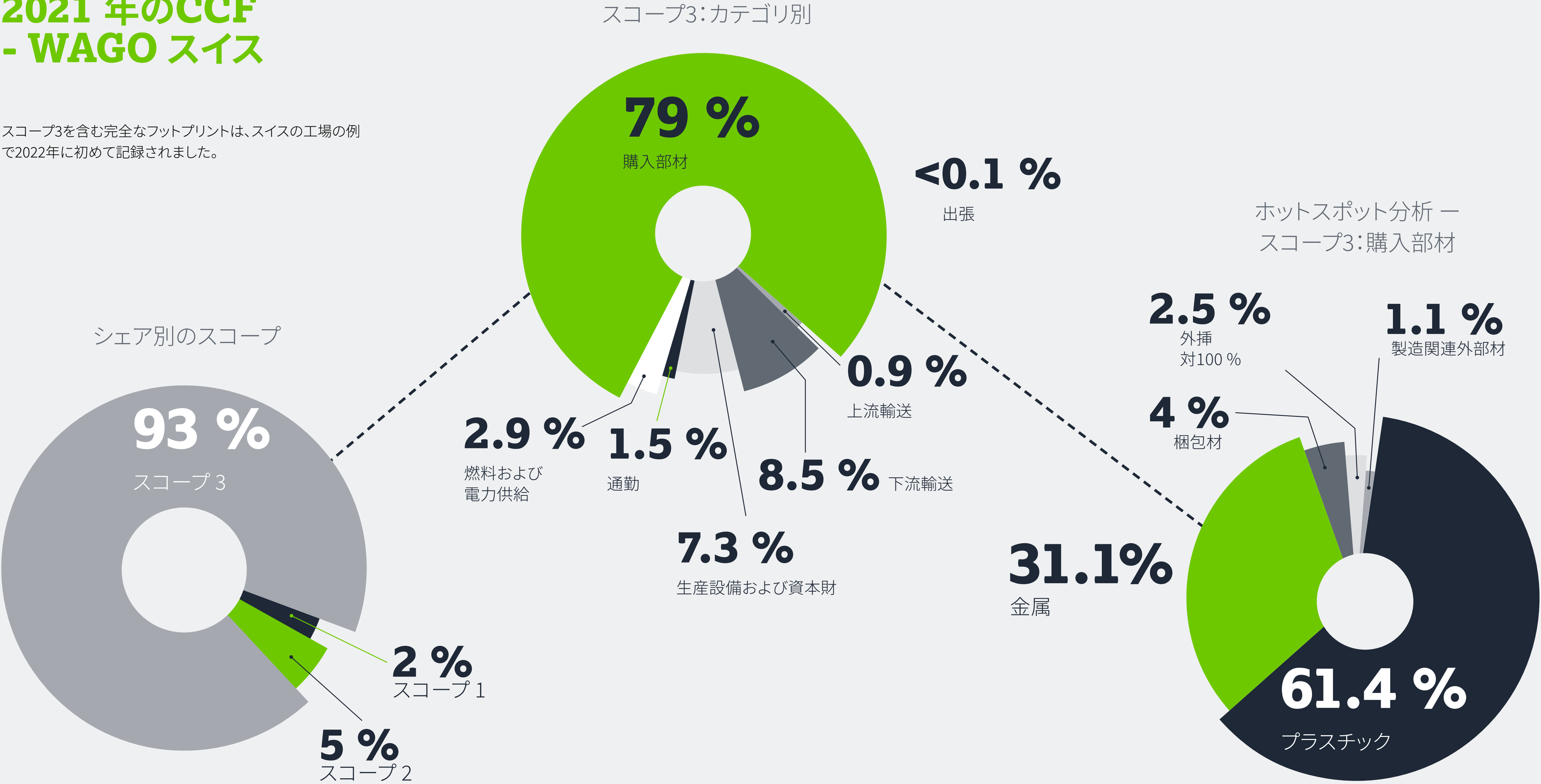
CO₂換算で計算した場合、二酸化炭素の他に京都議定書に記載されている6つの温室効果ガスを考慮しています。活動データと消費データについては、スコープ1と2については一次データのみを使用し、スコープ3については、生産設備や資

本財（スコープ3.2）への外挿などの形で二次データも適宜使用しました。排出係数は、サプライヤーからの直接情報などの一次データと二次データから構成されます。データ品質を保証するために、さまざまなソースを比較して、類似の値が個別に公開されているかどうかを確認しました。全体として、一次データが得られなかったか利用できなかった二次データ、または確立されたデータベースを使用した広範囲の内部比較に基づく当社の厳格な要件をデータ品質が満たしていない二次データのみを使用しました。例えば、購入した製品の上流輸送や従業員の通勤にも当てはまります。



2021 年のCCF - WAGO スイス

スコープ3を含む完全なフットプリントは、スイスの工場の例で2022年に初めて記録されました。





モビリティへの取り組み

私たちは、全社を通じて様々な場所で環境保護への取り組みを実践したいと考えています。特に、中期的にゼロ エミッション体制を構築することを目指し、社用車に関する規則を変更しました。報告年度以降、純燃焼車を社用車として発注することはできなくなりました。プラグインハイブリッド車は例外的に認可され、車両管理者の審査が必要ですが、エンジンは最大でも2リッターです。Eモビリティは、環境に優しい車両に貢献する重要な技術の1つと考えられています。そこで、まずは電気自動車に注目し、電気自動車を利用する従業員に対して、家庭用充電ステーションを無料(設置工事費を除く)で提供することでサポートしています。さらに、充電または追加電力コストの固定月額手当を提供します。ドイツ、スイス、ポーランド、インド、中国の事業所では、共有車、社用車、従業員やゲストの自家用車を無料で充電できる場合があります。電子バイクやスクーター

の充電オプションもあります。

報告年には、世界中のWAGO社用車の4分の1が電気エンジンまたはハイブリッドエンジンを搭載していました。

出張の場合、レンタカーや社用車のような個人的な移動手段よりも、公共交通機関を優先するように決められています。電話やビデオ会議がリモートでなく対面会議に代わる可能性がある場合に備えて、各旅行の必要性も確認する必要があります。



WAGOのサステナビリティプログラムのもう一つの焦点は、個々の製品のカーボンフットプリント(PCF)です。WAGOは製品の気候への影響を、ライフサイクル全体を通して温室効果ガスの排出という形で特定および分析し、適切な対策を講じて削減または理想的には完全に無くしたいと考えています。現在はまだコンセプト段階ですが、WAGOは非常に複雑な課題に取り組むために一貫して有意義で高品質な製品を

提供し続けています。しかし、私たちはお客様のニーズと市場の要求の両方を満たしたいと考えています。そのため、2023年から試験的に一部の製品について算出を開始する予定です。

優れた測定、制御、節減

ー エネルギー管理への取り組み

エネルギーは持続可能なビジネスに関わる中心的なトピックであり、それ以上に、製品ポートフォリオのおかげで私たちにとって特別な役割を果たしています。したがって、エネルギー効率を継続的に向上させることは、私たちの目標のひとつであり、エネルギー効率の高い製品や製造工程を通じて天然資源の保護に積極的に貢献するなど、あらゆるレベル、あらゆる部門で実践していきたいと考えています。私たちはまた、高品質の断熱材の設置、LED照明の使用、高効率熱回収システムの設置、地熱およびヒートポンプ技術の使用など、施設の建設および運営においてもこの点を考慮しています。また、既存の制御システムを最先端の技術に変換することも重要です。

さらに、エネルギー効率の問題は、製品開発プロセスや購買決定においても考慮されます。

優れたエネルギー管理を行うことは、環境と私たちのビジネスの両方にメリットがあります。効率改善はコスト削減に反映されるだけでなく、消費量を削減することで排出量にも影響します。ドイツ、ポーランド、中国の工場では、ISO 50001の認証を受けたエネルギー管理システムを導入しています。ま

た、その他の場所での消費量も体系的に記録しています。私たちが使用しているツールには、WAGOのエネルギー・メータとコントローラ、そして独自のエネルギー・データ処理ソフトウェアがあります。すべてのデータは拠点間で分析され、エネルギー収支を計算するために本社のソフトウェア・ソリューションに統合されます。

これにより、エネルギーを大量に消費するプロセスや、エネルギー消費を恒久的に削減するための重要な情報を、確実に特定することができます。この考えに基づき、環境とエネルギーのタスクフォースは、私たちの生産をより持続可能で環境に優しいものにするためのプロセスを計画しています。生産部門では、射出成形、金型製造、組立、プレス、テクニカルサービス、環境、廃棄物、エネルギー管理があります。このタスクフォースは4週間ごとに開催され、各会議で1つの重要なトピック（報告年に取り上げられたペーパーレス生産など）について説明しています。

ゾンデスハウゼンの事業所だけで8トンのプラスチックテープを節約したほか（P.36「分別とリサイクル」を参照）、タスクフ

ォースの成果として、これまで容器のラベリングに使用されていた年間2,000枚以上のプラスチック製郵送用パウチやカラー印刷物を廃止することができました。さらに、エネルギー・アドバイザーが具体的な節約の可能性を見つけ、生産部門におけるエネルギー効率の高いプロセスに特に注意を払い、そこで働く従業員に助言しています。たとえば、WAGOのエネルギー調査役は圧縮空気の効率を高めるプロジェクトを実施しています。同時に、トレーニングや情報イベントを通じて、責任あるリソースの使用に対する全従業員の認識を高めます。また、サステナビリティプログラムのトピックを取り上げ、プロジェクトや課題を導き出すためのワークショップも開催しています。





WAGOの電力消費 (KWH)

	2021年*	2022
電気	71,051,240	↑ 74,600,232
暖房用オイル	365,165	↓ 322,738
天然ガス	28,553,794	↓ 27,464,898
ディーゼル (非常発電用)	-	29,597
ガソリン (社用車)	-	2,940,839
ディーゼル (社用車)	-	10,046,666
総消費量	-	115,404,970

効率化のため、2021年から2022年にかけて電力消費量を収入1ユーロあたり0.084kWhから0.076kWhへと9%以上削減しました。
(電気、暖房用オイル、天然ガス)

*2021年の燃料消費量のデータはありません。しかし、他のエネルギー源の傾向を示すため、不完全なデータですが参考として提示しました。

目標とする消費削減対策

ミンデン本社では2014年からコージェネレーションシステム (CHP)が稼働しています。2022年には、新しいトレーニングセンターの建設の一環として、別のトレーニングセンターが追加されました。発電した電力は自社で使用し、廃熱は建物の暖房と吸収式冷却機による冷却水の生成に利用しています。この効率的な技術は現在、複数の場所で使用されています。ゾンドスハウゼン工場では、圧縮空気と熱ユニットの組み合わせと吸収冷却および自由冷却のおかげで、2018年以降、年間1GWh以上のエネルギーを節約しました。これは434t以上のCO₂e (カーボンフットプリント) に相当します。2020年以降、ミンデン本社の射出成形工場の屋根に設置された太陽光発電システムは、報告年度には約282MWhの気候変動に配慮した電力を供給しています。2022年のドイツの平均的な電力構成と比較すると、ミュンヘンからベルリンへのフライト937便に相当する、CO₂eの約120tの節約に相当します。しかし実際には、これは工場の2022年電力消費量の1%にもなりません。2023年の初めに、さらに2つのソーラーシステムが稼働し、ペピンハウゼン工場で670kWhp、インド工場で1MWhpの電力を発電しています。将来的には、このシステムをペピンハウゼンで運用することにより、工場に必要な電力の約6 %を生成し、年間約185tのCO₂eを節約する予定です。

インド工場では、このシステムを導入することで購入する電力を半分近く削減し、2022年と比較して約775tのCO₂eを削減できます。

しかし、私たちが世界中でよりスマートなエネルギー利用を実現するために行っているのは、こうした取り組みだけではありません。例えば、2022年には中国で使用されている冷蔵システムを切り替え、年間1.6GWh以上を節約し、気候に悪影響を与える冷媒の消費量を削減することができました。これは、自動車が280万km以上走行した場合の排出量に相当します。ポーランドの拠点では、組立て工場の照明をLEDに切り替え、約14,000kWhの電力消費を削減しました。



»エネルギーを転換するだけでなく、それを実践的にモデル化したいと考えています。私たちは、従業員の意識を高め、エネルギー消費量を削減するための具体的な対策を講じることで、このような取り組みを行っています。これは、長期的にNet-Zero目標を達成するために重要です。«

アヒム・ツェルプスト, エネルギー部門 マネージャー

WAGOのオートメーションソリューションにより、ビル照明、ブラインド、空調連動、デマンド対応の電力利用が可能になります。また、ミンデンでは気象予報データを利用して、省エネのために室内空調をより効率的に制御しています。当社の熱エネルギー節約量は約190,000 kWhと算出されています。ゾンダスハウゼンの射出成形工場では、熱回収を組み込んだ換気システムに変えることにより、さらに25,000kWhの電力削減が見込まれています。

将来的には、油圧式機械を電気式機械に徐々に置き換えていくことで、さらなるエネルギー節約も可能になると考えています。主要な生産数値を表示するダッシュボードも、生産

効率の向上に役立ちます。また、圧縮空気を利用した効率改善プロジェクトも開始され、電力消費をさらに削減しています。

例えば、ゾンダスハウゼン工場では、設定圧力を下げること、4%のコスト削減を見込んでいます。

年間

2,500 t
の CO₂e 削減

= 20 万本

の ブナの木
に相当



ここに述べた対策は、私たちの活動の一部に過ぎませんが、それだけで年間約2,500トンのCO₂e削減につながると推定されます。これは20万本のブナの木が1年間に吸収できる量に相当します。

世界中への輸送の効率化

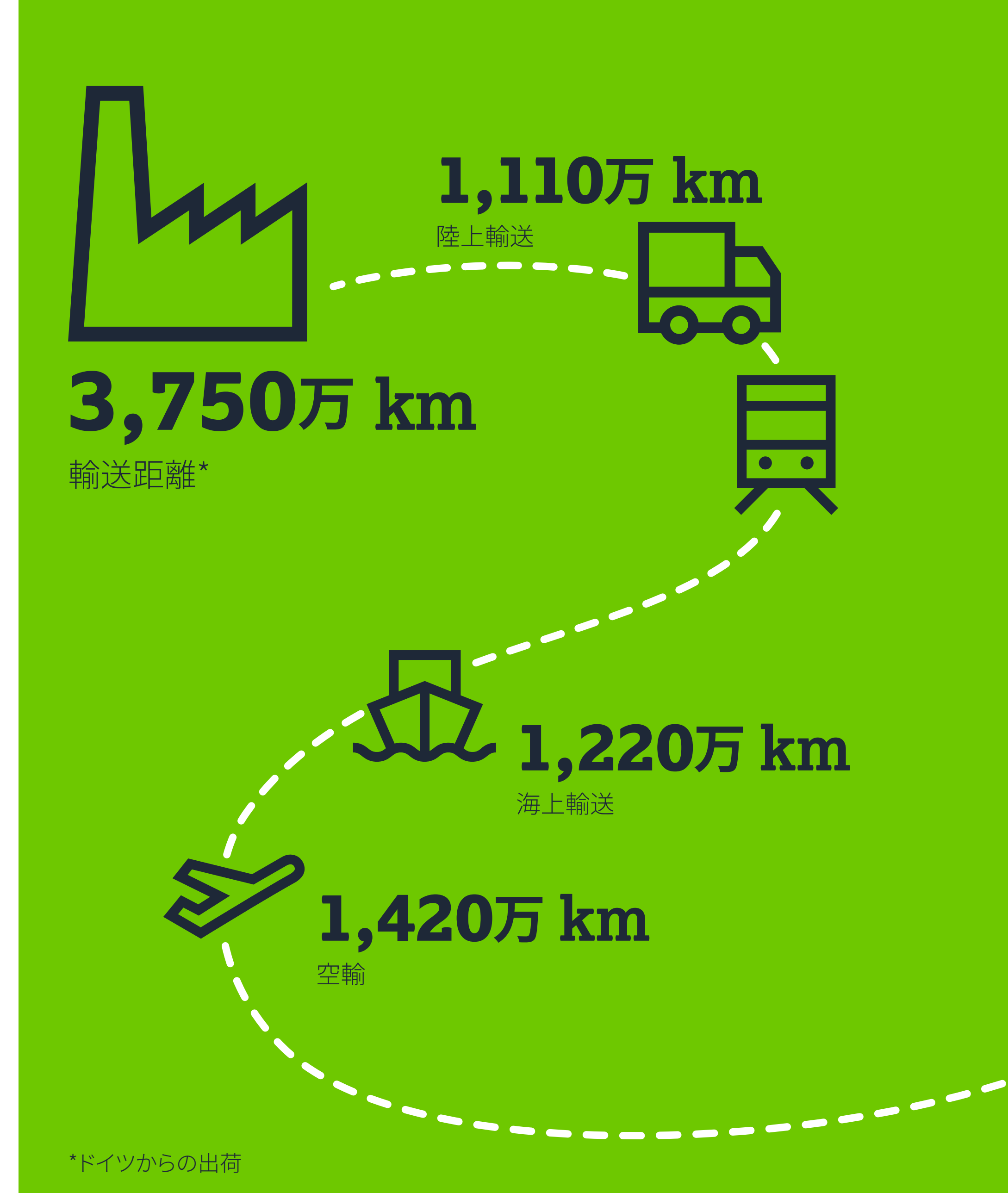
排出量の削減においては、前述のようにスコープ3が大きな力を発揮します。これらには、物流から生じる排出も含まれます。WAGO製品は世界中のさまざまな産業や用途に使用されています。出荷には、グローバルハブとして機能するゾンダスハウゼンの中央倉庫から目的地まで輸送します。ヨーロッパ、中東、アフリカの顧客に直接出荷するほか、アメリカやアジア太平洋地域を担当する拠点にも出荷します。社内の生産ロジスティクスはもうひとつの側面であり、ここでは生産品の供給、個々の部品や原材料の倉庫保管、リサイクルパートナーとの連携による廃棄物の処理に重点を置いています。

物流の効率化

社内のエンジニアリングチームを含むロジスティクス部門の従業員は、社内プロセスであれ社外流通であれ、より高い効率性と柔軟性を実現するために、常にプロセスの最適化と自動化レベルの向上に取り組んでいます。社内保管コンテナや海上コンテナの充填量を増やすことで、輸送距離を1キロメートル単位で最大限に活用するなど、すべて持続可能性に目を向けて行っています。また、特定の大口顧客に直接再使用可能な容器で製品を出荷することで、材料消費を減らすだけでなく、顧客の側で商品の受領を大幅に効率化できます。たとえば、長期的なパートナーのひとつである電気卸売業者のSoneparと協力して、2018年以降、廃棄物とトラック輸送の両方を削減し、それに伴ってCO₂排出量も削減しました。今はドイツ国内でプロジェクトを進めており、2023年にはSonepar Suisseにも拡大する予定です。また、2022年だけで1トン以上の荷物を運ぶために使用されていた使い捨て段ボールも排除されます。現在、この環境に優しい流通コンセ

プトをスイスの他の顧客にどの程度提供できるかを検討しています。納期と輸送距離の短縮のため、生産拠点では可能な限り顧客に直送します。ゾンダスハウゼンに建設した新しい海運倉庫も大きく貢献しました。計画段階から化石燃料不使用ビルの運用や太陽光発電の導入が検討されました。

報告年度には、150万個以上の荷物がドイツの3拠点から出荷されましたが、その大半はドイツの倉庫から出荷されたもので、陸路、海路、空路による輸送距離は3,750万キロに及びました。





06 社会貢献



認識と参加

持続可能な未来を目指すには、私たちが協力することが必要です。
そのために従業員を巻き込み、社会的コミットメントを強化しています。



WAGOは持続可能な社会の実現に向けて取り組みます

WAGOは全従業員に対して、すべてのプロセスと決定において持続可能な行動が当たり前の事になるように促していきます。単に知識を与えるだけでなく、参加する機会を作り、未来を形作る手助けをすることが重要なのです。さらに、何が目標で何を達成できるのか、また、それに伴う課題についても、透明性がある正直な報告を行います。

WAGOは、さまざまな社内チャネルを通じて、サステナビリティ活動の状況を常に最新の状態に保っています。WAGOの戦略に関わる全ての事項をWAGOニュースを通じて伝えています。特に関心を持つ読者のために、WAGOのサステナビリティブログでは最善の方法や成功例を共有し、持続可能性に関する最新情報を提供し、トピックを明確にしています。また、従業員はマイクロブログでX (旧Twitter) のような簡単なメッセージを投稿することができます。

WAGOは、サステナビリティアンバサダーのネットワークを構築し、幅広い分野で活動を強固なものにし、従業員のアイデアが確実に伝えられるようにすることを目指しています。その使命は、全社的なコミュニケーションをさらに促進し、それぞれの職務領域における持続可能性に関するトピックを推進することです。WAGOの持続可能な開発に積極的に参加するもう一つの選択肢は、社内アイデアコンテストである「Kickbox」で、これにより、持続可能な製品が誕生しました（詳細については、「リサイクルへの取り組み」および「ウェルビーイングへの取り組み」を参照）。

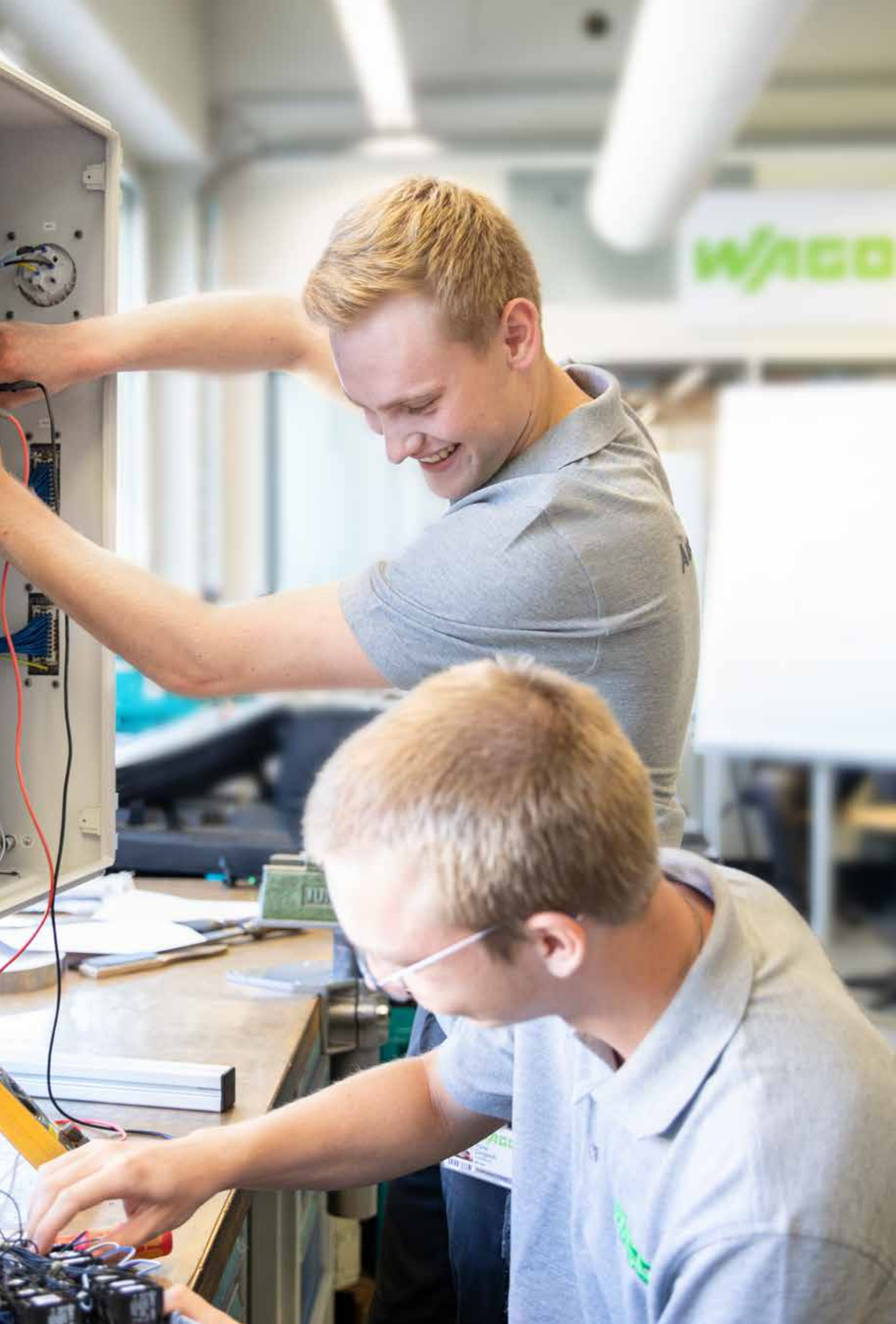
また、研修生や新入社員とも考えを共有しています。サステナビリティは、すでに入社プロセスの不可欠な要素となっています。商工会議所 (IHK) との協力のもと、私たちは毎年、研修生の何人かを電力問題に関して改善余地を探れるように養成しています。彼らは特に気候保護に関連して得た知識をWAGOに持ち帰ります。また、企業ボランティアの一環として、年2回Mindener Tafel (スーパーマーケット) での活動に参加しています。

当社の従業員は、新入社員であろうと経験豊富な管理職であろうと、サステナビリティ関連のトピックについて定期的に教育活動を行うさまざまな機会を持っています。たとえば、省エネに関するトレーニングソフトウェア、カーボンフットプリントの概念に関するTechTrainingシリーズ、基調講演やプレゼンテーションなどがあります。将来的には、私たちが提供するサステナビリティ関連の継続教育をすべて組み合わせて、体系化された"サステナビリティ教育プログラム"を作りたいと考えています。



世界各国のキャンペーン ー従業員の参加

サステナビリティは共通の責任です。私たちは協力することでより多くのことを成し遂げることができます。従業員の貢献の重要性に対する意識を高めるため、報告年度を通じてこの問題に関するキャンペーンを数多く実施しました。例えば、スイスではステッカーやショートビデオを使って、使わない時はPCなどの電子機器を切るように促しました。ポーランドでは、手洗い時の節水など持続可能な活動を推進するステッカーのキャンペーンも行いました。インドでは安全週間の一環として、さまざまな社内研修を通じて環境 エネルギーマネジメントや安全に関する知識を共有しました。



世界中での WAGOの取り組み

私たちは各地域ごとに責任を担っており、グローバルに事業を展開しているあらゆる場所で、地域社会の積極的な一員でありたいと考えています。参加する方法についての決定は、各地域で行われます。その結果、私たちはさまざまな問題に取り組み、認知された組織やイニシアティブとのパートナーシップを維持しています。これらすべては、従業員の熱意と意欲の賜物です。

誰かのために行動する

本社はドイツのミンデン市にあり、私たちはこの周辺地域に何十年も前から深く根ざしています。私たちが頻繁に行なっている活動には、慈善活動や緊急に支援を必要としている人々のための募金活動などがあり、その組織プロセスは自発的です。その他にも、2017年からボランティア組織、「Mindener Tafel」と密に協力し合うなど、長年にわたる継続的な取り組みが行われています。WAGO労働安全部門のスタッフは地域の労働安全委員会に助言を行い、産業トラックの安全取り扱いなどのトピックに関するトレーニングを実施しています。毎年アドベント（待降節）の時期には、クリスマスの小包を届ける活動にも参加し、Mindener Tafelの支援に頼っている人々のためにクリスマスの願いを叶えています。

ヨーロッパ最大の非営利IT企業であるAfB gGmbH社との協力により、省資源と社会貢献が実現しています。そこで、WAGOの中古ハードウェアはAfBの従業員の約45%を占めている障害のある人々によって修理されています。その後、当社従業員は割引価格で再生品としてデバイスを購入することができます。このプロジェクトの環境への影響についての詳細は、P.29「リサイクル」を参照してください。





»WAGOは、サステナビリティ活動に社員が積極的に参加する機会を提供します。«

ジェシカ・フランチェスコニ, インターンシップ従業員
コーポレートサステナビリティ担当



私たちの取り組みを根付かせる

環境面では、ドイツ森林保護協会 (Schutzgemeinschaft Deutscher Wald) のノルトライン＝ヴェストファーレン支部による、気候的に安定した混交林の再植林を支援しています。私たちはこの活動を、従業員やその他のステークホルダーに参加してもらうキャンペーンと組み合わせ定期的に行っています。報告年には、75名のWAGO従業員が3週間車の使用を止め、市のサイクリング運動に参加しました。寄付金は1キロあたりで集められ、その半分はWAGOフォレスト (WAGO Wald) イニシアチブに寄付されました。ハノーバーメッセ2023では、当社のブースに設置した「サステナビリティ通り」を歩いた来場者に苗木を寄贈しました。このキャンペー

ンだけで4,600本の木が植えられ、それを5,000本に増やしました。毎年6月5日の世界環境デーには、ドイツ全土で植樹キャンペーンを実施しています。2021年と2022年には、19種4,800本近くの木を植えることができました。

海外企業も参加しています。例えば、WAGOインドは年間1,800本以上の植樹を行っており、WAGO中国は百万森林プロジェクトの一環として中国西部に2,000本以上の植樹を行っています。

次世代への最高の機会

1998年に、私たちはWAGO基金の取り組みを始めました。2019年までに、一部の職種の研修生は優れた試験成績を上げたことにより表彰されました。WAGO基金は設立以来、革新的なアイデアとコンセプトを促進することを目標としています。



3,000

時間以上の
慈善活動

WAGO 中国



»社会的コミットメントはWAGO中国の持続可能な取り組みの中心的な役割を果たしています。環境、経済、社会の調和、持続可能性のために不断的努力を続け、健全な事業を確保していきます。«

石磊 (シー・レイ), WAGO中国 サステナビリティマネージャー



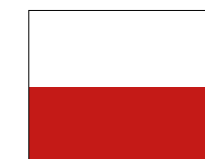
国際的な活動

1,300人以上の従業員を擁するWAGO中国は、天津省の重要な雇用主であるだけでなく、生活の質の向上を推進する大きな役割を果たしています。WAGOの地域サービスボランティア部では、すでに3,000時間以上の地域サービスを行っています。教育も、特に力を入れている分野です：いくつかの小学校には図書館と技術室が設置され、主に農村部の生徒にとって大きな財産となっています。また、WAGOボランティアは、さまざまな大学の学生にキャリアや将来の計画についてアドバイスします。現在、300人の若者がこのアドバイスを受けています。報告年には、車椅子の患者がリハビリ訓練を受けて生活に戻る過程を支援する「車椅子のリハビリプロジェクト」の支援も行いました。夏の間、中国北部の最大

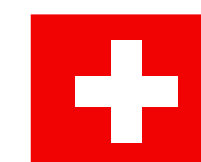
の湿地とそこに住む野鳥を守るために、特別な3週間のキャンペーンが行われました。CSRチームは毎日ウォーキングを実施し、歩いた歩数に応じて現金が寄付されました。407名のWAGO従業員とその家族がボランティアで参加し、長距離を歩きました。



WAGO インドは教育条件の改善にも取り組んでおり、グジャラート州のカルジャン工業訓練校にITルームと設備を設置した実績があります。



ポーランドでは、チームは特にウクライナの人々、そしてそこからの難民を支援するために、現金と物資を寄付することを決定しました。また、各拠点で動物愛護に注力しています。



WAGOスイスは、ヴォー州とフリブール州の教育、文化、スポーツ、社会問題に関連するさまざまなイニシアチブ、プロジェクト、団体を後援しています。



07 ウェルビーイング



健康とウェルビーイング

WAGOは従業員の健康と安全に焦点を当て、多様で包括的な文化を推進しています。

WAGOで働く すべての人に

— 最も重要なのは人と人とのつながり

WAGOは従業員の健康を第一に考えています。予防と訓練を通じて、健康の維持を支援します。《

バルトシュ・シュテヘルバコウスキー, WAGO ポーランド, EHS マネージャー

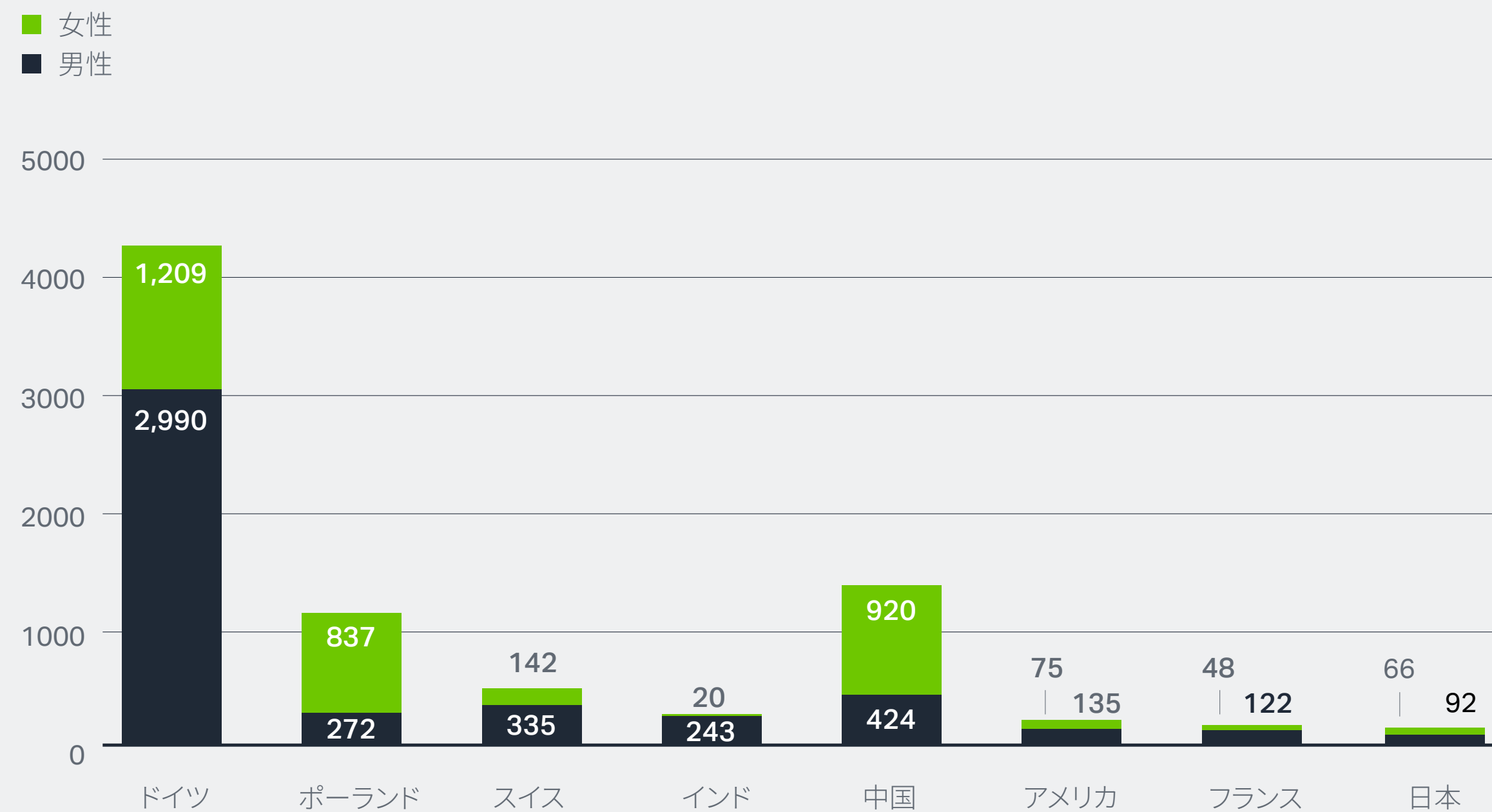
私たちは、日々従業員がコミットしてくれるように私たちも彼らにコミットし、成功を分かち合いたいと考えています。たとえば、アイデア、個性、能力開発の場を提供し、互いに尊敬し、魅力的な条件と福利厚生を誇る職場環境を作ることも重要です。この取り組みには、公正な賃金および従業員の仕事と私生活のバランスを取ることをサポートする柔軟な働き方やその他のサービスが含まれています。世界中のWAGOの4分の1以上の従業員に、在宅勤務の選択肢があります。ドイツでは3分の1です。

とで、従業員のキャリアと家庭生活のバランスを取り、家庭生活と健康をサポートするのに役立てています。また、会社の年金プランも用意しています。WAGO中国は、すべての従業員に対して社会保険および追加保険を提供しています。

ミンデン、パピンハウゼン、ゾンデスハウゼンのドイツ拠点は、IGメトール労働協約の対象となります。WAGO従業員の92%は、労働協約の対象となります。その他の雇用条件は、各国の法的要件と基準に基づいています。従業員は、従業員代表委員会を代表として、会社の重要な意思決定に対する発言権も有しています。ドイツでは従業員向けのさまざまな制度を「WAGO Plus」の規則に従って組み合わせるこ

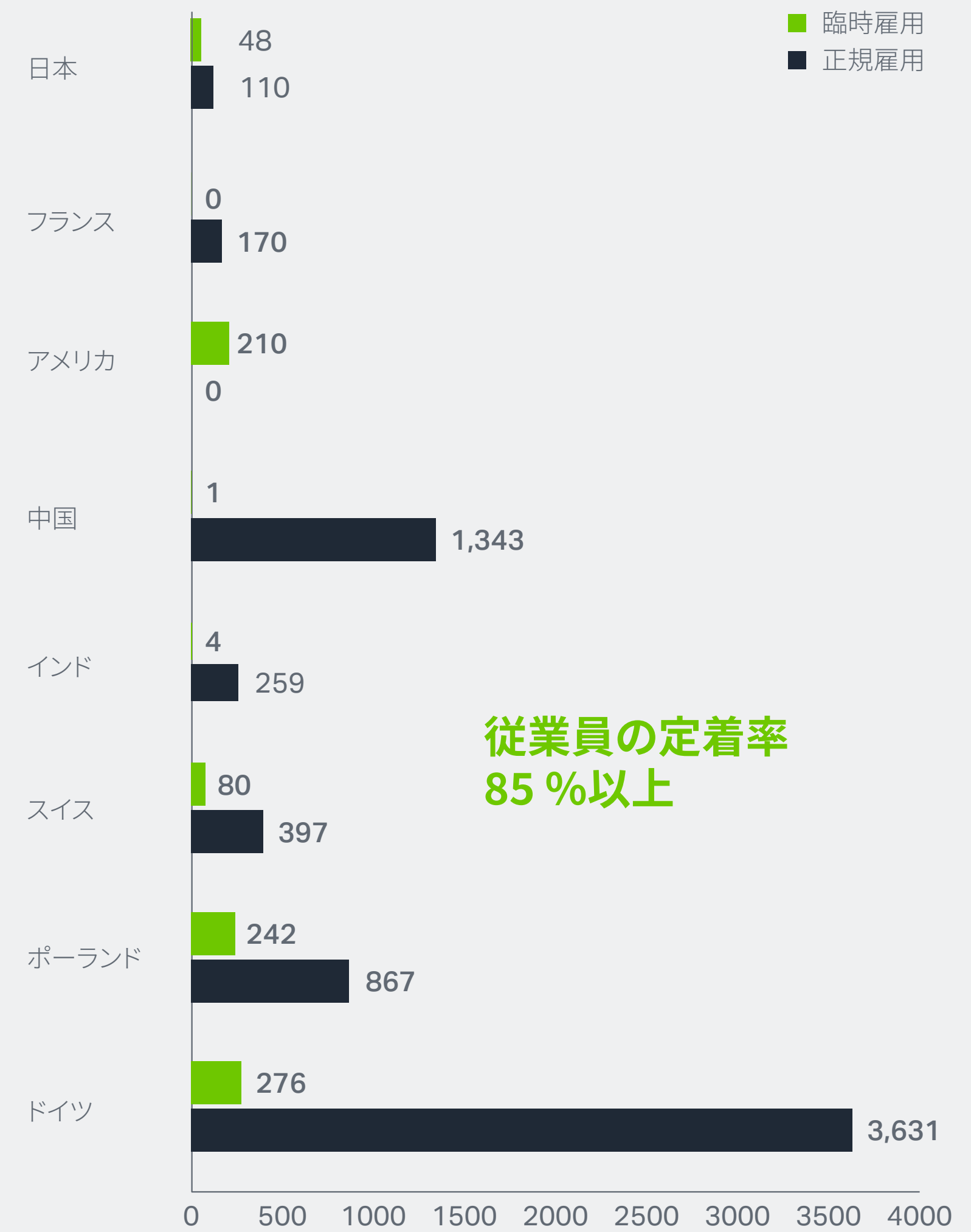
WAGO の従業員数

事業所および性別従業員数*



*報告書の範囲に基づくすべての内容は当社の生産拠点に勤務する従業員（報告年度の従業員数は7,811名）に関するものです。

地域別雇用数**

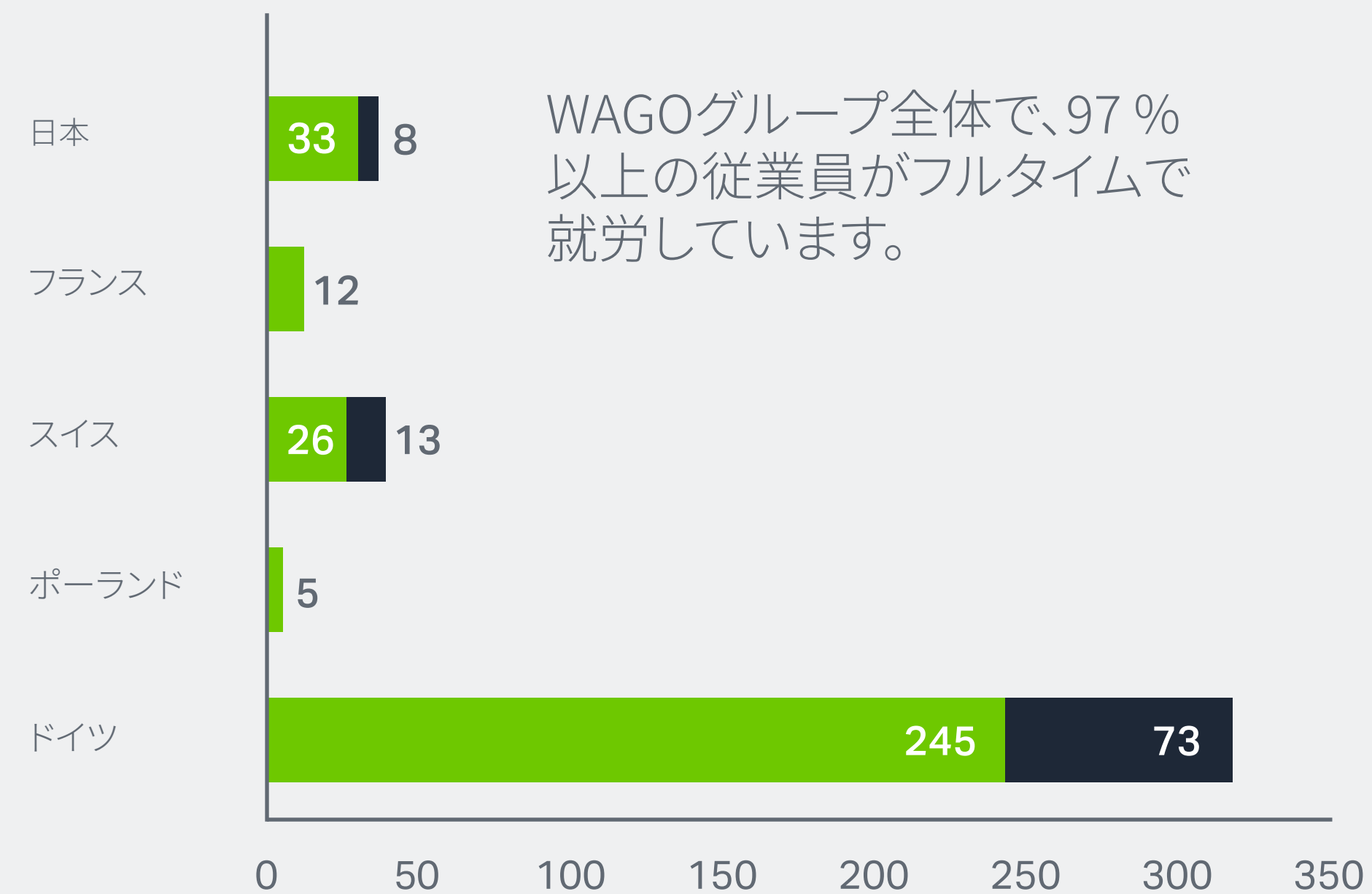


**研修生、学生労働者、デュアル教育システムの学生は含まれません。

WAGO の従業員数

性別および地域別パートタイム従業員数*

■ 女性
■ 男性

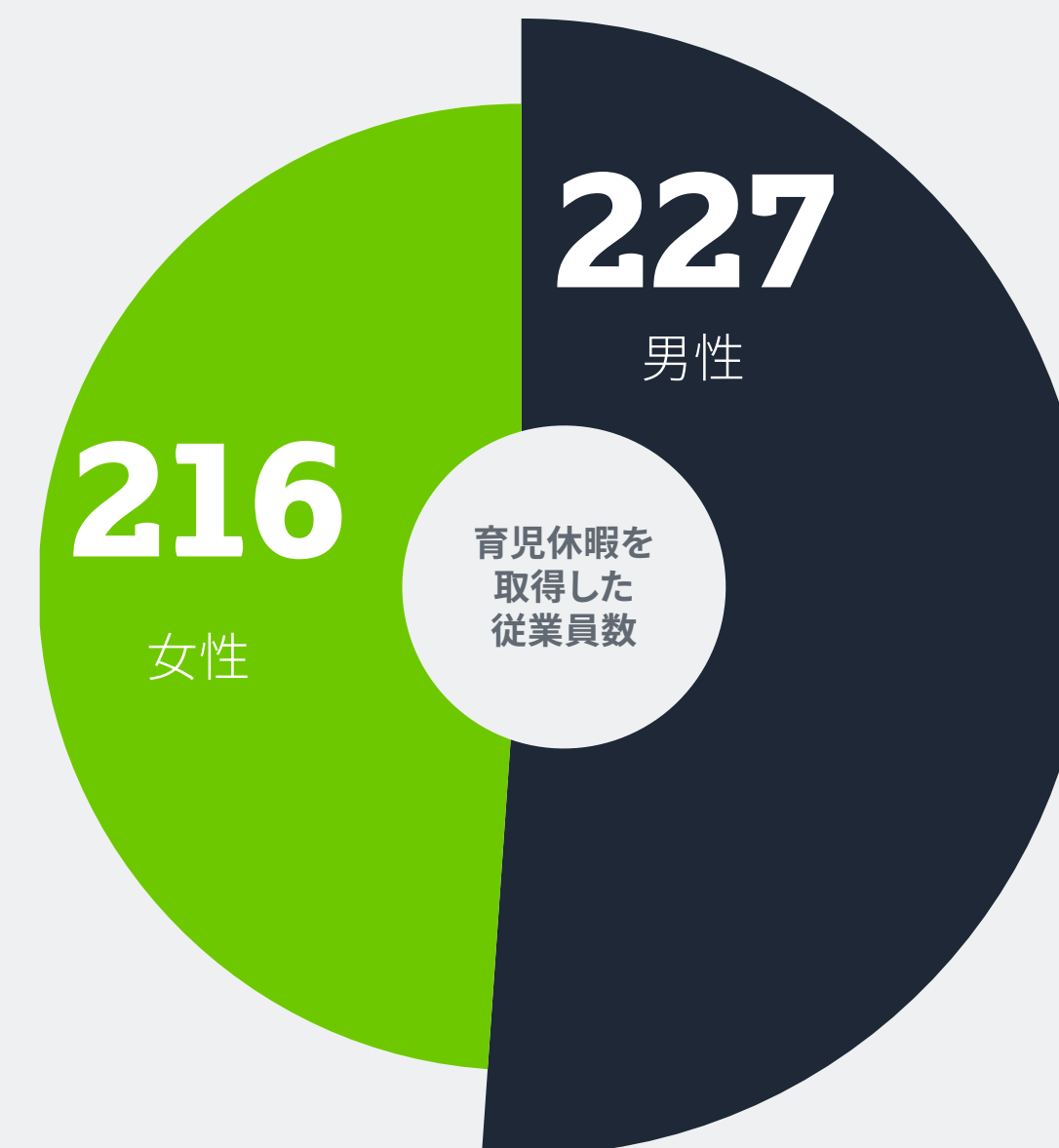


my voice@wago による社員アンケートの結果より抽出

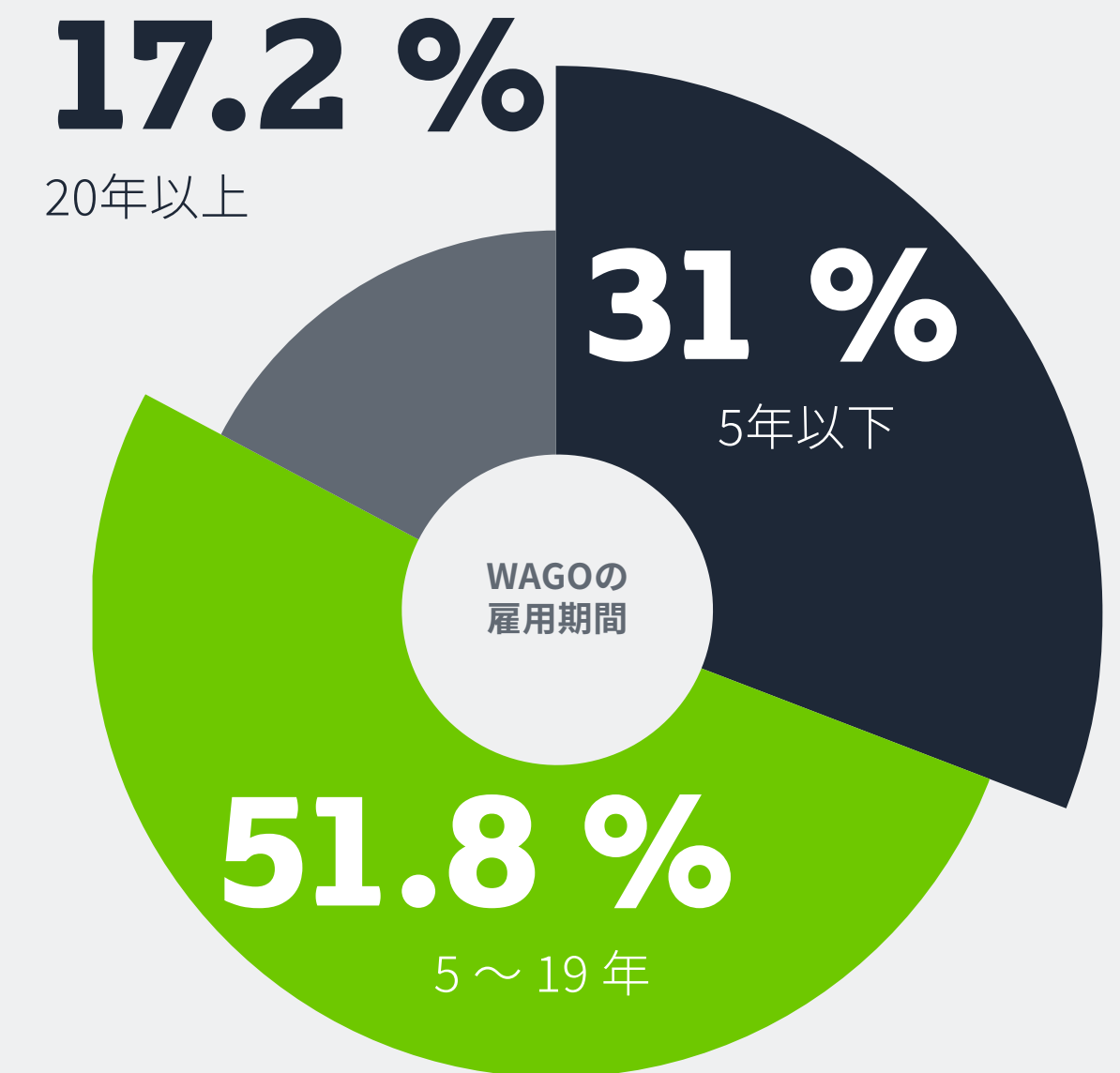
ドイツとポーランドの参加者の85%が、経営陣に信頼を寄せていると回答しました。

91 %が、自分のスキルや専門知識を仕事に生かせると感じています。

84 %が、WAGOは従業員の利益を尊重していると感じています。



*アメリカ、中国、インドにはパートタイム従業員はいません。



全工場の離職率は7%で、金属、電気、鉄鋼業界の平均を大きく下回っています。派遣労働者を含めると11.5%です。

派遣社員を常時雇用しています。
報告年度の派遣社員の人数：**705人**

* 育児休暇は主にドイツと中国の従業員が取得しています。

将来性があり 従業員に魅力的 であること

私たちは、現在の従業員のためだけでなく、新たな熟練したプロフェッショナルや人材を惹きつけ続けるためにも改善したいと考えています。他の多くの企業と同様に、ドイツの産業も熟練労働者の不足に直面しています。丁寧なコミュニケーションと迅速な応答時間を特徴とする明確に構造化された長期的な採用プロセスを確保するために、WAGOはリージョンHRプロジェクトを立ち上げました。

報告年度には、特にパンデミック（世界的大流行）以降、リモートワークが多くなったWAGOの結束力を高めることを目的に、グローバル人事戦略プロセスを開始しました。この活動を通じて、一体感を育んでいきたいと考えています。その結果が、私たちの新しい人事ビジョン「All of us for all of us – Connecting. Human. Sustainable.」であり、2023年初めに経営委員会が採択しました。



すべては私たちのために
つながり、人間性、持続可能性。

🔍 HRミッション

WAGOはパートナーシップに基づいてグローバルに協力します。

WAGOは、家族的価値観、明瞭制、革新性に基づきすべての従業員をサポートします。

WAGOは常に人を第一に考えたニーズ重視のソリューションを創造します。

WAGOの持続可能な未来を共に作ります。

2015年以来、TÜV Rheinland社からExcellent Employerシールを受賞したことを誇りに思います。2022年には、ドイツの持続可能性とデジタル化のためのイノベーション研究所(DIND)から雇用主賞を受賞しました。WAGOの海外拠点も魅力的な雇用主です。WAGO中国は、人材育成から福利厚生、コミュニケーションに至るまで、幅広い領域で継続的な改善を行った結果、3年連続で「Top Employer China」に認定されました。WAGOポーランドは、名誉ある「働きがいのある会社」の称号を再び受賞しました。これは、参加企業約2,000社のうち、67社のみが受賞した栄誉です。評価には、労働条件、人事政策、社風などの要因が考慮されます。



WAGOは、さまざまなキャリアモデルや展望を通じて、従業員のさらなる成長を促します。彼らは将来を成功させ、持続可能なものにするからです。《

パスカル・シュティーガー、人事部長

多様性を強みに

WAGOは皆、お互いを補い合う人たちであると信じています。ますます複雑化する市場環境において、WAGOは従業員のさまざまな強み、能力、経験、展望から利益を得ています。2017年から、WAGOはドイツ最大の企業イニシアチブであるダイバーシティ憲章の熱心なメンバーとして、企業や機関の多様性を促進しています。私たちは積極的なダイバーシティ・マネジメントに取り組み、イニシアチブが主催するダイバーシティ・デーに毎年参加しています。

* AGG＝ドイツ平等待遇一般法
(Allgemeines Gleichbehandlungsgesetz)



私たちはすべての従業員を尊重し、性別、国籍、出身民族、宗教、信条、障害、年齢、性的指向、アイデンティティに関係なく、従業員同士が尊重し合い、協力し合うことを期待しています。WAGOでは差別は断固許されません。「職場における同僚の行動」マニュアルは、この姿勢を明確にするだけでなく、差別の背景情報や行動の具体的なヒントを従業員に提供します。現在、全世界のWAGO従業員の2.6%が障害者です。これは正式な報告に記載されている数値と認識しています。WAGOはワーキンググループや利益団体を通じて、このトピックに対するオープンなアプローチの認識を高め、彼らの懸念が可能な限り考慮されるよう努めています。

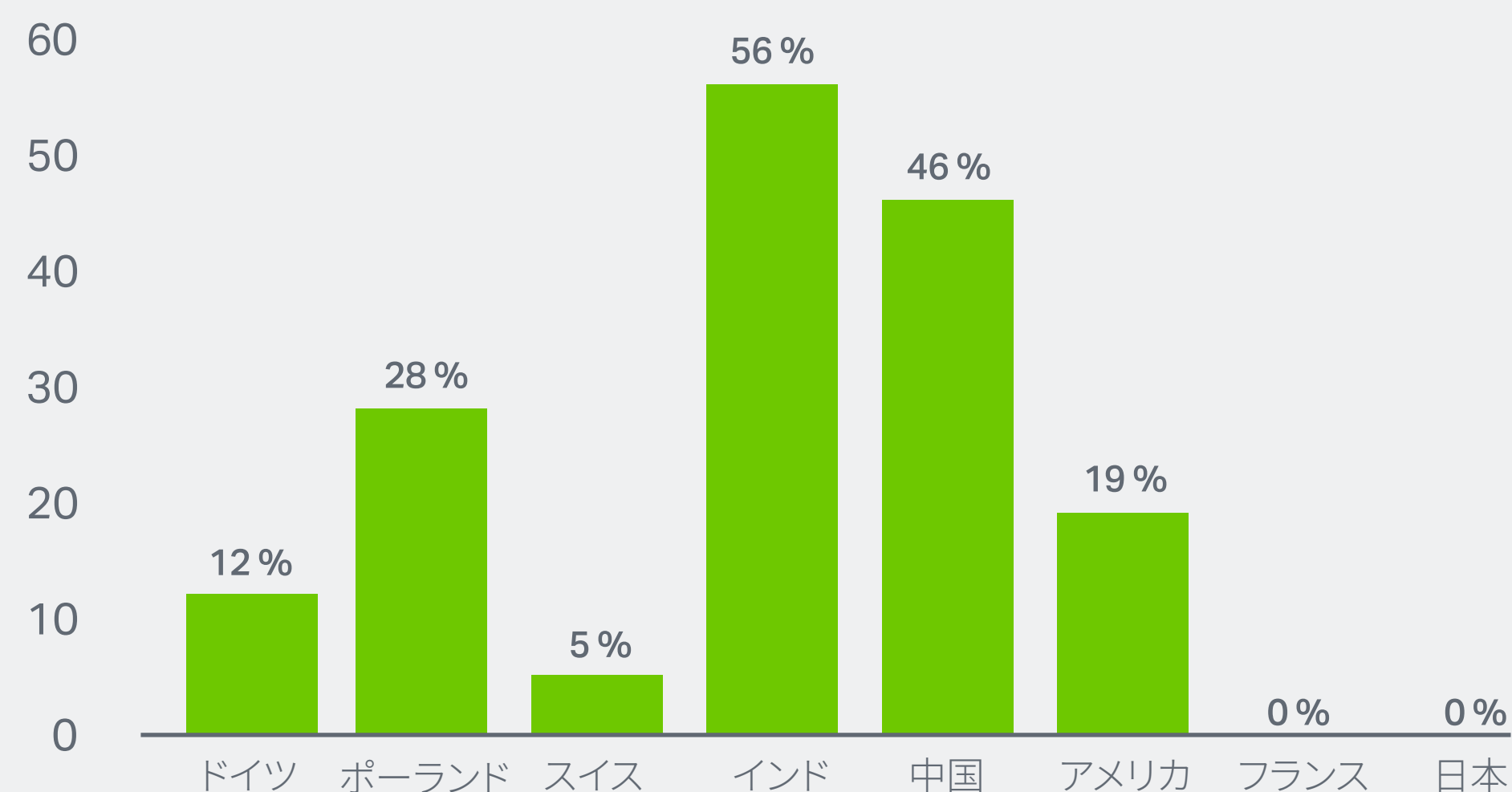
それでも嫌がらせや差別が発生した場合、労働協約が適用されます。ミンデンとゾンデスハウゼンの事業所では、従業員代表と雇用主であるWAGO代表からなる問題解決チームが設置されました。特にハラスメントに関わる問題は、可能であれば問題解決チームの助けを借りながら、相互の合意によって解決されなければなりません。調停手続きは秘密厳守であり、要請があれば、従業員代表委員が同席することもあります。双方の合意が得られない場合には、労使協議会と連携してさらなる対策を講じます。特に深刻なケースでは、雇用関係を終了させる可能性があります。問題解決チームの他の責任には、予防策の導入と実施が含まれます。WAGOはチームを適切に訓練し、必要なその他のリソースを提供する責任があります。従業員代表委員会、インクルージョン オフィサー、AGG*代表者、経営陣、人事部は、差別やハラスメントの追加窓口となることができます。従業員の地位によっては、青少年 研修生代表組織または重度障害者代表組織も関与することができます。

2021年以降、WAGOではダイバーシティに貢献するすべての活動を、さまざまな利益団体で構成されるダイバーシティ・ワーキンググループに統合しました。その目的には、ダイバーシティ(多様性)問題に共同で焦点を当て、例えば、それに対応するコミュニケーション活動を計画し、経営陣への提言を作成することによって、従業員内の認識を高めることが含まれます。多様性を重視した人事政策に加え、研修や違反行為への対応も焦点となります。現在残されている課題のひとつは、特定の文化的特徴を考慮に入れながら、このトピック全体を国際化することです。

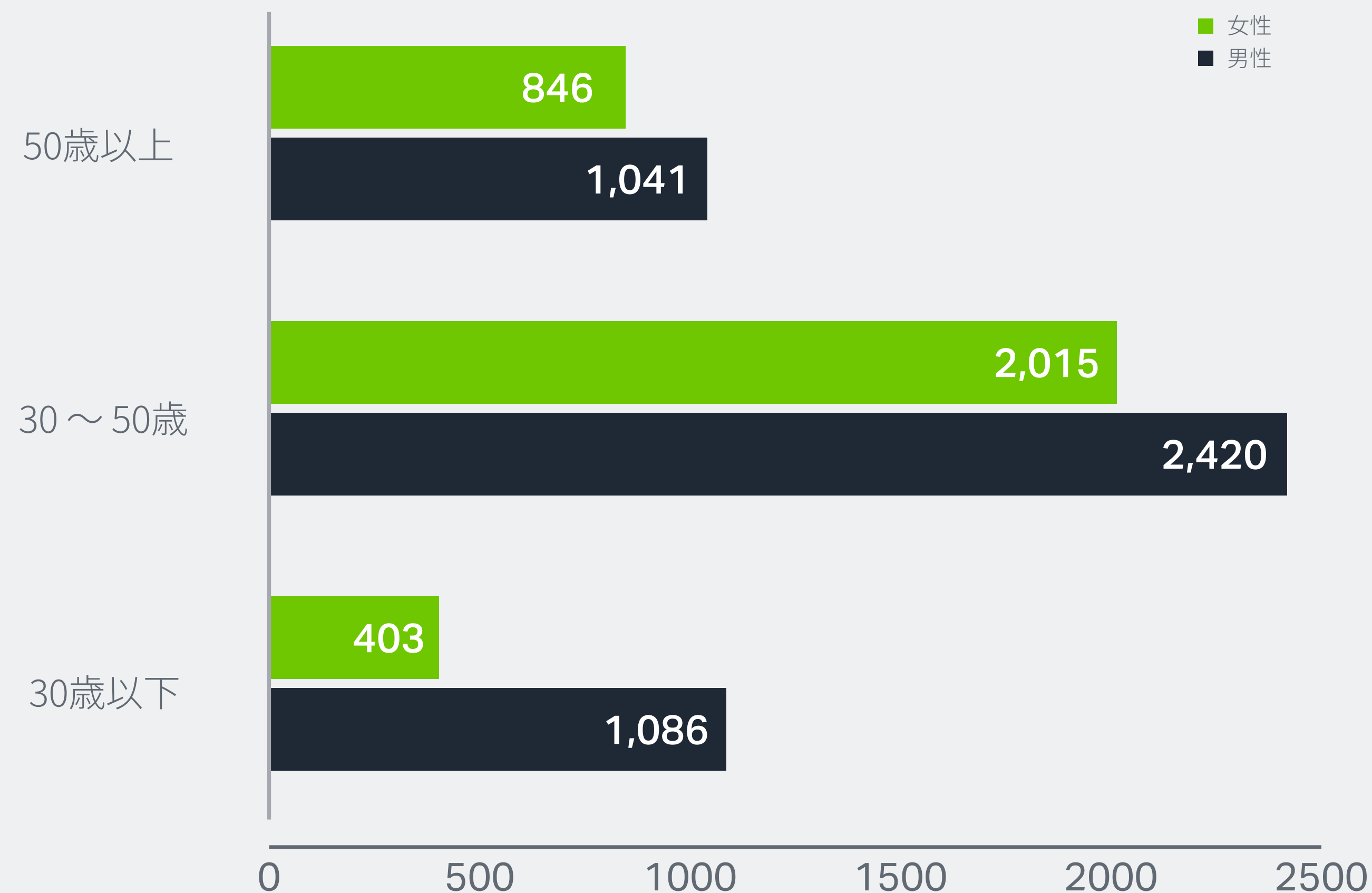
女性の地位向上への取り組み

トップマネジメントからチームリーダーに至るまで、従業員の42%、管理職の23%が女性です。後者の数字は、女性の管理職比率が16%だった昨年に比べ7%の増加を示しています。women@wagoでは、世界中の女性社員に対して、部署や拠点を越えた意見交換やネットワーク構築の機会を提供しています。そのために、年に数回、参加者のキャリアや自己啓発の機会に焦点を当てたデジタル会議を開催しています。役職に関係なく、ネットワークの価値観や目標が自分に関係があると感じる人なら誰でも歓迎しています。

各国の女性管理職比率



年齢および性別従業員数





報告年には多くのことが起こりました。ドイツでは、COVIDの後に初めて、定期的な夏と冬の小規模グループ形式でライブイベントが再び開催されました。小さなグループで、例えば「声を出して取り組む」学習法を使ったり、具体的な失敗を共有しオープンに話し合うなど、特定のテーマについて自信を持って取り組む機会が与えられました。経済的自立やメンタルヘルスに関する外部からの教育も受けています。また、「デジタルワールドツアー」を通じて国際化を推進しました。ポーランドがこのツアーをスタートさせ、その年の後半には同じ形式で中国の従業員も参加しました。ポーランドでは女性が労働人口の70%を占めているので、女性とそのニーズに焦点が当てられます。たとえば、従業員支援プログラム（詳細は72ページを参照）など、ワークライフバランスを実現するための支援や研修が含まれるほか、生産部門で働く女性の能力開発を特に支援し、平等な企業文化を促進する女性リーダーシッププログラムを通じて、女性管理職のためのコミュニティを確立することを目指します。また、乳幼児を持つ母親のために別のオフィスを提供したり、期間限定の製品を無料で提供するなど、個人個人の問題も考慮しています。

WAGO女性ネットワークは意欲的な計画を立て続けており、現在は国連の女性組織の「女性のエンパワメント原則」に参加しています。とりわけ、男女平等、女性の職業能力開発、女性のエンパワメントにつながる実践の促進を目指しています。目標は、社内の女性の認知度をさらに高め、戦略的行動計画に結び付けることです。

»WOMEN@WAGO ネットワークは、多様性への重要な取り組みです。WAGOは女性のエンパワメントに対する関心を高めるグループであると考えており、役員、プロジェクトマネジメント、専門家の役割における女性の認知度を高めることを目標としています。«

ナディーン・シラー、モナ クルーゼ, women@wago

年齢および性別による役員数

■ 女性
■ 男性



WAGOは成長の機会を創ります

"WAGOの研修プログラムは、プロフェッショナルとしても個人としても、成長を促進し、全社的なネットワークを広げるのに役立つ理想的な制度です。"

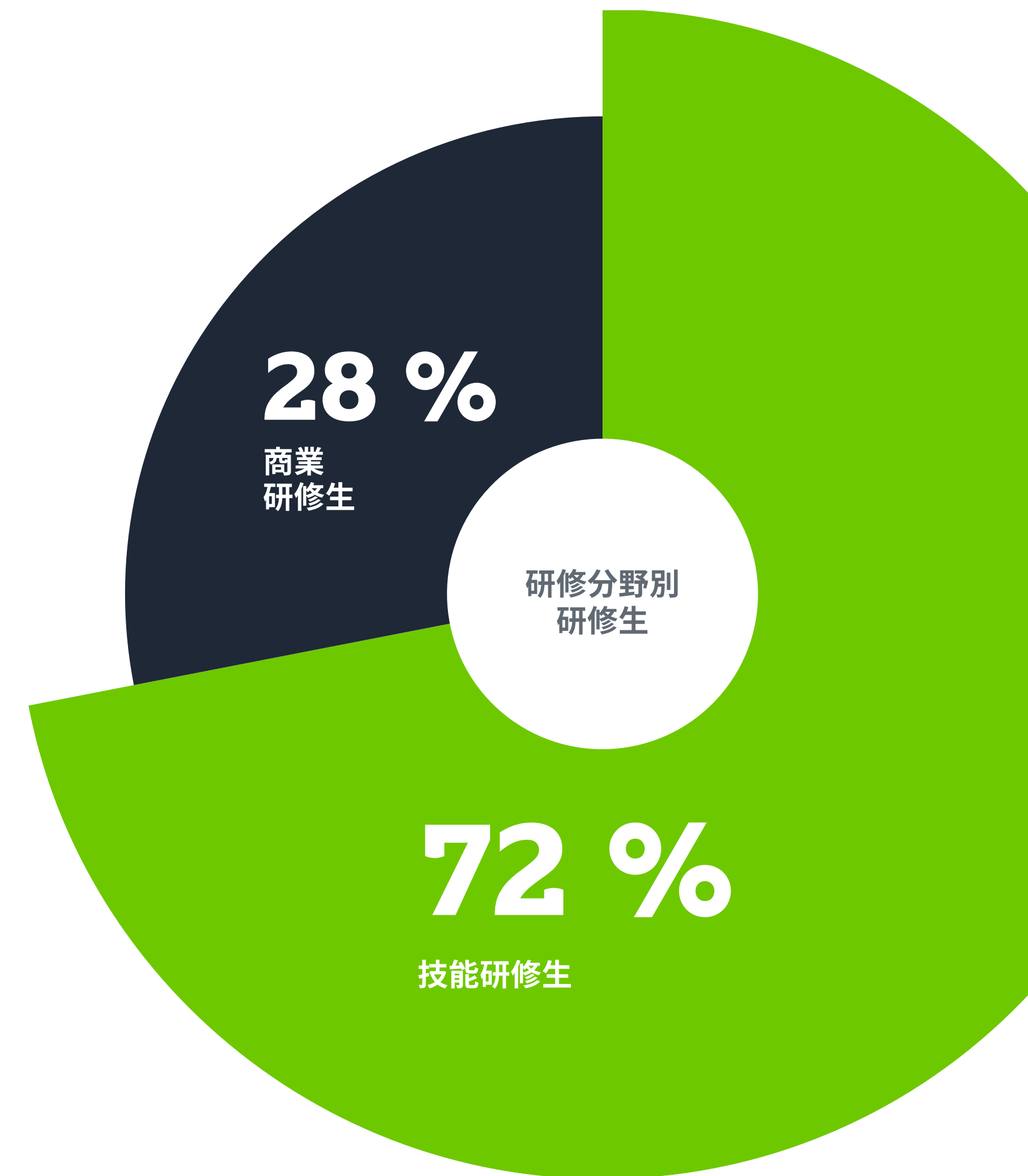
イボンヌ・パウアー, 企業分析／複雑性管理 データサイエンス研修生

WAGOは従業員に、家族経営の価値観に加え、グローバル企業として与えられるあらゆる機会を提供しています。私たちは従業員に対し、さまざまな方法で彼らの専門的 個人的な成長をサポートします。職業訓練やあらゆるレベルの従業員資格取得プログラムを通じて、研修生、キャリア入社者、経験豊富なエキスパートのいずれであっても、人々が潜在能力を最大限に発揮し、スキルを強化する機会を提供しています。

WAGOの採用

社会人としてのスタートには、さまざまな選択肢があります。工具機械工、オートメーション技術の電子技術者、産業機械工、システム インテグレーションのITスペシャリストなど、合計16の技術・職業見習いコースを提供しています。さらに、研修プログラムの一環として、大学を卒業した学生がWAGOに就職できるよう、個別で学際的なアプローチを提供します。研修生は18ヶ月の間、様々な経験をします。派遣先によって、それぞれの部門について学び、重要なテーマに積極的に関与し、海外滞在中に専門知識を深める機会を得ることができます。

最終段階では、研修生プログラムに続き、目標のポジションに向けて研修を続けます。



従業員あたりの
平均研修時間

14.64
時間*



デジタルトレーニング

追加研修
22,118 時間

2021年の研修: 平均10.3 時間

*デジタルトレーニングツールによるトレーニング時間は含まれません。

また、機械工学、ビジネス情報学、電気工学などの6つの分野の若い専門家に、東ヴェストファーレン＝リッペ地域のさまざまな大学と協力して、工学学士号または理学士号のコースを提供します。研修生と学生に対する包括的で個別的なサポートは、私たちにとって特に重要です。彼らは私たちとともにプロとしての将来の基礎を築く一方、私たちは将来の熟練スタッフを育成し、有能な若い人材を私たちの仲間として迎えることができると考えるからです。報告年には、ドイツ、スイス、フランスで333名の研修生と学生を35名の研修生が指導しました。そのうち100%近くが社員としてWAGOでの勤務を継続しました。2016年以降、ドイツの拠点は「Best Place to Learn (学習するのに最適な場所)」の認証を受

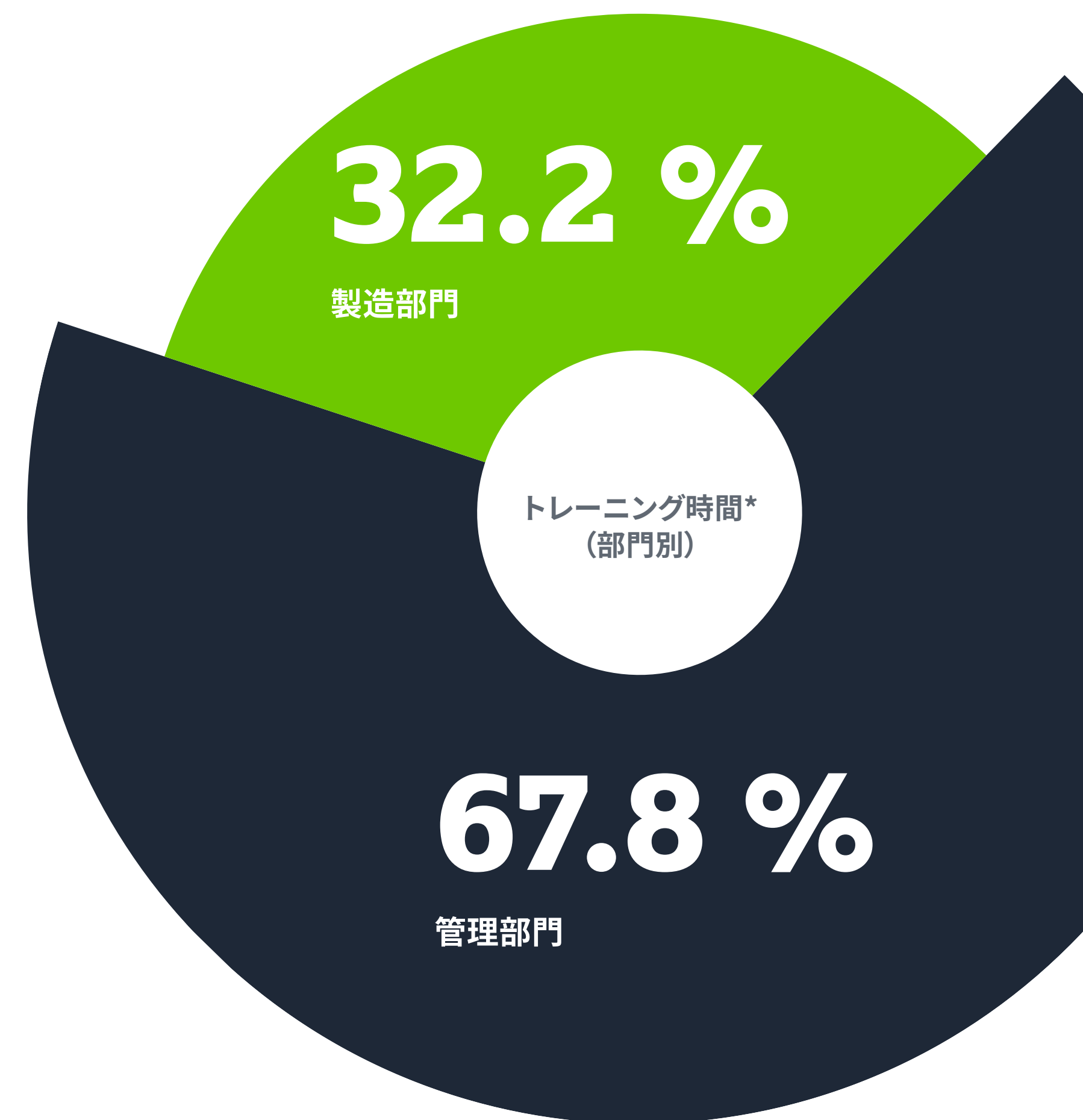
けており、当社が平均を上回る質の社内トレーニングを提供していることを証明しています。WAGOで初めて働く学生の選択肢には、高校生や大学生のためのインターンシップ、学生従業員のポジション、論文を書くためのポジションなどがあります。

教育 職業能力開発ネットワークZAM e.V.が提供する共同研修を通じて、当社ではさらに多くの研修生が研修を受けられるようにしています。

充実した教育プログラムで 成長をサポート

職場は変化しており、私たち企業もそれに合わせて変化しています。社員が新しいことを学び、知識を広げ、自分の強みをさらに伸ばすことができるよう、私たちはキャリアを通じて幅広いトレーニングと能力開発のオプションを提供しています。これらはWAGOの必須または法的に必要なトレーニングコースでサポートされており、生産に従事する従業員の技術設備とプロセス、防火や応急処置などの一般的な健康と安全のトピックをカバーするソフトウェアを使用して追跡します。省エネに関するサステナビリティトレーニングも含まれます。また、技術研修を通じて、基本的な物理トピックやデジタル化、手続き的および組織的なトピックを含む、さまざまな主要なトピックに関するプレゼンテーションやトレーニングを提供していま

す。これを踏まえて、2022年から存在している学習プラットフォームであるWAGO テックアカデミーは、すべての技術およびサステナビリティに関連するトピックのために2023年に開発を進める予定です。これにより、より多くの知識を社内浸透させることを目指しています。





明確なキャリアパス

WAGOは、従業員が成長したいと願う時に、そのための機会を提供します。従来の管理職としての責任に加え、プロジェクトごとの責任やテーマごとの責任など、キャリアアップへのチャンスもあります。早い段階で人材を見つけ、その人材を長期的に会社に残すために、さらなる開発の機会を見つけることをサポートします。例えば、マネジャーは有望な社員を2年間のプログラムに推薦することができます。順調であれば、彼らの可能性を評価するために構造化されたプロセスで最初の評価を確認します。合同ワークショップでは、人材開発部門の支援を受けながら、リーダーシップ、イノベーション、変更管理、ストレス管理などのテーマに取り組んでいます。ジュニアプロジェクトマネジメントプログラム(JPP)では、これらの有能な従業員は約12ヶ月後にプロジェクト管理スキルを拡張し、認定を受けることができます。

STEP FORWARDプログラムは、リーダーシップ、マネジメント、ビジネスをカバーするWAGOに特化した内容で、将来のマネージャーの未来を切り開きます。リーダーシップに関する理解を深めることに焦点が当てられています。

また、特別な人材育成プログラムを通じて、将来のマネージャーを自らのランクの中から促進し、国際的なレベルで育成することを目指しています。例えば、WAGO中国では、報告対象年の4年間のハイポテンシャル研修プログラムに22名の参加者が選ばれました。

WAGO KICKBOX — 内部からの革新

Kickboxでは、従業員が自分のアイデアを促進するために、構造化された革新とトレーニングプログラムを提供しています。すべての人に公開されており、トピックに制限はありません。参加者は12週間にわたって、起業家的な思考を実践して顧客の視点に立ったアイデアを開発、プロトタイプを顧客に試してもらい、最後に審査員に提出します。アイデアに可能性がある判断された場合、スタートアップ段階に入ります。関連部署や事業部門と共同でさらにテストを行い、ビジネスモデルとプロトタイプの両方を改善します。製品アイデアの目標はプロジェクトを市場に出すことですが、アイデアを実現するための訓練でもあります。成功したアイデアは、改良点を他の工程に拡大

したり、製品を大量生産するなど、使用領域を拡大する成長段階に移行します。

報告年度には、ドイツ、アジア、欧米の3つのグループによるKickboxラウンドが開催されました。Kickbox 2021から生まれた革新的な「WAGO 221シリーズフタタッチコネクタの環境配慮型製品」について33ページで詳しく紹介しています。



気持ちよく働くには安全であればこそー WAGOはその両方を目指します。

WAGOは従業員の安全を確保し、健康状態を保つようサポートします。中国およびインドの拠点では、ISO 45001の認証を受けた労働安全衛生マネジメントシステムを導入しています。その他の拠点では、労働安全衛生マネジメントもこの基準と現地の法的要件に基づいて行っています。そして私たちは特に予防の観点から、必要とされる基準を上回ることを目指します。ドイツ労働安全衛生委員会の月例会議に加えて、部署内の安全チームおよび労働安全の専門家との定期的な対面会議が開催されます。同様の委員会は世界中の弊社グループ会社に存在しますが、その正確な構成や会議の頻度、焦点となるトピックは、現地の状況に基づいています。WAGOの国際CS安全チームは主要生産拠点にも所属しており、すべての健康および安全に関するトピックについて常に情報を交換しています。従業員は、特定のサイトに対応する対策の導入に同行し、関連する問題についてサイトと部門の管理をサポートし、ベストプラクティスを共有します。

WAGOは2026年の生産戦略に基づき、安全文化の継続的な改善に努めています。私たちは、さらに相互に関連付けられた構造やツールを作り、提供することによって、これを達成したいと考えています。労働安全衛生には、経営陣や管理職、



従業員アンケートによると、98%の従業員が職場の労働安全は確保されていると考えています。

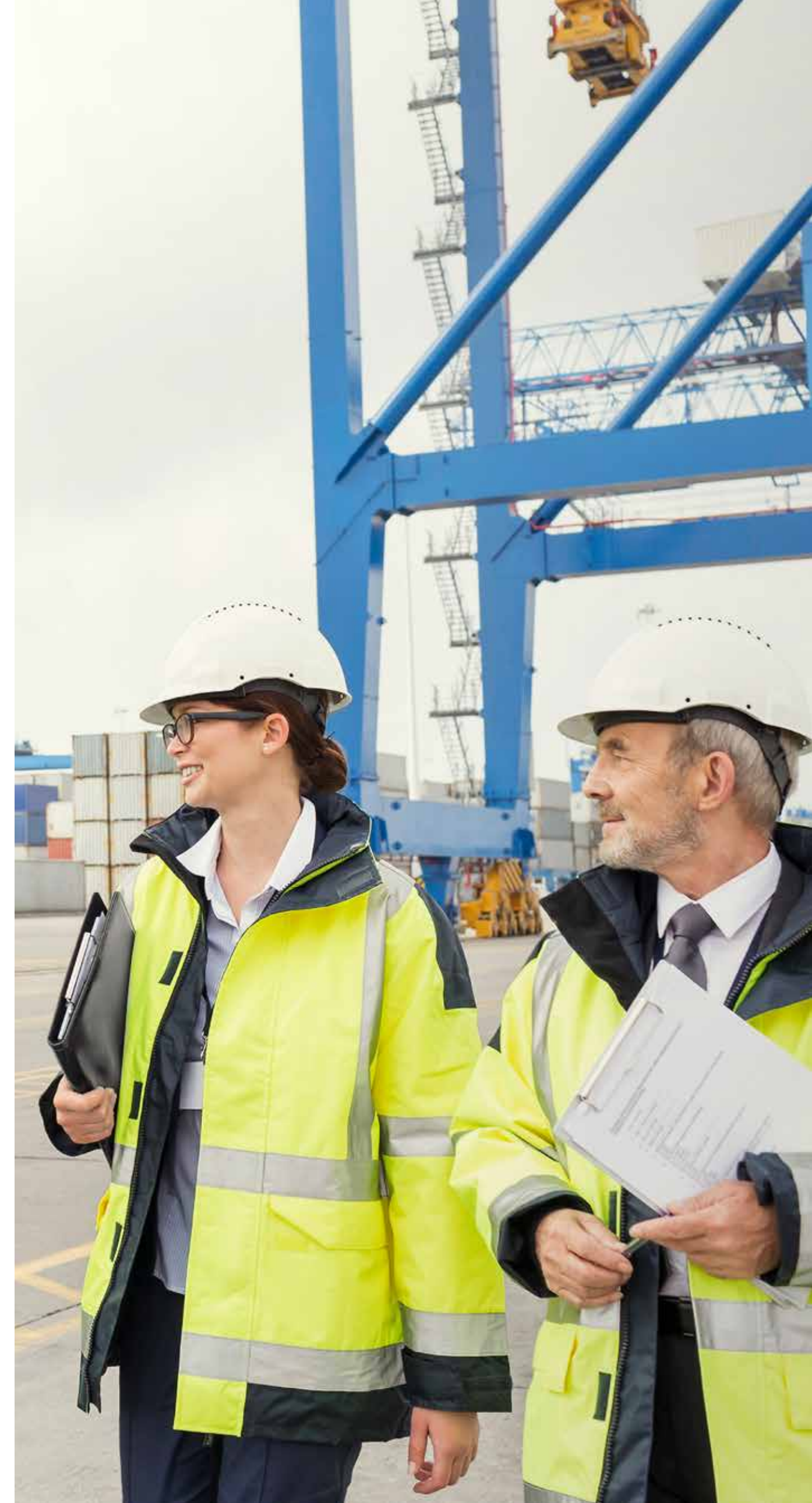
ひいては全従業員が正しい考え方を持つことも必要です。互いに見守り合いながら、安全に対する意識を高め、活発なフィードバックの文化を育むことを目標としています。これは「共に安全に」というスローガンにも表れています。

さまざまなトレーニングコース、特に安全コースはWAGOの従業員の意識を高めるために義務付けられており、当社の

デジタル・トレーニング・ツールでその実施状況を確認できます。この定期的な教育に加えて、雇用主責任保険協会や技術監視サービスのプロバイダーのような外部プロバイダーによる、特定の従業員に対する活動固有のトレーニングが追加されます。社内イントラネットや掲示板、職場の会議などを通じて、健康や安全に関する情報を共有しています。社内の調査「MyVoice」では、回答者の98 %が職場での労働安全は与えられていると回答しました。

»WAGOインドでは、従業員の健康に全力を注いでいます。私たちは何事においても安全を最優先に考えています。私たちの目標は「ゼロ災害」です。«

ラル・アビシェック, WAGOインド, EHS 部





事故の防止は最優先事項

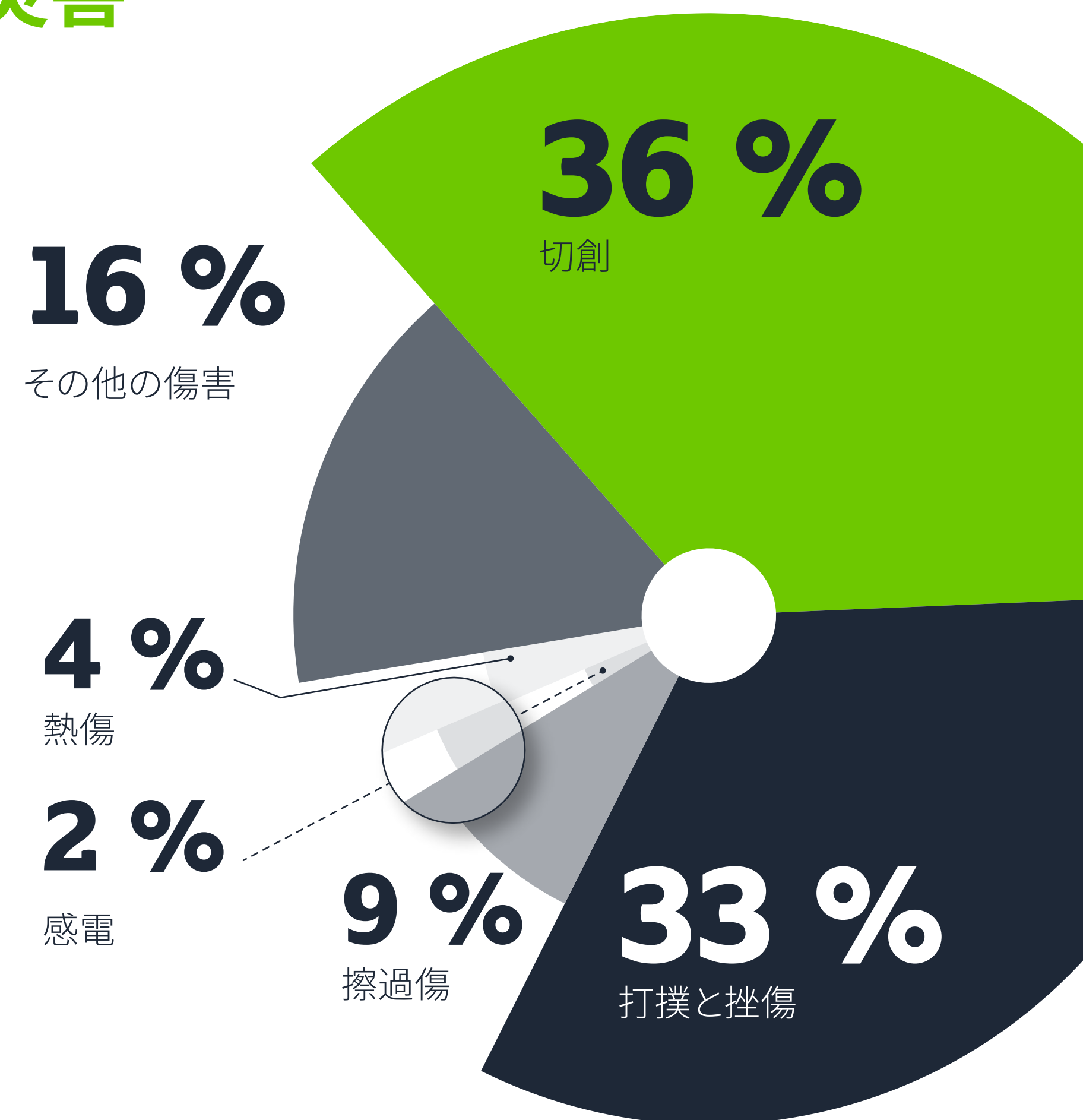
労働安全に関するルールは簡単。「事故は1件でも多すぎる」です。そのため、工場管理は「事故ゼロ。安全第一。」というビジョンを採用し、それを生産部門のミッションステートメントに据えました。私たちは安全な労働環境は基本的権利であると考えています。同時に、ヒューマンエラーは完全に避けられないこともあると認識しています。この2つの考えは、従業員が業務を遂行する際に可能な限り最善の保護を提供する際の私たちの行動の指針となっています。予防対策は特に重要です。これには、労働安全の専門家や関連部門の従業員による定期的な作業現場の検査が含まれており、潜在的な危険を早期に特定して排除します。また、従業員に対して、安全に関する懸念を結果を恐れずにオープンに公表し、上司と共有するよう明確に求めます。

今までの経験から、最善を尽くしても完全に事故を防ぐことはできません。そのため、今後同じような事故が起こらないようにするために、根本原因分析を慎重に行うことが、私た

ちの標準的な手順としてより重要になります。あらゆる事故は、たとえ最も小さなものであっても、事故記録に記録されなければならない、労働安全の専門家が評価し、それらすべてに従います。インシデントが発生するたびにアクションサイクルを回し、対策を講じる必要がある場合は、インパクト・モニタリングが最優先されます。報告対象年では、労働災害の95%弱が生産部門で発生しました。WAGOでは、機器の取り扱いにはデスクワークよりも高いリスクが伴うため、ここでは高度な要件が適用されます。そして、経営陣は模範を示す必要があります。徹底した作業指示が基本であり、危険作業には責任を持つ機器運用者が直接指示します。関連する取扱説明書および安全データシートを通して、危険物に触れる従業員は関連活動を開始する前に指導を受け、その後は毎年その指導を受けます。これには参加証明書の提出が義務付けられています。予防対策には、労働医学的健康診断もあります。特定の活動に対する健康およびフィットネスの要件が満たされていることを検証するために、リスク評価に基づいて実行されます。

報告年には世界で431件の労働災害が発生し、そのうち通勤災害は20%弱でした。100万労働時間に対するOHSALOSTAタイム・ケース率は4.4でした。

事故種類別 労働災害*



* 1つの事故から二次災害が発生する可能性があります。



GREENCANTEEN @ WAGO

健康的で持続可能な食品は、従業員の健康をサポートすることができます。ミンデンにある本社のレストランは、報告年にGreenCanteenのシール*を授与されました。WAGOは基準の86%を満たしており、認証に必要な基準値を明確に超えています。食肉および食肉製品はレベル3および4の養殖場でのみ調達され、魚および魚介類はMSCおよびASC認証を受けた資源からのみ調達されます。他の多くの製品に関しても、なるべく地産地消を目指します。有機食材の割合も20%に増加しました。

GreenCanteen 認証とは別に、同じ考えに基づいて、2022年春にミンデンとペピンハウゼンの社内レストランでRECUPとREBOWLのデポジット／返金システムを導入しました。従業員はリユース可能な食器をデポジットとして借りることができ、屋外や自宅で飲食物を楽しんだ後に返却することができます。

*GreenCanteenは、特に持続可能で将来を見据えた企業のためのEU認定マークです。



健康の増進と維持

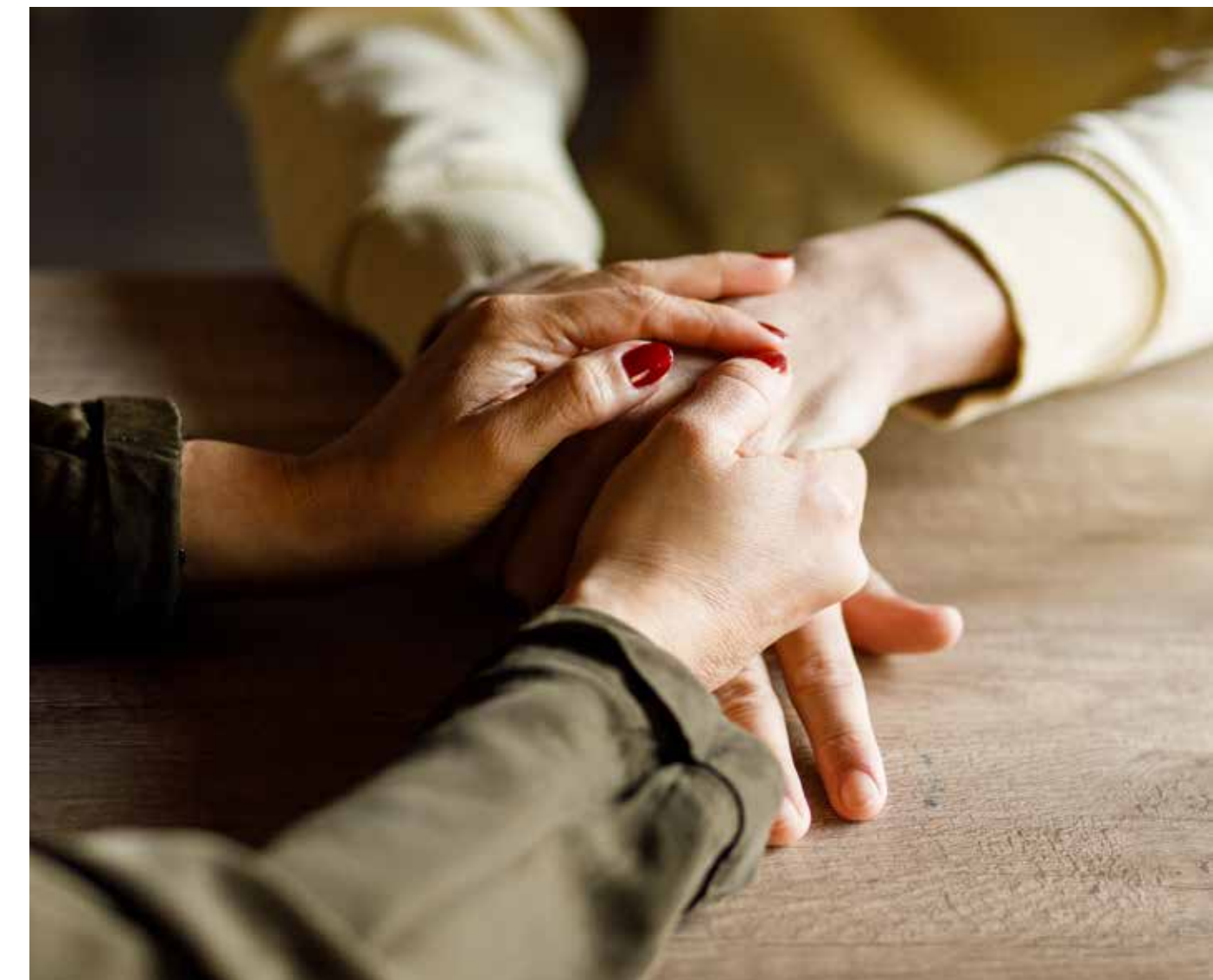
健康と生産性の維持はWAGOにとって重要なことであり、従業員の健康を促したり、健康上の問題を防ぐために幅広い対策を取ります。全国の企業や事業所によって異なりますが、私たちの会社の健康管理では、医療相談時間や産業医による健康診断、インフルエンザの予防接種などを実施しています。ドイツでは、安全なオフィスワークや精神的ストレスの認識と対処に関する研修は、研修ツールを通じて受けることができ、特定の従業員グループに直接割り当てられます。さらに、「アクティブブレイク」のような事業所独自の参加キャンペーンを定期的 to 実施し、社内スポーツグループやその他の運動イベントを常設しています。2022年のその他の国際的な

プロジェクトやキャンペーンには、スイスでの背中を保護するためのリフト補助具のテストと導入、ポーランドでのより健康的なカフェテリアの提供、ドイツでの人間工学に基づく作業対策などがあります。ドイツでの人間工学に基づく作業対策として、HUMANOOヘルスアプリを使用して、デジタルヘルスのサポートを拡大しました。



メンタルヘルスケア

従業員調査の一環として、法的な要件に従って心理的リスク評価を行い、心理的ストレス要因が職場に存在するかどうか、存在する場合はどのような要因であるかを特定します。それとは別に、従業員のメンタルヘルスにも注意を払っています。従業員の状態を把握し、あらゆる面で健康的な職場環境を作ることが重要だからです。例えば、中国の当社社員は212名の社員を対象に調査を行い、どの社員グループが特にストレスを受けているか把握しました。従業員はもちろん、その家族も従業員支援プログラムを利用することができます。職場でのストレス、家族の問題、健康問題などの問題に関して、社外からの秘密厳守のサポートや適格なアドバイスを提供しています。ドイツでは、従業員は匿名で依存症のカウンセリングをリクエストできます。



WAGOは東ヴェストファーレン＝リッペ地域のさまざまな企業の衛生管理者を集めたワーキンググループに参加しており、他の企業の経験から学び、さらなる改善のためのアイデアを得ることができています。私たちはこのワーキンググループに参加し、最新の健康トピックについて意見を交換し、各社の事例を共有しています。

社内の健康レポートでは、WAGOにおける病気の発生を記録し、例えば会社全体または各部門におけるストレスの原因を特定します。ここでも第一の目標は、原因を特定し、従業員の最善の利益のためにタイムリーで効果的な対策を取ることです。もちろん、調査結果を処理する際にはデータ保護を優先するため、従業員個人についてのデータを出すことはしません。



08 GRI インデックス

GRI インデックス

GRI 2:一般開示事項 2021

指標	開示	参照	備考
組織とその報告慣行			
2-1	組織の詳細	P. 8 f.	組織の名称：WAGO GmbH & Co. KG
2-2	組織のサステナビリティ報告の対象となる事業体	P. 8	－
2-3	報告期間、報告頻度、連絡先	－	本報告書は、2022年度（2022-01-01～2022-12-31）を対象とし、2023-09-01に掲載されました。WAGOは毎年サステナビリティ活動について報告しています。サステナビリティ部門への問い合わせ：sustainability@wago.com
2-4	情報の修正・訂正記述	－	レポートには、前年と比較した修正や情報の修正は含まれていません。
2-5	外部保証	－	サステナビリティレポートは外部から保証されたものではありません。
活動と従業員			
2-6	活動、バリューチェーン、その他の取引関係	P. 5 ff.	前回のレポートと比較して、活動、バリューチェーン、取引関係に大きな変化はありませんでした。
2-7	従業員	P. 60 f.	WAGOは労働時間保証のない労働者を雇用しません。本レポートにおける従業員数は、報告期間末時点の人数が記載されています。
2-8	正社員以外の従業員	P. 61	当社は定期的に派遣労働者を雇用しています。被雇用者は通常、当社の正社員と同じか類似の業務を行います。報告対象年における派遣労働者の割合は9%でした。

GRI 2:一般開示事項 2021

指標	開示	参照	備考
ガバナンス			
2-9	ガバナンスの構造と構成	P. 20	WAGOには諮問委員会レベルの委員会はありません。
2-10	最高統治機関の指名および選択	－	このインジケータ－は現在レポートに含まれていません。
2-11	最高統治機関の議長	－	諮問委員会の議長は、同時にWAGOの役員ではありません。
2-12	影響管理の監督における最高統治機関の役割	P. 17, 19 f.	－
2-13	影響の管理に関する責任の委任	P. 17 f.	－
2-14	持続可能性報告における最高の統治機関の役割	P. 20	CEOとCHROは、サステナビリティレポートが発行される前に、このレポートを承認済です。
2-15	利益相反	－	利益相反の防止は、当社の行動規範に準拠しています。
2-16	重大な懸念事項の伝達	－	内部監査部門は、報告期間中に重要な懸念事項が取締役会に通知されたことを認識していません。
2-17	最高の統治機関の集会的知識	P. 20	－
2-18	最高統治機関の能力の評価	P. 21	－
2-19	報酬に関する方針	P. 21	－
2-20	報酬を決定するプロセス	P. 21	－
2-21	年間総報酬率	－	このインジケータ－は現在レポートに含まれていません。



GRI 2:一般開示事項 2021

指標	開示	参照	備考
戦略、ポリシー、プラクティス			
2-22	持続可能な開発戦略に関する声明	P. 3	－
2-23	ポリシーのコミットメント	P. 16, 24 f.	－
2-24	ポリシーのコミットメントの埋め込み	P. 13, 17 f., 21, 24, 26, 30 f., 42, 64	－
2-25	マイナスの影響を是正するプロセス	P. 24 ff.	－
2-26	相談及び懸念提起の仕組み	P. 24 f.	－
2-27	法令の遵守	－	内部監査部門は、報告期間において重大な法令違反は無かったと報告しています。
2-28	会員制団体	P. 15, 24, 31	－
利害関係者の関与			
2-29	ステークホルダー・エンゲージメントへのアプローチ	P. 15, 17 f., 54	－
2-30	労働協約	P. 59	－

GRI 3:2021年の材料関連トピックス

指標	開示	参照	備考
3-1	重要なトピックの決定プロセス	P. 14 f.	－
3-2	重要なトピックのリスト	P. 14	－

責任とコンプライアンス

指標	開示	参照	備考
コンプライアンス (GRI205:反汚職2016、GRI206:反競争行動2016)			
3-3	重要なトピックの管理	P. 24 f.	－
205-1	破損に関連するリスクについて評価されたオペレーション	－	個々のサイトの破損リスクに対する個別の評価は実行されていません。
205-2	腐敗防止のポリシーと手順に関するコミュニケーションとトレーニング	P. 24	従業員のカテゴリ別および地域別の腐敗防止研修の内訳は、現在のところ不明です。諮問委員会のメンバー全員に腐敗防止の方針が伝えられました。
205-3	不正な行為や行われた行為を確認	P. 25	－
206-1	反競争的行動、反トラスト、独占的慣行に対する法的措置	P. 25	－
持続可能なサプライチェーン (GRI 308:サプライヤ環境アセスメント2016、GRI 414:サプライヤ社会アセスメント2016)			
3-3	重要なトピックの管理	P. 26 ff.	－
308-1	環境基準を使用してスクリーニングされた新しい販売代理店	P. 28	－
414-1	社会的基準に照らしてチェックされた新しい販売代理店	P. 28	－
414-2	サプライチェーンへの負の社会的影響と取られた行動	P. 28	－



循環経済				気候変動への取り組み			
指標	開示	参照	備考	指標	開示	参照	備考
材料(GRI 301:材料2016)				エネルギー(GRI 302: Energy 2016)			
3-3	重要なトピックの管理	P. 30 ff.	－	3-3	重要なトピックの管理	P. 49 ff.	－
301-1	重量または体積で使用される材料	P. 32	－	302-1	組織内のエネルギー消費	P. 50	－
301-2	リサイクルされた原料を使用	P. 33 f.	－	排出(GRI305:2016年の排出)			
水(GRI 303:水と廃水2018)				3-3	重要なトピックの管理	P. 42 ff.	－
3-3	重要なトピックの管理	P. 38	－	305-1	直接（スコープ1）GHG排出	P. 43, 45	10,080 t
303-1	共有資源としての水との相互作用	P. 38	－	305-2	間接的エネルギー（スコープ2）GHG排出	P. 43, 45	25,463 t
303-5	水の消費量	P. 38	－	305-3	その他の間接的（スコープ3）GHG排出	P. 47	現在までに、スコープ3排出量はスイスのみのパイロットプロジェクトの一環として収集/公表されています。
廃棄物(GRI306:廃棄物2020)				305-4	GHG排出強度	P. 45	－
3-3	重要なトピックの管理	P. 30 ff.	－				
306-1	廃棄物発生と廃棄物に伴う重大な影響	P. 32, 36 f.	－				
306-2	廃棄物による重大な影響の管理	P. 30, 33 ff.	－				
306-3	発生した廃棄物	P. 36	－				

健康と健康

指標	開示	参照	備考
採用側の魅力 (GRI401:雇用2016)			
3-3	重要なトピックの管理	P. 59, 62 f.	－
401-1	新しい従業員の採用と離職	P. 61	報告年には、世界中で1,056名の新しい従業員が雇用されました。 1,046人の従業員が会社を辞めました。この数字には、インターン、共同研修プログラムからの研修生、派遣社員および社内異動は含まれていません。臨時社員は新入社員としてカウントされます。
401-3	育児休暇	P. 61	現在、このインジケータで報告されているのは、育児休暇を取得した従業員の総数（性別で分類）のみです。
労働安全衛生 (GRI 403:労働安全衛生2018)			
3-3	重要なトピックの管理	P. 70 ff.	－
403-1	労働安全衛生マネジメントシステム	P. 70	－
403-2	危険度識別、リスク評価、およびインシデント調査	P. 70 f.	－
403-3	労働衛生サービス	P. 70 ff.	－
403-4	労働安全衛生に関する労働者の参加、相談およびコミュニケーション	P. 70 ff.	－
403-5	労働安全衛生に関する労働者訓練	P. 70 ff.	－
403-6	労働者の健康の増進	P. 72 f.	－

健康と健康

指標	開示	参照	備考
403-9	労働災害	P. 71	報告対象年に業務関連外傷による死亡はありませんでした。 WAGOの従業員は全世界で9,152,395時間働いています。
トレーニングと継続教育 (GRI 404:トレーニングと教育2016)			
3-3	重要なトピックの管理	P. 67 ff.	－
404-1	従業員1人あたりの年間平均トレーニング時間	P. 68	性別によるトレーニングと継続教育の時間の内訳は現在は不明です。
404-2	従業員スキルを向上させるためのプログラムおよび移行支援プログラム	P. 67 ff.	－
多様性と機会均等 (GRI 405:多様性と機会均等2016)			
3-3	重要なトピックの管理	P. 64 ff.	－
405-1	多様なガバナンス組織と従業員	P. 65 f.	－

WAGOは2022年1月1日～2022年12月31日の期間につき、GRI規格に従って報告しました。



法的情報

発行者

WAGO GmbH & Co. KG
Hansastraße 27
D-32423 Minden

Phone: +49 571 887 - 0
Email: info.de@wago.com
www.wago.co.jp

問合せ先

コーポレートサステナビリティ担当
sustainability@wago.com

編集者

segmenta communications GmbH,
Hamburg
www.segmenta.de

著作権

全ての著作権は WAGO GmbH & Co. KG. に帰属します。WAGOの書面による同意がない限り、個々のグラフィック、画像、テキストを含む複製または再印刷は許可されません。

免責事項

この報告書に記載された全ての情報の収集および処理には最大の注意を払っていますが、誤記を完全に除外することはできません。将来の見通しに関する記述はすべて、発行時点の仮定および推定に基づいています。

